

特 16
101

國際私法二百題目次

第一編 總則

第二編 人事

第一章 國民分限

第二章 住居

第三章 身分及能力

第四章 親子分限

第五章 后見

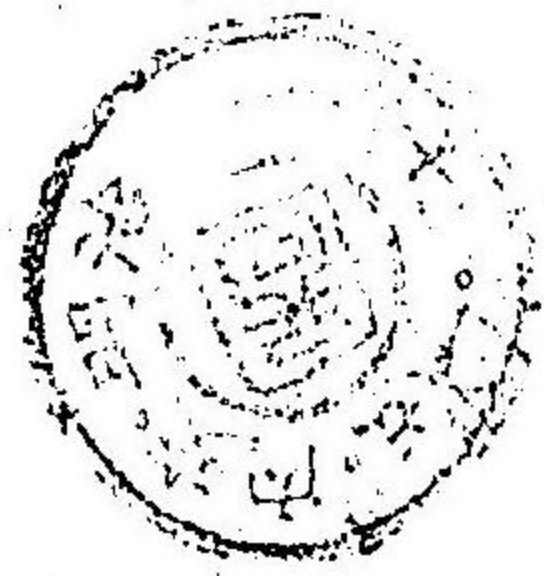
第六章 婚姻

第七章 自治產禁治產準禁治產

第八章 失踪

第三編 財產

第二章 不動產



一	一
廿一	廿一頁
廿六	廿六頁
五十四	五十四頁
七十八	七十八頁
九十三	九十三頁
百	百頁
百一十一	百一十一頁
百二十七	百二十七頁
百三十一	百三十一頁
百三十三	百三十三頁
百三十七	百三十七頁
一	一頁

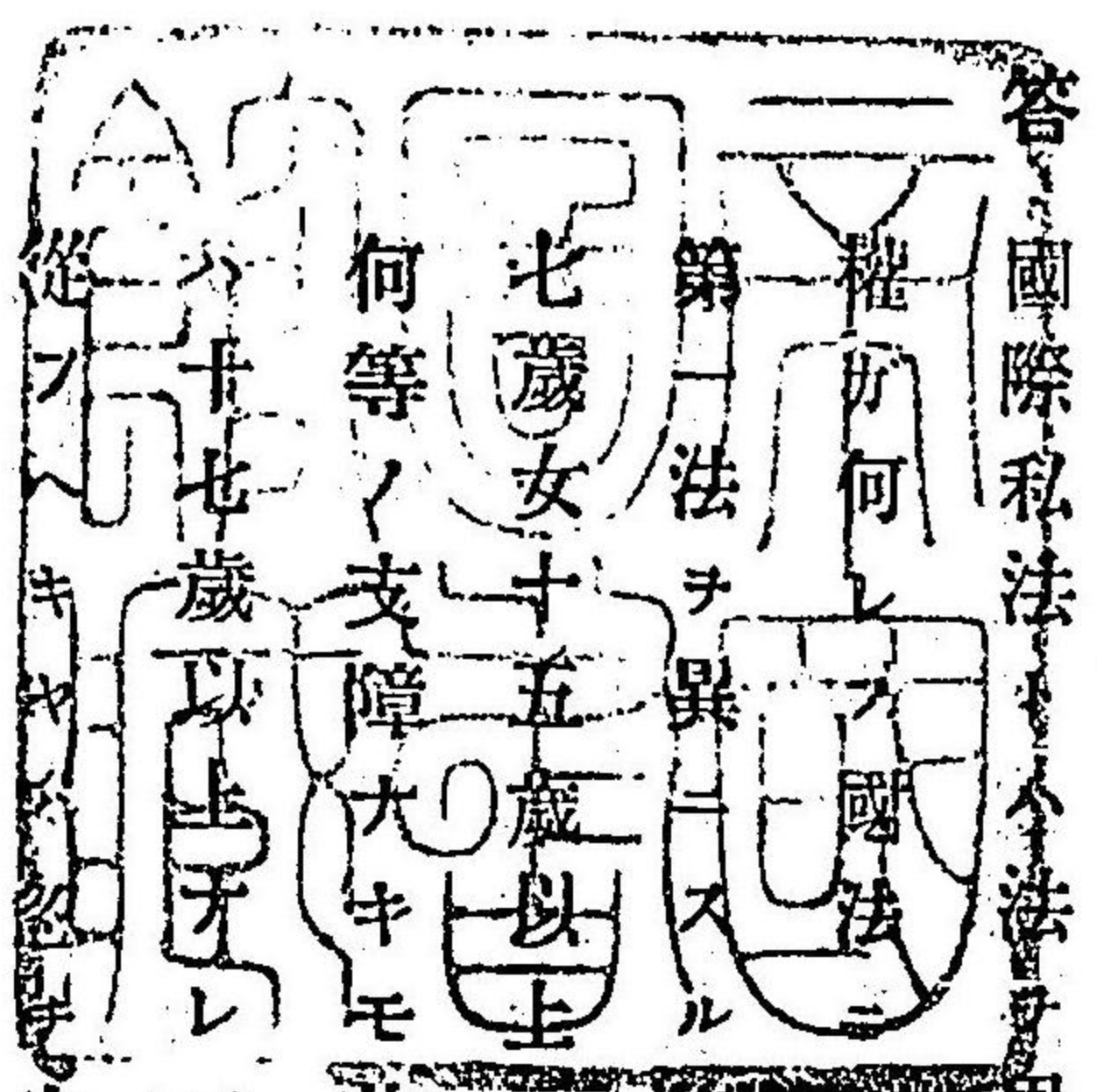
第二章	動産	百四十一頁
第三章	相續及遺贈	百四十七頁
第四章	契約義務及合意	百五十二頁
第五章	信用證券	百七十一頁
第四編	訴訟法	百八十二頁

國際私法二百題

第一編 總則

古澤鶴松著述

問 國際私法トハ何ソヤ



答 國際私法ハ民法刑法訴訟法ニ異ニスルニテ以上ノ國ノ私權ノ交渉ニ於テ各私權カ何レノ國法ニ從ハサル可キヤヲ判定スル準則也トス

第一法ヲ異ニスル場合ナルヲ要ス茲ニ甲乙兩國共ニ婚姻ハ男十七歲女十五歲以上トノ規定アル片ハ此男女ノ婚姻ハ有効ニシテ敢テ何等ノ支障大キモ若シ甲國法ハ男二十歲以上ヲ要ストナシ乙國法ハ十七歲以上ヲ要スレバ可也トセバ右ノ甲乙國ノ男女ハ何レノ國法ニ從フキヤハ依テ生スル所ノ問題ナリ依テ國際私法ノ準則ハ人ノ身分及ヒ能力ハ本國法ニ從フトアルヨリ見レハ甲國ノ男ハ二十歲ヲ要スルニ十七歲ニテ婚姻セシハ甲ノ本國法ノ許サ、ル所也即チ此婚姻人無効トナル可キ也又女ヨリ見ルモ婚姻不能力ナル男子ヲ

夫トナシ居ルハ自己ニ不利益ナルヤ多言ヲ俟タサル也
 第二ニケ以上ノ國ノ間ニ起リタル私權ノ交渉ナルヲ故ニ合衆國ノ
 如キ各州法ヲ異ニシタリトテ國際私法ノ問題起ラサル也是レ國際
 私法ナルモノハ自國民ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シテ適用スル準則
 ナレバ合衆國ノ如キハ如何ニ法ヲ異ニスルモ主權者同一ナルヲ以
 テ本法ノ用ヲ生セサルナリ

第三私權ノ交渉ナルヲ一方若シ公權ナランニハ國際公法ノ管轄ニ
 ノ本法ノ關スル所ニアラス已ニ双方私權ナル以上ハ己人ノミニ限
 ラス法人即チ會社々團ハ勿論國ノ私權ニテモ本法ノ管内ニアリト
 ス元來國ノ主權ハ施政ニ關スルキハ公權ニシテ理財ニ關スルキハ私
 權ナルヲ以テ甲國已人ト乙國々有ノ私權ト交渉ヲ生スルキハ本法
 ノ管轄スヘキモノ也尤モ之ヨリ轉シ公權ニ入ルキハ本法ハ用ナキ
 ナリ故ニ其瞬間ニ於テ國際私法ハ直ニ公法ニ事件ヲ送付スヘシ

問 國際私法ハ云々何レノ國法ニ從フヘキヤヲ定ムル準則也トアル準
 則トハ何ソヤ

答 準則トハ一定ノ標準規則ト云フノ義ニシテ列國皆標準ヲ一途ニ取リ
 タル現象ヲナシ居ルヲ以テ之ヲ標準トナシタレバ列國ハ自衛上必
 シモ之ニ擬作スルノ義務アルニアラス只一定ノ標準ニ歸シ居ル片
 ハ便宜上當テ得ル迄也元來國際私法ナルモノハ自國民ヲ保護スル
 爲メ外國人ニ對シテ適用スルモノニシテ外國人ノ爲メニ設ケタル規定
 ニアラス即チ國外私法ナルヲ以テ外人ノ權利關係ハ何國ノ法律ニ
 從フヘキモノナルゾヨト確定シ國內人ニ知ラシメ此ト交渉スル内
 國人ヲ導クモノナリ決シテ國際私法ナルモノハ外國ニ誤スル爲メ外
 國法ヲ我邦内ニ布クモノニアラサル也

問 國際私法トハ國際間ノ私法ト解シテ可然ヤ

答 國際間ノ私法トスルキハ兩國ノ有スル私權ノ交渉也即チ國ナル法

人が理財上有スル權利ノ交渉ト云フ義也尤モ國ノ有スル私權モ國際私法ノ目的タルヲ得ルモ本法ハ主トシテ兩國私人ノ有スル私權ノ交渉ニ於テ各其宜キニ處スルノ準則也去レハ國際私法ノ名稱ハ國際公法ニ對シシメンガ爲メニ設ケタルモノナランガ其旨趣ハ國際公法トハ甚々異ナルモノ也即チ國際公法ノ如キ國ト國トノ交渉ニ於テ上ニ裁斷者ナキモノニハアラサル也去レハ國際私法ハ國際ノ私權ノミニハ限ラサルヲ以テ異國私權處分法ト云フヘキナリ

問 國際私法ノ必要如何

答 內國人相互間ニ事生スルヤ之ヲ裁斷スルハ民法商法其他ノ特別私法也國ノ公權相互間又ハ一國ト他國私人トノ間ニ事生スルヤ之ヲ裁斷スルハ國際公法也一國私權相互又一國私權ト他國私人ト又ハ兩國私人相互間ニ事生スルヤ之ヲ裁斷スルハ國際私法也例ハ甲乙兩國人ガ私通拳兒婚姻離婚又ハ契約ヲナスガ如キニ當リ万国法律

皆一様地球上ニ立法者ノ手ニナルニ於テハ右諸多ノ事項ハ悉ク判明ニ敢テ國際私法ノ要ナキモ奈何セン各國ケ々風土人情皆慣開不開ノ速度開國ノ早晚加之万国立法者ヲ異ニセルヨリ規画一ヲ期ス可カラズ甲國ノ婚姻必シモ乙國ニ有効ナラス乙國ノ離婚又必シモ甲法ニ適セス遂ニ甲國男子乙國女子ノ婚姻ハ甲國ニハ不成立トナリ乙國ニ於テハ夫婦ノ關係ヲ生スルガ如キ誠ニ國際私法ノ有ルアリテ之ヲ判斷セサル可カラサルノ止ムヲ得サルヲ致ス况ヤ我國ノ如キ漸々雜居ノ域ニ進ミツハアルチャ

問 國際私法ノ準則ヲ畧述セヨ

答 夫レ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メ外人ニ對シテ適用スル私法也自國民ヲ保護スルノ法律ハ各國風土氣候人情等ニヨリ異ナルヲハ怪ムニ足ラサル也從テ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シテ適用スル法規ヲ異ニスルハ亦止ムヲ得サル也然ルヲ強テ一世界同一法規

ヲ適用セントナサンカ文明甲國ニ適スルモノハ半開乙國ニ不適當也熱國ニ適スルモノハ寒國ニ不適當也去レハ万国皆一規ナルヲハ望ム可クノ行ハサルヲ也然レモ現今稍同一準則ナルモノヲ列舉セハ大約左ノ如シ

第一人ノ身分能力親族ノ關係其關係ヨリ生スル權利義務ハ其人ノ本國法ニ從フ但シ公ノ秩序ニ關スルモノ又ハ善良ノ風俗ヲ害スルモノハ所在地ニ効ヲ有セス夫レ人ノ世ニ處スルヤ身權上ニ財產權上ニ營理スルモノニ身權ノ貴重ナルヲハ財產權ノ比ニアラサルヲ固ヨリ言テ俟ス此身權ヲ十分發達セシメンニハ主權者ノ完全ナル法律ノ保護ヲ受ケサル可カラズ此法律ハ自己ノ最モ信愛セル主權者ノ布行セル法律ニ服從セントテ希望スルハ吾人ノ常体ニシテ世界万人皆然ラサル人ナシ是レ本號ノ權利義務者ハ自國ノ本國法ニ從フト規定シ人心ニ適セシメ此ト交渉スル本邦人ニ利益ヲ與ヘシ也

去レハ本號人ノ身分能力云々ノ人ナル文字ハ外國人ヲ指セシモノニシテ決シテ本邦人ノ能力ヲ本邦法ニ從ハシムルコトヲ外人ニ知ラシムル法規ニハ非サル也夫レ如此ニシテ各國標準ヲ一ニセハ相互共ニ宜シキヲ得可キ也右ノ規定ハ外人ニ諷シテ外人ノ爲メ利益ヲ計ルヲ主タル目的トスルモノニアラス外人ノ爲メニハ其外國法が極メテ適當ナルニ之ヲ強テ屬地主義ニヨリ本邦法ニ從ハシメントセハ其外人ニ不利益ナルヨリ此ト取引スル本邦人ハ大ニ損害ヲ被ルルニ至ラン是レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メ外人ノ依ルヘキ法律ヲ指定スルモノ也ト云フ所以也而テ外人ノ本國法トシテ本邦ノ公ノ秩序ヲ害スルモノハ本邦ニ及ホスコトテ得ス若シ然ラザランニハ本邦人ヲ保護スルコト能ハサレハ也

第二動產不動產ハ所在地法ニ從フ動產不動產ハ人ノ世ニ處スルニ身權ニ亞ク所ノ必要ナル權利ノ目的物ニシテ所謂財產權ノ目的物也

故ニ主權ノ法律ノ保護ニヨラスンハ此權利ノ伸張ヲ計ルテ能ハザル也而テ其法律タルヤ自己ノ最モ親愛スル法律即チ自己本國法ニ依ルヲ希望スルハ吾人ノ常体也去レハ何レノ國ニ行クモ自己ノ動産不動産ハ本國法即チ屬人主義ヲコソ望ムヘキナレバ此ノ如クニスルキハ所在國ノ公益ヲ害シ殊ニ不動産ハ邦土ノ一部ヲナスヲ以テ公益ニ關スル甚シキヨリ一般ニ屬地主義ヲ取レリ乃チ外國人ノ意ニ反シテモ本邦人ヲ保護スル爲メ屬地主義ヲ取レリ此點ニヨリ見ルモ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メ外人ニ對スル法律ヲ指定スルモノナルヲ明也外人モ之ヲ豫期シ財産ヲ他國ニ有スヘキナリ第三遺産ハ死者ノ本國法ニ從フ、遺産相續ニヨリ所有權移轉ノ一事ハ屬人主義ニヨルモ殊ニ害ナキヲ以テ本國法ニ從ハシメタリ第四契約ハ合意地法ニ從フ、契約ノ部ニ詳述スヘシ第五訴訟法ハ訴訟地法ニ從フ、訴訟法ハ受訴裁判所々在地ノ公法也

故ニ屬人主義ヲ以テスルキハ公益ヲ害スルニ至ル右等ノ他尙ホ要式合意、證書ノ作製等ニ關スル準則アレバ理由前全一ナレバ其部ニ至リ詳述スヘシ又國民分限ハ強要セズニケ以上ノ國民分限ヲ有ス可カラス等ノ準則モアレバ是亦國民分限ノ部ニ詳述セン

問 國際私法ハ公法ナリヤ私法ナリヤ

答 國際私法ハニケ以上ノ國人ノ私權ノ交渉ニ於テ何レノ國法ニ從フヘキヤヲ判斷スルノ準則也又國際私法ハ國ガ國民ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シテ適用スルノ法規也釋言セハ主權者ガ自國人ニ對シ外人ニ關スル法律ハ云々ナルヲ以テ其心得ニテ交渉スヘキヲ命シタル法律也故ニ國民ハ之ニ服從セサル可カラス凡ソ私法ナルモノハ其性質トシテ私人ガ其規定ニ依ラス他ノ途ヲ取ルヲ得ルモノ也然ルニ國際私法ハ取捨ノ權能ヲ有セス人ノ身分能力ハ本國法ニ從

ヲトノ規定ハ之ニ反スルコトヲ得ス動産不動産所在地法ニ從フモ
 ノ規定モ之ニ反スルコトヲ得ス尙ホ解言セハ婚姻能力ハ本國法ニ從
 フヘキハ外人ハ本國法ガ十七才ナラザレハ婚姻ヲ許ササルニ所在
 地ガ十五才ニテ可ナリトテ之ニ從フモ婚姻ハ不成立也夫レ如此國
 際私法ハ取捨ヲ許サハルヨリ見レバ誠ニ公法也ト云ハサル可カラ
 ス

問 國際私法ノ存在如何

答 國際私法ハ主權者ガ吾人ヲ保護センカ爲ニ外國人權利關係ヲ規定
 スルノ法規也即チ内國人ヲ保護スル目的ヲ以テ外人ニ對シ適用ス
 ル法規也去レバ内國人ヲ保護スル法律タルニ外ナラス夫レ己ニ内
 國人ヲ保護ス法律タル以上ハ成文アレ習慣ニアレ條理ニアレ存在
 スルコト明也凡ソ法律ナルモノハ主權者ノ認許スル所ノモノニシテ強
 制力ヲ有スルモノ也夫レ國際私法ナルモノハ主權者ガ自國民ヲ保

護スル爲メ外人ニ對シ適用スル法律ナル以上ハ主權者ハ必ス認許
 シ居ルニ相違ナシ又強制力アリヤヲ見ニ強制力トハ積極有形力
 ナノミ指スニアラス反之ハ無効ナリトシ制裁アレバ是レ亦強制力
 タルニハ相違ナシ依之看之國際私法ナルモノハ成文習慣條理ノ中
 ニ存スルコト誠ニ明也

問 國市町村ハ國際私法ノ關係ニ立ツテ得ルヤ

答 國際私法ハ兩國私權ノ交渉ニ於テ何レノ國法ニ從フヘキヤヲ判定
 スルノ指南律也夫レ然リ然ラハ私權デサヘアレバ其私權ノ所有者
 ハ有形人無形人トハ毫モ問フ所ニアラス國市町村ハ無形人也法律
 上ノ人也公共的ノ人格也公ノ法人也即チ國民市民町村民公國利
 益ノ爲メニ權利義務ヲ有スルノ人也此權利義務ハ施政上下及ヒ理
 財上ニ之ヲ有ス施政上有スルモノハ公ノ權利義務ニシテ理財上ニ有
 スルモノハ私ノ權利義務也去レバ公法法人ナル國市町村ハ一手ニ

公私二様ノ權利義務ヲ有ス公ノ權利義務ハ施政上ニ活動シ私ノ權利義務ハ理財上ニ活動ス例ハ國市町村ガ政權ヲ執行スルハ施政ニ屬シ公ノ權利也國ガ鐵道ヲ以テ旅客貨物ヲ運搬スルハ理財ニ屬シ私ノ權利也即チ國ナル法人ガ遞信鐵道局ナル營業店ヲ設ケ運送業ヲナスモノニ私權利也此私權利行用ノ結果旅客荷物ニ損害ヲ負ハシメタルキハ賠償ノ義務ヲ負擔ス則チ私ノ義務也又國ガ他國ト開戦スルハ施政ニ屬シ公ノ權利也此公權執行ノ爲メ敗戦ノ結果償金支拂ノ義務ヲ負擔ス是レ施政ニ屬シ公ノ義務也此義務履行ノ爲メ國帑貧乏支辨ニ堪ヘス國民ニ負債ヲ起ス是レ施政ニ關シ公義務也此國ハ内外ニ對シ公義務ヲ負フ理財上ノ權利ヲ敏活運轉急遽回轉ヲ計ラサル可カラス又市町村ノ負擔ニ關スル租稅支拂ノ義務ハ施政ニ關シ公義務也市町村土地家屋ヲ所有シ之ニ收益スル人理財ニ屬シ私權利也依之看之國市町村ガ有スル權利義務ノ目的ガ治權ノ

運用ニアルキハ公也理財ノ運用ニアルキハ私也是レ恰モ吾人が租稅ヲ支辨スルハ公義務ニシテ衣食薪炭費ヲ支辨スルハ私義務ナルト一般也去レハ國市町村モ私權利ヲ以テ外人ノ私權利ト交渉スルキハ本法ノ用ヲ生スル誠ニ了然ナリ例ハ乙國商船ガ成規ニ反シ左ニ綠燈右ニ紅燈ヲ點シ航海中甲國軍艦ト衝突シ甲艦ニ損害ヲ與ヘタリ是レ乙國私船即チ私權ガ甲國行政權ニ損害ヲ與ヘタルモノニ乙國私權ト甲國公權トヲ交渉ナレバ國際私法ノ關スル所ニアラスソ國際公法ノ問題ナリトス何トナレハ甲國軍艦ニ損害ヲ受ケタルハ施政ニ關シ賠償ヲ求ムルモノニシテ公ノ權利ナレハ也又乙國商船會社ハ自己ノ過失ニヨリ甲國公權ヲ害シタルモノニシテ賠償スルハ自己一己ノ理財ノ爲メナレハ一ノ私義務也トス

問 國際私法ニ於テハ屬地主義ヲ以テ原則トナスヤ將タ屬人主義ヲ以テ原則トナスヤ

答 主權者が治權ヲ行フ目的物ハ人也

主權者が治權ヲ行フ手段ハ法律也

主權者が治權ヲ行フ場所ハ己レノ邦土也

主權者ハ己レノ邦土内ニ於テ法律ヲ以テ人ニ對シテ治權ヲ行フモノ也人ハ主權者ノ邦土ニ於テ法律ニ依テ主權者ニ服役スルモノ也主權者ハ己レノ邦土ニアル己レノ人ヲ治センコトヲ希ヒ人ハ己レノ主權者ニ治セラレ己レノ主權者ノ法律ニ服從センコトヲ希フ

主權者ハ邦土ヲ治ムルカ邦人ヲ治ムルカ人カ其邦土ノ上ニ生レ其邦土ノ國民トシテ棲息スルモノハ其主權者ノ手ニ治セラレンコトヲ希フノ理由ヨリ主權者ハ主トシ自己ノ國民ヲ治センコトヲ欲スル所以也誠ニ屬人主義ノ重シキ原因也

然ルニ人ハ一國ニ生レ一國ニ生活シ一國ノ版圖ヲ出ラサルモノナルニ於テハ本法ハ用ヒ生セス從テ本國ノ用モノナキ也然レモ人ハ決

シ此ノ如キモノニ非ス或ハ他國ニ永住シ或ハ一時居住シ或ハ旅行スル等種々ノ移動ヨリ他國人トノ間ニ權利關係ヲ生出ス誠ニ本國ノ生スル原由ナリ夫レ吾人ハ自己ノ生育セシ自己ノ國民分限ヲ有セル自己ノ本籍地ナル自己ノ主權者ノ法律ニ從フヨリ他ノ主權者ノ法律ニ從フコトハ好マシカラサルコトハ確定不拔ノ推測ニシテ能ク吾人ノ意思ニ適セリ充分ナル反證アラズンハ此推測ヲ破却スルコト能ハス例ハ甲國ニ生ル、モ乙國ニ歸化シ甲國民分限ヲ破却スルガ如キ本國法ヲ不適當トスルノ徵候アラサル限リハ本國法ハ吾人ニ適切ニシテ動サル也去レバ倒ル所ニ吾人ハ自己ノ本國法ヲ背負テ移轉スルハ吾人ノ真情也ト論斷セサル可カラス然レモ邦國主權者ハ外人ガ外國ノ法律ヲ背負ヒ來ルコトハ認め居レモ背負來ル法律ガ自國ノ公益ヲ害スルニ於テハ其點丈ハ之ヲ謝絶セサル可カラス主權者ハ言ハシ貴公等ハ貴國ノ法律ヲ愛慕シ我國迄モ皆負ヒ來ルモ或ル

事項ニ付テハ貴國法ハ我國ノ公益ヲ害スルヲ以テ其點ニ付テハ我法律ヲ適用セサル可カラス若シ我法律カ貴意ニ不適當ナラハ來ラヌコソ宜シケレ此事項ニ關シハ余ハ厭ク迄モ自衛上謝絶セント是レ誠ニ屬地主義ノ起ル所以也主權者ガ自國民ヲ治セン爲メ障害ヲ除去スルヲニ付テ止ムヲ得サル也

問

要之原則トシテ屬人主義ヲ認メ例外トシテ屬地主義ヲ認ムルモノ也
永住外人ニモ尙屬人主義ヲ適當トスルヤ

答

住所ハ必シモ原籍地即チ本國タラス住所ハ生計管理ノ中心也生計ノ中心ハ必シモ本國タルニ限ラス世運進歩交通ノ途盛ニ拓ケ外國ニ生計ノ中心ヲ取ルモノ比々今日ニ然リ去レハ單ニ外國ニ住居セリトテ住所地法ヲ愛慕シテ本國法ヲ捨テタリトハ推測スヘカラス若シ其人ノ意思果シテ其ノ如クシハ住所地ニ歸化スヘキ等也然ルチ直ニ住所地法ニ服從ノ意思アリトハ速了モ亦甚大也ト云フ可シ何

ソ一片ノ住居ノ形跡ヲ以テ國民分限ヲ拋棄セリト推定スルコトヲ得
シヤ國民分限ハ之ヲ強迫セストハ近世ノ原則也且ツヤ住居ハ吾人ノ生計ノ中心ニシテ處世ノ中心ニアラス生計ハ生活資料タル財產操縦ノ事也去レハ住居地ハ財產上ノ事ニシテ本國ハ身上ノ事也財產固ヨリ身權ノ貴重ナルニ若カス歐米各國ノ民ガ遠ク我土ニ渡來シ生計ヲ營ムモ彼等ハ我主權ニ服從センコトヲ希望ノ來ルニアラス全ク生計上ノ事ニ歸セリ文明國人ガ未開國ニ來ルモ亦如此故ニ住所ノ變更ハ固ヨリ本國ヲ捨テタリト云フコト能ハサルヤ明也故ニ如何ニ外國ニ永住セリトテ本國民分限ノ存スル間ハ本國主權ヲ愛スルノ徵憑アリト云ハサルヘカラス以上ノ如クナルヲ以テ永住外人ニモ屬人主義ヲ原則トスルヲ正當ナリト信シ止マサル也

問

國際私法ノ準則ニ屬人屬地兩主義ヲ用井タルヲ分解セヨ

答

第一人ノ身分及ヒ能力ハ本國法ニ從フ親族ノ關係及ヒ其關係ヨリ

生スル權利義務モ亦全シ

第二相續及ビ遺贈ニ付テハ被相續人及ビ遺贈者ノ本國法ニ從フ

第三外國ニ於テ爲シタル合意ニ付キ何レノ國法ニ從フヤ當事者ノ意思分明ナラサルキ當事者同國人ナルキハ本國法ニ從フ

右第一第二ハ身權上ヨリ來ルモノニ最モ屬人主義ノ必要ナル所也第三ハ當事者ノ意思ヲ推測シタルモノニ是亦屬人主義ノ適切ナル所也

第四動産不動産ハ所在地法ニ從フ

第五不當ノ利得不正ノ損害等ハ其等ノ生シタル地ノ法律ニ從フ

第六訴訟手續ハ訴訟ヲナス地ノ法律ニ從フ

全等ノ場合ハ公益ニ關シ本國法ヲ適用スル能ハサル場合ナレハ屬地主義ノ必要生シ來ルナリ如此列舉スルキハ原則少ク例外多ク原則例外ト云フハ妥當ナラサルニヨリ主トシ屬人主義ヲ用キ自衛上

屬地主義ヲ用ユト云フヘキ也要スルニ屬人主義ハ自然ノモノニシテ屬地主義ハ人爲ノモノトス

問 國際私法ハ國內法ナリヤ國外法ナリヤ

答 內國人ニ對スル私法ハ主權者カ自國民ヲ保護スル爲メ統治スル爲

メノ直接也受法者ハ自國民也依之利益ヲ受クルモノハ亦自國民也換言セハ自國民ヲ保護スル爲メ自國民ニ對シテ適用スル法律也即チ國內法也何トナレハ內國人ニ向テ活動スル法律ナレハ也

國際私法ハ主權者ガ自國民ヲ治スルガ爲メノ間接法也即チ外人ニ對シテ適用シ内治障害ヲ去ルノ法ナレハ間接法也受法者ハ外國人也依之利益ヲ受クルモノハ自國民也換言セハ自國民ヲ保護スル爲メ外人ニ對シテ適用スル法律也即チ國外法也何トナレハ外國人ニ向テ活動スル法律ナレハ也決シテ外國人ヲ保護スルニアラス邦國ガ外國人ヲ直接ニ保護スルコトハ條約即チ國際公法上ノコトニ國際私法ヲ

事ニアラサル也而テ國際私法ハ國外法ニシテ公法ナルトハ前述ベタルガ如クナレハ私法ノ公法也ト云フハ甚ダ訝カシキカノ疑アラシクガ國際公法モ國際私法モ只々公法ナレトモ國際公法ハ各國主權ノ施政ニ關スルヲ規定シ國際私法ハ各國私權運動ヲ規定タルモノニシテ決シテ法律其モノガ私法ニアラサル也只私權ニ關スルヲ公法的ニ規定セシ迄ニシテ國外私權處理法ト云フ公法也

問 國際法ハ各國間ニ承認セラレサル可カラサルヤ

答 國際私法ハ内國人ヲ保護スルノ國外法也外國人ヲ保護スルノ法律ニハアラサル也去レハ各國家ノ承認ヲ要スルモノニアラス假令各國ガ不服ナルモ敢テ自國民ノ爲メニハ顧慮スル所ノモノナシ例ヘバ人ノ身分及ヒ能力ハ本國法ニ從フトノ準則ヲ遵守センカ本邦人ハ其外人ノ本國法ヲ糾問ノ取引ヲナサン身分能力ガ人其人ニ適當ナルコトハ詰リ本邦人ノ利益也故ニ假リニ人ノ身分能力ハ所在國法ニ從フト云フ準規ヲ各國ガ承認セリトテ自國民ノ利益ノ爲メニハ之ニ反セリトテ何ゾアラシク故ニ列國ガ承認セルモノニ限ラサル也

問 人ノ身分能力云々トアル人トハ内國人ナルヤ外國人ナルヤ

答 國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲外人ニ對シテ適用スル法律也即チ外人ノ身分能力ハ本國法ニ從フト云フノ義也假令我國人が外國ニアルモ之ヲ支配スルノ規定ニアラス若シ此人ナル文字ハ我邦人ニモ適用スルトナサバ國外法ニアラス國內法トナリ結局國際私法ハ相互ノ國民ヲ保護スル法律トナリ列國會議裁判所ヲ作ラサル可カラサルニ至ラン

第二篇 人事

問 國際私法ニ於テ人ハ如何ナル關係ヲ保有セルヤ

答 人ハ國際私法上ニ於テ每一ノ主格ヲ保有ス而テ有形人タルト無形人タルトハ毫モ問フ所ニアラス即チ兩國以上ノ人が而立シテ相

交渉シ權利義務ノ關係ヲ爭訴スルニ方リ本法ノ用ヲ生ス故ニ數國ノ有形無形ノ人數多集アルキハ數多ノ主格ヲ有スル關係事項トナルモノニシテ此等ノ人ガ私權ヲ係争スルニ當リ本法ハ之レヲ判斷スル也

問 國際私法ノ係争ニ於ケル各主格タル人ノ一人ハ必シモ裁判國ノ一人ナラサル可カラサルヤ

答 國際私法ハ裁判國ガ自國人ヲ保護スル爲メニ外國人ニ對シ適用スル法規準則也人ノ身分能力ハ本國法ニ從フトアル人トハ互ニ外國人ヲ指スモノニシテ自國人ヲ指スモノニアラス何トナレハ自國人ノ身分能力ニ自國法ヲ適用スルコトハ國際私法ヲ俟ツヘキニ非ザレバ也全ノ論鋒ヲ見テ人アリ曰是レ國際私法ヲ國內法ニ置ク論者ノ一也ト國際私法ノ國外法ナルコトハ總論ニ論セシ所ノ如シ國外法トテ必シモ國際公法ノ如ク上ニ主權者ナキモノニ限ラス國外法トハ外

國人ニ對シ適用スルノ意味ニシテ國際公法ノ如ク列國間ノ法律ノミ
 國外法ニアラス國外ニ効力ヲ及ス法律ハ國外法也刑法ハ屬地主義
 ニヨリ外來人ニモ適用スルハ國外法ノ如キ感ナキニアラサレモ刑
 法ハ固ヨリ國內法也ト雖モ自衛上止ムヲ得ス或場合ニノミ國外法
 ノ効力ヲ有セシムル也然ルニ國際私法ハ本色トシテ外國人ニ對シ適
 用スルモノニシテ刑法ノ如ク時ニ自衛ノ爲メ外人ヲ支配スルモノト
 ハ異ナレリ或學者ハ陸海軍刑法ヲ万国公法ノ淵源ニ置クハ詰リ刑
 法ガ國外法ノ僅カノ性質ヲ有スルガ爲也要スルニ國際私法ハ自國
 人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シ適用スルモノナル以上ハ裁判國ハ
 必ス自國人ガ主格中ニ存スルヨリ裁判スルモノナレハ原則トシテハ
 自國人一人ハ必ス存在スルヲ要ス然ルニ外國人ト雖モ我土ニ住居
 シ内國人同様ニ私權ヲ享有ス得ル場合ニハ本邦人ト同一ノ保護ヲ
 與ヘサルヘカラス故ニ甲國人乙國人二人ガ私權ノ争ヨリ我裁判所

ニ訴フルキハ共ニ同資格ナルヲ以テ國際私法ノ問題ナシ只此等ノ一人ト根本上ノ我邦人トノ間ニ争アルヤ自他ノ關係生出シ本際私法ノ問題生ヌ假令條約ヲ以テ如何ニ外人ヲ邦人同様ニ取扱フヲテ約セリトテ邦人ヲ不利益ノ地位ニ落メ外人ヲ保護スルノ義務ハ之レナキ也

問 外國ノ法人ハ毎ニ國際私法ノ主格タルヲ得ルヤ

答 法人トハ法律ノ力ニヨリ有形人ノ如ク能力ヲ有セシメテ成立スルモノ也即チ法律ノ力ニヨリ出生セシメラレタルモノ也我新民法第三十三條ニ曰法人ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ依ルニアラサレハ成立スルヲ得ストアリ反釋セハ法人ハ法律ノ力ニヨリ成立スト云フニアリ而テ此法律トハ內國法ナルヤ明也去レハ我國ノ法人ハ我國ノ法律ニヨリ成リ他國ノ干涉ヲ受ケテ消長スルモノニアラス外國法人ハ其外國ノ法律ノ力ニヨリ成立シ決シ我國ノ承認ヲ俟テ成

シ得ルモノニ非ス依之看之假令外國ノ法律ニ於テ成立セシ法人ハ我國ヨリ看テ不完全ニモセヨ承認セサルベカラス人ノ身分能力ハ本國法ニ從フトハ此レガ謂也人トハ法人モ包含セルモノニシテ法人ノ身分能力トハ成立ノ上ニ有スルモノナレバ不完全ニテモ承認セサル可カラス尤モ公ノ秩序ニ關スルモノハ格別ナルヲハ論ヲ俟タズ然ルニ外國法人ヲ承認スルニ付テハ種々ノ主義アリ

第一無條件承認主義外國ニ於テ其國ノ法律ニヨリ有効ニ成立セル法人ハ絶對的ニ之ヲ承認セサルベカラス英法系國皆之ヲ取レリ
 第二制限承認主義或種類ノ法人ヲ限り之ヲ承認セルモノニシテ我新民法第三十六條ハ此主義ヲ採リ曰外國法人ハ國ノ行政區劃及商事會社ヲ除クノ他其成立ヲ認許セス
 第三臨時承認主義是レ時宜ニヨリ承認セルモノニシテ前第三十六條后段ニ曰云々條約ニヨリテ認許セラレタルモノハ此限リニアラス

第四交誼承認主義、是先方が承認セルニヨリ吾モ亦承認セルモノニ
 或當事國間ニ限り承認セラル、モノナリ
 以上ノ四主義中法理上社交上第一主義ヲ以テ文明ニ適セリトス假
 令我法律ノ眼ヨリ見テ公益ヲ害スル法人トテ外國ニ於テ人ノ資格
 ナ有セシムル以上ハ人タル資格丈ハ之ヲ承認セサル可カラス只或
 ハ我邦内ニ支店ヲ設ケントスル場合ニハ宜シク之ヲ禁セサル可カ
 ラサルモ我邦人ト交渉セルニ當リ人ニアラストン排斥スルコトハ能
 ハサル可シ

第一章 國民分限

問 國民分限トハ何ゾヤ

答 主權者ハ自己ノ國民ヲ保護スルノ義務アルト全時ニ服從セシムル
 ノ權アリ國民ハ服從スルノ義務アルト全時ニ保護ヲ求ムルノ權ア
 リ國民分限トハ國民ノ有スル保護要求權ト服從義務トヲ總括シ之

ヲ保有スル團結ヲ云フモノナレモ未ダ以テ足レリトセス尙無條件
 ニ之ヲ保有セサル可カラス故ニ假令或外國人ガ一時四本ニ在留ス
 ル間之ヲ有シタリトテ直ニ日本國民ト云フ可カラス去レハ自然ノ
 得有歸化ノ得有合併ノ得有等ノ如キ無條件ニ右ノ權利義務ヲ有セ
 サルヘカラス

問 世界人民ニノ國民分限ヲ有セサルモノアリヤ

答 各國法規ノ異ナル結果止ムヲ得サルニ依ル例ヘハ甲國ハ其女ガ乙
 國人ト結婚スルヤ直ニ甲國民分限ヲ喪失スルニ乙國ニテハ單ニ結
 婚ノコトニミテハ直ニ國民分限ヲ取得セス茲ニ此女ハ無國民分限
 ノ人也又甲國男子ト乙國女子トノ間ニ私生子ヲ擧ケタルト如キ
 兩國法律ハ何レノ國民分限ヲモ與ヘサルコトモアラン此等ノ人民ハ
 何レノ國ノ主權ノ保護ヲ享クルノ權モナク從テ服從ノ義務モナキ
 社會ニ容レラレサル不幸ノ孤民タルヲ免レス是レ萬國聯合條約ヲ

要スル所以也

問 世界人民ニシテ國民分限ヲ有スルモノアリヤ

答 甲國男子ト乙國女子トノ間ニ私生子ヲ擧ケ甲國ハ其地出生ノ故ヲ以テ分限ヲ與ヘ乙國ハ女子ヨリ生シタルノ故ヲ以テ分限ヲ與フ此ノ如キ人民ハ兩國ノ保護ヲ享ルノ權アルハ好シ全時ニ兩國ノ主權ニ服從セサル可カラスト云フノ點ニ至ラハ困難ナラン何者兩國主權ノ牴觸セルコトアレハ也人ハ二國民分限ヲ有スヘカラストハ近世追次認メラレ來ル準則ナレバ万国聯合條約ナキ今日規一ナラサル誠ニ止ムヲ得サル也殊ニ兵役ノ義務ノ如キ兩國戰端ヲ開クヤ誠ニ何レニ處スルヤニ苦ムモノアラシ我國ノ如キハ自國民分限ヲ與フルニハ外國分限ヲ失ハサル間ハ不可ナリ又外國分限ヲ得サル間ハ我國分限ヲ與ヘサルノ制也列國皆此ノ如キナラシニハ前問及ヒ本問ハ生セサル也

問 國民分限ノ自然即チ生來ノ取得トハ何ツヤ

答 凡ソ人ノ出生スルヤ必ズ國民分限ヲ有スヘキモノ也古昔ハ屢々屬地主義ニ依リ出生國ノ分限ヲ有セシメシガ如此ハ外國女子ガ旅行中偶某國ニ於テ分娩セルモ其土ノ分限ヲ生セシムルニ至ラン凡ソ子ハ親ノ分限ヲ有セシムルヲ以テ最モ父母及ヒ子ノ意思ニ適セリト推測スルヨリ近時系統主義ヲ取ルニ至レリ故ニ父母共ニ日本人ナルキハ何レノ土ニ生ルハモ日本人ナレバ父母異分限ナルキハ諸多ノ國法ハ父ニ重キヲ置キ父ノ分限ニ從フコトセリ我人事編七條二項ニ於テモ此主義ヲ深レリ然ルニ父ノ分限ガ屢々變更セシ片例ヘハ英人タルキ懷妊シ日本ニ歸化シ生シタルキノ如キハ如何人ハ出生ノ國民ノ權利義務ヲ得有スルモノニシテ胎内ニアリテハ未ダ國民トシテ成立セス且ツ胎内ニアリテハ子ニ與フルニ父ノ分限ヲ以テスルヲ子ノ意ニ適セリト推定スルコトハ早計ニ失セリ此ノ如ク論シ

來ルルハ甲國ヨリ母ガ懷胎ノ乙國ニ遺腹ノマハ歸化セルルル如キ
父ハ甲國ニテ死亡セシヲ以テ乙國ニ歸化ノ后ニ生シタルモノハ母
ノ分限ニ從ハシムルノ他途ナキヲ見ル要スル國民分限生來ノ取得
ハ出生時ニ系統主義ニヨリ取得スルヲ近世ノ準則トナス也

問 國民分限即チ國籍ナルモノヲ國際私法ニ於テ研究スルノ必要如何
答 國際私法ハ兩國私權ノ交渉ニ於テ何レノ國法ニ從フヘキヤヲ判定

スルノ準則也國際私法ノ活動セル場合ノ兩主格ハ私權ヲ有セル有
形無形ノ人格也此等ノ人ノ權利關係ヲ國際私法ニ依リテ定ムルニ
ハ其人ノ國籍即チ國民分限ヲ定メサルヘカラス例ヘハ人ノ身分能
力ハ本國法ニ從フトノ準則ヲ適用セントスルニモ其人ノ本國ヲ確
定セサレハ能ハサルヲハ言テ俟ス然ラハ兩國ノ國其モノガ有スル
私權ノ交渉ニ於テハ國籍ヲ探究スルノ必要アリヤ夫レ國カ私權ヲ
有スルハ國カ私人ノ資格ニテ之ヲ有シ公權ヲ以テ列國ニ見ユルト

異ナレリ故ニ其私權ナルモノハ何レノ主權ノ下ニ棲息セルヤヲ知
ルヲ要スルヲハ私人ト同一也トス

問 私生子ノ國民分限如何
答 第一父ヲ知レタル場合、父カ認知セルト否トヲ問ハス只父ガ明ナル

場合ニシテ此場合ハ父ノ分限ヲ自然ニ取得スルヲハ各國歸一ノ準則
トナレリ然ルニ父ハ明ナルモ父ノ分限ガ無キ片例ヘハ甲國人ガ其
國ノ分限ヲ失ヒ乙國ニ至リ乙國ノ分限ヲ得サル内乙國女子ト私生
子ヲ舉ケタルルル如キ父ハ無籍者ナレハ從フト能ハス我人事編八
條第三號ニ依レハ子自ラ日本人分限ヲ撰擇スルヲ得ルノ規定ナレ
此ノ如キハ撰擇迄無分限ニ生活セルノ不都合アリ故ニ此ノ場合
ニハ父ナキモノト見做シ母ノ分限ヲ取得ストナスヲ適當トナス
第二父知レサル場合、母ノ分限ニ從フノ外ナシ父ノ認知迄無分限ニ
置クヲ能ハス何時認知スルヤ明ナラサレハナリ

問 亂倫ノ子ノ國民分限如何

答 亂倫ノ子ハ證明ヲ許サス即チ公表ヲ許サス即チ認知スルコトヲ許スモノニアラス因テ子相通シ父女相通シ私生子ヲ擧ケタルモノニシテ其子ノ母ハ固ヨリ分娩セシモノナレハ公表ヲ許サ、ル能ハサレモ父ニ付テハ公益上之ヲ許サス故ニ父ノ知レサルモノトシテ母ノ分限ヲ有セシムヘキヨリ他ナキ也

問 父母共ニ知レサル私生子ノ分限如何

答 我民法人事編ハ此ノ如キ子ハ日本ニ於テ生レタル場合ニハ日本人ヨリ生レタルモノト推定シ日本人ノ分限ヲ與ヘタリ但シ推定ナレバ反證ヲ許スコトハ勿論也

問 國民分限ノ人爲即チ生后ノ取得如何

答 此出生后或取得方法ニヨリ國民分限ヲ變更スルコトニシテ五種アリ曰撰擇取得、結婚取得、歸化取得、國家分合取得、及ヒ回復取得是也

問 外國女子日本男子ニ嫁スルハ國民分限ヲ取得ストハセ若シ離婚セルハ當然喪失セルヤ

答 元來外國女子ガ日本ニ嫁スルニヨリ日本民分限ヲ取得スルコトハ婦ノ意思タル夫ニ服従スルコトヲ認諾シ從テ夫ノ服従スル主權ヲモ認シ也且ツ本邦ノ如キ家族制度ノ邦國ハ一家中ニ異國民分限ヲ有スルモノアルハ一家團欒主權ニ忠勤服従スルコトヲ得ズ殊ニ男子ハ本邦人ナルヲ以テ無限ニ管轄權ニ浴セルヨリ女子モ惹テ無限ニ同管轄權ニ浴セルニ至ルニモ拘ラス外國民分限ヲ取得スルコトハ道理ヲ許サ、ル所ナルヨリ日本人分限ヲ取得セシメタリ故ニ一旦此管轄權内入りタルモノハ離婚ノ故ヲ以テ強テ脱去セシメス然ラサルハ若シ子アルハ母子異分限ヲ有セシメサルヘカラサル等又其他親族間ノ關係ニモ種々ノ不都合ヲ生セン故ニ我人事編第十條ハ

婚姻解消后モ尙分限ヲ維持セシメタリ

問 國民分限撰擇取得方法ヲ行用シ得ル場合如何

答 我人事編ニ依レバ左ノ四ヶノ事項ヲ見ル

第一 父カ外國人ナルモ母カ日本人ナルモ是レ子ハ母ヲ慕フノ情盛ナルヨリ母國ヲ慕フヲ強ク殊ニ父死去セル場合ニハ倍々其情勢ヲ増加スルコトアラン故ニ歸化ノ手續ニ依ラス母國分限ヲ得セシム

第二 外人ノ子ナルモ日本領内ニ生マレタルモ人ノ生國ヲ慕フノ念強キハ一般皆然リ故ニ領内ニ生レ其土ニ生育スルニ於テハ其土ヲ慕フノ念ヲ仁察シ歸化ノ手續ニヨラス其國分限ヲ取得セシム此領内トハ領海内軍艦内商船内公使館内等皆之ニ包含ス然レモ公使館内ノミハ反對論アリ公使館ハ職務上ノコトニ付テノミ治外法權アルモノナレハ其館ニ雇入レタル外國人ノ婦來リテ偶々分娩セリトテ本號内ニ入ルヘキニアラスト然レモ公使館トテモ職務上ノミニ

治外法權アリト云フト雖モ取締權ニ付テハ職務上ト云フコト得可

シ館内ニ職務執行時間内ノミナラス取締權ハ晝夜絶ヘス纏絡セリ

故ニ此館内モ領内ト云フヲ得可シ

第三 日本國民分限喪失后生レタル者日本人ガ妻ニ懷妊后外國ニ歸化セシキノ如キ后日本ニ生レタルモ外人ノ分限ヲ當然取得ス可

ケレモ愛土ノ情深ク爲メニ撰擇權ヲ與ヘタル也

第四 歸化人ノ子ニ成年者ナルモ幼者ヲ自國ニ殘シテ歸化セルニ后幼者ガ成年ニ至リ能力完全トナリテ共ニ歸化ヲ欲スルニ至ラン此ノ如キ憫ムヘキ徒ニハ歸化ノ手續ニヨラス撰擇スル事ヲ許セリ、右ノ成年トハ固ヨリ本國法ニ依ルヤ明也又撰擇ノ結果ニ國民分限ヲ有スルコトハ之ヲ避ケサル可カラズ是レ萬國聯合條約ヲ要スル所以也而テ撰擇權執行ノ手續ハ人事編之ヲ規定セリ

問 婚姻ハ新國民分限ヲ當然取得スル理由如何

答 婚姻ヲナスルハ當然新國民分限ヲ取得ス其理由左ノ如シ

第一婚姻者ノ意思ヲ推測スルコト女子ガ異國ノ夫ニ嫁スルヤ夫權ニ服從スルコトヲ甘諾スルト全時ニ夫ノ國民分限ヲ得有メ夫ノ國ノ保護ヲ受ケ此報酬トシテ夫國主權ニ服從忠勤ヲ盡サンコトヲ點諾シタルモノト推測スルヲ得可シ是レ當然國民分限ヲ取得スル所以ナリ
第二一家ヲシテ團結鞏固ナラシムルコト一家中ニ異國民分限ヲ有スルモノアラハ其國ノ主權ニ聯絡ナク從テ一家團結薄弱トナリ惹テ公益ヲ害スルニ至ル

然ルニ若シ日本ノ家ニ外國人が單ニ聳トナリタルハ如何元來聳

ト云ヒ聳養子ト云ヒ戸主トナリ許多ノ權利義務ヲ相續スルモノナレハ歸化ノ日本人トナルニアラサレハ之ヲ許サス(人事編一一二條)

問 萬國普通歸化ニ關スル要件如何

答 第一成年ニ達シタルコト歸化ヲ出願スルニ付テハ普通能力ナカル可

カラス而テ其能力ハ本國法ナルヤ言テ俟タス

第二歸化前或一定ノ時間繼續シ其國ニ住居ヲ有シタルコト住居トハ人間經濟ノ中心トシテ占據スル場所ノ謂ナレハ此住居ヲ繼續シテ居ル以上ハ一時歸國シタリトテ再ヒ復スルモ繼續ハ依然ニメ間斷アリト云フヲ得ス而テ繼續期間ノ長短ハ各國素ヨリ全一ナラス佛國ノ如キハ普通十年ナルモ功勞アルハ一年ニテ足ルトセリ
第三上奏シテ勅裁ニヨリ歸化證書ヲ得ルコト此證書ニヨリ始メテ効力ヲ有ス前ニ主件具備スルハ行政官ニ申請メ官府ハ之ヲ上奏ス
問 歸化ノ効力發生ノ時期如何
答 歸化證書ノ交附ヲ受ケタル日ヨリ本人丈ハ直ニ効力ヲ有スルモ第三者ニ對メハ公示方法即チ官報等ノ廣告アルヲ要ス但シ公示ナキモ第三者ガ本人ニ就テ證書ヲ熟覽セシキハ有効也而テ右ノ効力生セルヤ生來國民ト全一ナル權利義務ヲ有ス即チ主權ニ對シテ保護要

求權ト主權ニ服從スル義務是也

三十八

問 歸化人ノ能力ニ對シテ制限ヲ加フルコトヲ得ルヤ

答 歸化ノ其國民トナルヤ生來ノ國民ト全様ノ資格ヲ有スヘケレバ生來國民ニ加ヘ得ル制限ヨリハ越ヘテ加フルコトヲ得ス故ニ人其人ニ付テ特ニ有セル事情ヨリ生スル制限ノ如キモ之ニ加フルコトヲ得ヘキ也例ヘハ歸化人ハ或年限ヲ經過セサレハ官職ニ就クコトヲ得スト云フ如キハ特ニ歸化人ニ對シテ別扱ヲナスガ如キモ決シテ然ラス歸化人ニ付テノ或特種ノ事情ヨリ生スルモノニシテ普通人ニ對シテ破産ノ復權ヲ得サルモノハ商業ノ營譽職トナルコトヲ得スト云フト異ナラス又歸化人ハ先國駐劄ノ外交官タルコトヲ得スト云フモ全一也然レハ歸化人ハ終身官吏トナルコトヲ得ス又總テノ外交官トナルコトヲ得ス等ト云フ如キ普通人民ニ對シテ加ヘ得サルモノナレハ歸化人ニモ加フルコトヲ得ス

問 歸化人ノ婦及ヒ其成年ノ子ハ日本ニ住居ヲ定メタルハ日本人ノ

分限ヲ取得ストノ理由如何

答 未成年中ハ能力不完全ニシテ識別力十分ナラサルモノナレハ父歸化

セル場合ニ單ニ父ノ許ニ居テ定メタリトテ日本人分限ヲ取得セシムルコトハ許サレモナルコト明也然ルニ成年ニシテ尙ホ住居スルニ於テハ婦ト全等ノ規定ヲナスモ不可ナカル可シ其理由ハ前述婚姻ハ新國民分限ヲ取得スル理由ト全一也

問 歸化人ノナス宣誓トハ何ゾヤ

答 新國主權者ニ對シテ眞誠忠實ニ義務ヲ盡スヘキコトヲ宣誓スルモノニシテ例ハ舊國ノ爵位貴號ヲ用キサルコトハ勿論他國ノ勳章モ新政府ノ允許ナクシテハ之ヲ佩用セサルコトヲ誓約スルモノ也其他兵役納稅義務等一切皆誠實ニ盡スヘキノ宣誓也此宣誓ヲナシ歸化證書ヲ得公示方法ヲナシ后本邦生來ノ國民ト全様トナル也

三十九

問 歸化ノ効力ハ既往ニ遡ルヘキモノナルヤ

答 例ハ外國人ガ日本ニ歸化セサル前地所ヲ買入レ一ケ年ヲ經テ歸化シタル片ハ地所々有權ハ買受當時ニ遡リ効力ヲ有スルヤ又例ハ外國人ガ自國ノ成年ニヨリ日本人ト契約ヲナシタル片ハ有効ナルモ后日本ニ歸化ノ尙ホ無能力ナル片ハ取消シ得ヘキヤ夫レ身分ノ變更ハ將來ニノミ有効ナルコトハ一般ノ原則ナレハ第一問ノ如キハ土地所有權ハ前ニ遡ルヘキニアラス再度契約ヲナスノ他ナシ第二問ハ少シク論究ヲ要ス可シ夫レ身分ニ關スル變更ハ既往ニ遡ラストハ或ル法律行爲ガ后ノ身分變更ノ爲メニ無効トナルノ謂レナキモノニ又或不法行爲ガ后ノ身分變更ノ爲ニ有効トナルモノニアラス即チ成立時期不成立時期ガ歸化前ニ於テセルハ后歸化ノ一事ハ以テ前行爲ヲ有効無効ナラシムル能ハス去レハ第二問ノ如キハ契約ヲ有効トシテ維持セサル可カラス且ツヤ若シ然ラサル片ハ債權

者ハ已得權ヲ害セラル、アラン然ルニ條件付ノ行爲ノ如キハ歸化后ニ効力ヲ生スルモノナルヲ以テ本原則ニ支配セラル、モノニ非ラス例ヘハ余ガ歸化セハ土地ヲ買取ルヘシ余歸化セハ汝ニ年金ヲ設定スヘシト云フ如キ是レ也

問 境土ヲ讓受ケタル場合ニ於テ境土内ニ於ケル如何ナル人民ガ新國民分限ヲ取得スルヤ

答 或ハ其土ニ出生セシモノハ悉ク新國民分限ヲ取得スヘシト云ヒ或ハ出生シ且ツ現ニ住居シツ、アル者ノミナリト云ヒ或ハ住居ニテモ出生ニテモ宜シト云ヒ或現住者ノミニ限ルト云ヒ說一ナラス然レモ余ハ信ス一概ニ住居シテサヘアレハ何人モ當然取得ストハ正論ニアラサル可キコト何トナレハ住居中ニハ第三國民モアレハ也故ニ余曰讓渡國家ノ臣民ニ現ニ其土ヲ處世ノ中心トシ本籍ヲ其土ニ置クモノ、ミ新分限ヲ取得スト故ニ第三國ノ臣民ハ勿論假令

讓渡國家ノ臣民ナルニモセヨ現ニ住居シアルニモセヨ處世ノ中心
 タル原籍ヲ被讓地以外ノ場所ニ置クモノハ新分限ヲ取得スヘキニ
 非ラス何トナレハ人ノ本籍地ハ分限ニ重大ノ關係ヲ有シ親族故舊
 相集リ處世上極大利益ヲ有スルモノニシ一時此場合ニ來リ經濟中
 心タル住居ヲ構ヘ居ルハ第三國人ト異ナラサレハ也反之其土ニ
 本籍ヲ有スルモノニシ第三國ニ在留セルモノ及ヒ讓渡國ノ他ノ部
 分ニ寄留セルモノ、如キハ當然新國民分限ヲ取得ス本籍ニ重キ
 ヲ置キ住居ニ輕キヲ置ク所以ノモノハ何ソ又是レ本籍ノ在ル所ハ
 一般人民ガ親族故舊群居シ處世上主トノ便益アルヲ以テ也是レ一
 般ノ推定ニシ不都合ナカル可シ然ルニ漫ニ住居說ヲ取ル如キハ學
 術研究上一時寄留スル學生ノ如キモノ迄當然國民分限ヲ變更スル
 ニ至ラン右ノ如キヲ以テ當然新分限ヲ取得スルモノハ第一其土ニ
 本籍ヲ有シ現ニ住居シツ、アルモノ、第二現ニ住居セサルモ本籍ア

ルモノ、二種也トス然レモ國家ハ明リニ其意ニ反シ新自國民分限
 ヲ強呈セス故ニ或ル一定ノ期間内ニ前舊分限ヲ保續セント欲スル
 旨ヲ新國政府ニ申出ルニ於テハ舊分限ヲ繼續セシム可キ也此期間
 ハ短期ニ失スルハ酷也是レ第三國ニ在外スルモノ、如キハ急ニ知
 ル能ハサルノミナラス遠洋中歸航ニ日子サヘ足ラサレバ也

問 境土割讓ノ場合ニ當然新國民分限ヲ取得スル者カ或期間内ニ舊國
 民分限ヲ維持スルコトヲ所轄官廳ニ申出ルニ於テ舊分限ヲ維持スル
 モノナルガ其婦及ヒ未成年者ノ子ニ在テハ如何

答 夫カ舊分限ヲ維持シ新分限トナラサルコトヲ申述スルハ婦之ニ反セ
 サル時ハ夫ニ代表セラレタルモノト見做ス未成年者ハ能力十分ナ
 ラサルヲ以テ諸多ノ法律行爲ハ父母ノ成行ニ任セ父母后見人等ニ
 代表セラル婦ハ無能力者ナリト雖未成年者ノ如ク先天無能力ニア
 ラス只財產權上ノ無能力ニシ身權即チ分限去就撰決等ノコトニ付テ

能力ナキニ非ラス故ニ夫ニ反シテ新分限ヲ厭ハ、離婚ヲ求メ舊分限維持ヲ申述ス可シ然レモ尙夫婦タラントシテ舊分限ヲ維持セシムルハ官省ハ之ヲ許可セサル可シ何者一家異分限ヲ生スレハ也況ンヤ若シ舊國法ガ外國人ノ妻ハ當然外國人タリトノ規定アラバチヤ本問ハ即チ外人ノ妻ハ外人也トノ原則ヲ遵守シテ夫ニ凡テ代表セラレタルモノト推定セリ故ニ夫ガ舊分限ヲ申述スルニ當リ其意ニ反シテ新分限ヲ得ント欲セハ夫ノ代表陳述ヲ取消スヘキ也但シ此場合ニ尙離婚セサレバ夫ト共ニ舊國民分限ナルヲ以テ我人事編ノ趣旨ニ依レバ右ノ婦ノ申述取消願ハ之ヲ許サ、ル可シ若シ之ヲ許サバニ國民分限ヲ有スルニ至レハ也

問 前問父ニ代表セラレテ舊分限ヲ維持スル未成年者ハ其未成年トハ新國法カ舊國法カ

答 舊法ハ二十五才ヲ成年トナシ新法ハ二十才ヲ成年トナスルハ何レ

ニ從フヤト云フニ新國法ニ依ル可シ理由タル第一舊國ニ歸ルコトヲ中述セル當時ノ分限ハ新國民ナレハ也本國ハ新國也身分能力ハ本國法ニ從フトハ新國法ヲ指ス也第二云々未成年ハ代表セラル云々トノ法律ヲ與ヘタルモノハ新國行政法ナレバ也第三若シ此復歸法ヲ與ヘサレバ后ニ更ニ歸化セサル可カラズ此時ハ無論本國法ハ新國法ナレバ也

問 境土割讓ニヨリ新國民分限ヲ取得セシ者ガ爲シタル諸般ノ法律行為ハ后ニ前問期間ニ復籍申述ヲナシタルハ右行為ハ復籍后如何ナル影響アリヤ

答 解除條件成就セシモノトシテ當事者ニ於テハ原狀ニ回復スヘシ此當事者トハ私法行為ノ關係者ニ非ラズ公法上ニ於テ新分限取得者トシテ新國家也トス而テ第三者トハ第三國家也去レハ舊分限ニ復セシトシテハ新分限ヲ要素トシテ成立セシ諸多ノ行為ハ皆無効トナリ新舊分

限ノ如何ニ拘ラサル行爲ハ依然成立スルモノトス無効ニ屬シタル爲メ損害ヲ受ケタル私權者即チ新國人民ハ復舊者ニ對シテ賠償ヲ求ムルコトヲ得ルハ勿論也而テ右解除條件遡及ノ効ハ第三國家ヲ害スルコトヲ得ス例ハ新國民タリシ當時ニ第三國ト交渉事件アリ復舊后ト雖モ第三國ハ新國家ニ對シテ處置ヲ求ムルモノニシテ新國家ハ最早此者ハ舊國ニ復セシヲ以テ余ハ管知セスト云フ能ハス何トナレハ當時ハ新國家ノ所管タリシナレハ也要スルニ本問ハ公法上ヨリ布テ私法ニ及ホス問題也

問 馬關條約第五條云々本條約批准交換ノ日ヨリ二ケ年間ヲ猶余ス可シ但シ右年限滿チタル片ハ未タ該地方ヲ去ラサル住民ヲ日本國ノ都合ニヨリ日本國民ト見做スコアル可シトノ規定ヲ説明スヘシ

答 國家ノ分合ハ當然新國民分限ヲ取得ス但シ之ヲ強迫セストノ原則ヲ尙一層擴充セシモノ也即チ二ケ年間ニ清國民分限ヲ維持セント

欲セハ届出ヲナスニヨリ清民タルヲ確定ス可シ而テ尙其土ニ住民トシテ存在スルコトヲ得ル也次ニ又二ケ年ヲ經過シテ黙住セル片ハ當然日本民トナルト云ハスノ都合ニヨリ日本民ト見做スト云フ也故ニ右ノ黙居人モ日本ノ都合ニヨリ尙ホ清人ト見做サル可シ尤モ二ケ年黙住セル人民モ日本民トナル意思アル片ハ歸化ノ手續ナク申述ニヨリ日本民トナルコトヲ得可シ而テ都合ニヨリ見做サレタルモノハ詰リ當然取得セシモノ也之ヲ見做スハ如何ナル人民ナルヤト云フニ不動産所有者及ヒ日本人ト見做サレハ秩序ニ害アル者等ニシテ他ハ皆隨意トナセシ也

問 國民分限回復ノ場合如何

答 我人事編ニ於テ之ヲ見ルニ左ノ三場合ナリトス

第一通常回復會テ外國ニ歸化セルモノ又ハ外國官吏兵士トナリタル爲メ日本法律ニヨリ日本國民分限ヲ失ヒタル者が再歸セントス

ル場合也此等ノ人ハ固日本ニ縁故アルヨリ悔悟ノ情ヲ察シ歸化ノ煩雜ナル手續ニヨラス日本政府ノ許可ヲ得テ一ケ年内ニ住居ヲ移スニ依リ之ガ回復ヲ得ル也

第二離婚回復外國人ノ婦トナルヤ直ニ日本分限ヲ失フモノナルニ后離婚歸來シテ日本ニ住居スルニ於テハ其情狀ヲ察シ回復セシム第三成年回復父母共ニ外國人トナリタルニヨリ共ニ日本分限ヲ失ヒタル未成年ノ子又母ニ附隨シテ母ガ外人ニ嫁セル爲メ共ニ日本分限ヲ失ヒタル未成年ノ子ハ成年ニ至リ或ハ事理ヲ辨シ回復ヲ希望スルアル可シ此ノ如キ憫ムヘキ徒ニハ回復ヲ許スヘシ

問 國民分限喪失ノ原因如何

答 第一外國分限ヲ任意ニ得タルモノ直接ニ失ヒタルモノ也

第二外人ノ婦トナリタルモノ間接ニ失ヒタルモノ也婦ハ夫權ニ服從シ夫ハ其國ノ主權ニ服從スルヲ以テ婦ハ前主權ニ服從シ能ハス

第三外國主權ノ機關タル者外國ノ官吏議員トナリタルモノハ其外國ニ忠勤ヲ盡ス可キヲ約セシモノニ本國主權ニ服從スルヲハ爲シ能ハス

右第一ノ外國分限ヲ任意ニ得タル云々トアレバ不任意即チ其意ニ反シ得ルヲアリヤ國民分限ハ強迫セストアルニモ拘ハラス如何是レ人口少キ國ハ此ノ如キヲ往々アリ米國ノ如キモ五ケ年住居スルニヨリ本人ノ意思如何ニ拘ラス強制的ニ米人トナス此ノ如キモノニハ強テ日本分限ヲ失ハシメス結果思ムヘキ一人ニ分限ヲ得有スルヲ致スモ亦止ムヲ得サル也

問 身分ニ關スル變更ハ已往ニ遡ラストハ何ソヤ

答 元來身分トハ社會ノ或ル一區劃内ニ於テ公衆ニ對シ有スル人格上ノ關係ニシテ地位即チ階級ヲ指示ス語辭也爵位種族等是也又血統間ニ於ケル親族ノ關係ノ如キ父子兄弟姉妹等是亦身分也是レ親族ヲ

社會ノ一區劃ト見テ此間ノ權利關係ヲ看察シテ身分ト云ヒタルモノ也即チ前者ハ國家ヲ區劃トナシ后者ハ親系内ヲ區劃トナシ其内
部ニ種々ノ身分段階ヲ設ケタルモノニ此區劃ヲ出テハ効力ヲ他
ニ及ホスヘキモノニアラス外國ノ爵位者ハ我邦ニ品位ヲ有スルモ
ノニアラス只國際上ノ關係ヨリ之ヲ待遇スルニ過キス扱何故ニ身
分ノ變更ハ已往ニ遡ラスト云フヤ是レ身分ハ其時ニ際シテノミ待
遇ヲ受クルモノニ前ニ遡リ待遇セントスルモ能ハサル也例ヘハ
一月一日ニ官吏ノ服飾徽章ヲ僭用セリトノ犯罪ニヨリ審理中二月
一日ニ其服飾ヲ佩用スル官職ニ就キタリトテ遡及シテ無罪トナル
モノニアラス國民分限モ身分ニ準シ共ニ遡及力ナキ也

問 外國民ハ我國ノ主權ノ下ニ如何ナル權利ヲ有スルヤ

答 凡ソ國民ハ其主權ノ許ニ服従スルノ義務アルト全時ニ其對償トシ
保護ヲ求ムルノ權アリ此保護要求權トハ私權ノ行用ニ付テ保護ヲ

求ムルモノニ國家ハ吾人ノ私權ヲ認ムルノ義務アリ己ニ此義務
アリトセハ之ヲ故ナク妨害スルノ權ナシ即チ國民ハ私權ヲ享有ス
ルモノ也此私權ノ享有ナルモノハ保護ヲ享ケサレハ一日モ存在ス
ルコト能ハス國家ハ之ヲ保護スル義務アル所以也換言セハ服従義務
ヲ履行スル對償トシ私權ヲ保護セラルヘキ也此ノ原則ヲ以テ推ス
ルハ外國人ハ私權ノ享有ナキモノ也然レハ近世社交上ノ進歩ト共
ニ交誼上互ニ保護ヲナスノ域ニ進ミ來レリ尤モ相互ノ恩惠ニ恩慮
ハ請求權ナキモノナレハ外國民ハ日本ニ對シ保護請求權ハ之レ無
キ也從フ義務即チ服従義務ハ存セサル也然ルニ新民法第二條外國
人ハ法令又ハ條約ニ禁止アリ場合ヲ除ク他私權ヲ享有スト規定シ
日本主權ヲノ外人ノ私權ノ享有ヲ原則トシ認メシメ外人ヲ保護
要求權ヲ有セシメタリ即チ外人ハ一般ニ服従義務ナクシ私權保護
要求權ヲ有スルニ至レリ恩典變ノ保護義務トナレリ乃チ日本主權

ハ絶對的ニ外人ヲノ服從セシムルヲ能ハサルニモ拘ラス私權ノ保護ハ原則トシテサ、ル可カラス此ノ如キハ條約トシテ締結スレハ時ノ情勢上止ムヲ得サル場合モアラシガ原則タル民法ニ於テノ規定トシテ大安賣ノ感ナキニアラスト云ハサル可カラス但シ外人モ住居ノ許可ヲ得テ住居權ナル私權ヲ得有セル以上ハ一ノ保護要求權茲ニ生スルモ此ニ對シテ住居權ニ關スル服從義務ハ之ヲ負担セサルヘカラス例ヘハ家屋稅ヲ支拂ハサルヘカラスガ如シ其他營業權ニ對シテ營業稅ノ如シ要スルニ如此事項ハ對外法ノ所管ニシテ內國法タル民法等ノ管スル所ニアラサルト信ス

問 甲國內ノ私立會社ハ乙國內ニ於テノ人格如何但法人ヲナス會社也
答 會社ガ法人ヲ組成セル以上ハ有形人トシテ毫モ異ナルヲナキ也即チ一

ノ入問トシテ總テノ權利義務ヲ有ス而テ國ガ此種ノ會社ヲ人ト同一ニシテ權利義務ノ主体タルヲ得セシメタルハ經濟上ノ利益ヲ計リ

タル公益ニ關スル事業也故ニ外國ニ對シテ此ノ待遇ヲ受ケヘキ也否
外國ハ此ヲ承諾シ人間取扱ヲナサル可カラス要スルニ外國ニ對シテハ右會社ハ財産權上ニ於テ有形人ト異ナルヲナキ也

問 國ノ秩序ニ關スル規定ハ外國民ヲ支配スル理由如何
答 人ノ身分能力、親族ノ關係、其關係ヨリ生スル權利義務、相續遺贈ニヨリ動産不動産ヲ取得スルヲ、外國法ニ依ル合意、不當ノ利得不正ノ損害、及ヒ法定ノ義務等ハ總テ所在國ノ管知スル所ニアラスト雖此等ノ諸事項ヲ管スル本國法ガ若シ所在國ノ公ノ秩序ヲ紊亂スルアラバ所在國ハ自衛上之ヲ禁セサル可カラス若シ然ラサランニハ所在國ハ外人ノ爲メニ維持存續スルヲ得サルニ至ラン例ヘハ二十四歳ナル英人ト甘歳ナル日本人ト合意ヲナセシキ英人ハ能力ハ本國法ニ從フノ故ヲ以テ合意ヲ無効トナサントスル場合ニ此ノ如キ事ハ我秩序ヲ害スルニヨリ契約ヲ有効ニナス并法ヲ適用スル也

問 住居トハ何ソヤ

答 住居トハ吾人ノ生活上ノ本據地也生活上ノ本據地ト處世上ノ本據地トハ區別セサル可カラス生活上ノ事ハ財産上ノ事也處世上ノ事ハ身權上ノ事也生活ノ中心ハ住所也處世ノ中心ハ本籍地也本籍地ハ生活ト處世トヲ兼ヌルコトヲ得ルモ住所地ハ處世上ノ事ヲ兼ヌルコトヲ得ス是レ身分能力等ノ身權上ノ諸權ハ本國法ニヨルヲ適當トナシ財産上ノ事ハ住所地法ニヨルモ其人ニ不都合ナキヨリ國際私法ノ準則ノ生セシ所以也夫レ住所トハ生活中心地也ト云フ以上ハ東移西轉南奔北走右宿左泊スト雖モ毎ニ一處ニ歸着スル主タル場所ニアラスンハ中心地トハ云ヒ難キ也且ツ中心地即チ本據地ト云フコトハ其意思タル永住ノモノタルコトヲ要ス此意思ニ存在セハ假令明日移轉スルモ差支ナキ也然レモ終身ヲ要セス假リニ宿泊セザ

ルヲ以テ足レリ故ニ一時出稼ノ如キハ住所トハ云ヒ難シ即チ財産權執行ノ爲メ一定ノ場所也トス又有期若クハ條件付ハ住所タルコトヲ妨ケサル也

問 住所ニハ任意ヲ要スルヤ

答 住所ハ生計ノ本據地也生計ノ本據タル原素アレバ任意ト否トハ問ハサルガ如キモ元來人類ノ生計ハ強制ノモノニアラス只他ノ干渉ヲ受ケテ幾分カ不完全ナル住所トナルコトアリ例ヘハ遠島ニ流徒トナリ止ムヲ得ス其土ニ生計スルガ如キ是レ不完全住居也然レモ全部ノ干渉ヲ受ケ獄舎内ニ在ルガ如キハ住所ト云フ能ハス何者生計ニアラサレハ也此ノ如キハ之ヲ居所トナス例ヘハ有期從刑ニ處セラレ北海道獄内ニ在ルモノハ住所トハ云フ可カラス出獄ノ后行政權ノ強制干渉ヲ受ケテ北海道ノ區内ニ住居シテ不完全住所トナル去レハ遺產處分ノ場合ニハ完全ナル住所地ノ法律ニ從フヘキモノ

三ノ獄舎内ハ勿論不完全住居ノ法律ニモ從フノ義務ナシ
 國際私法ニ於テ住居ナルモノヲ研究スルノ必要如何

問 主權者ガ國民ヲ統治管轄スル所以ニ基キ國民ハ之ニ服從セサル可
 カラス此兩者ノ關係ハ公私共ニ存ス例ハ公權ヲ享有セハ公義務ヲ
 負担ス官吏トスル權ヲ享有セハ官吏服務規律ヲ守ラサル可カラサ
 ルノ義務ヲ負担ス尤モ私權ヲ享有シテモ主權者ニ對スル義務ハ公
 義務也凡テ吾人ガ主權者ニ對スルノ義務ハ公ノモノ也住居權ヲ享
 有セハ家屋稅ヲ負担ス又外國人ト雖モ一旦私權ヲ享有セハ公義務
 ヲ負担スルコト内國人ト同一也住居權ヲ得タル外人此權伸張ニ關ス
 ルニ付テ公義務ヲ負担スルコト毫モ内人ト異ナラス假令外人ト雖モ
 享有セル私權ハ住居地ノ主權者ノ法律ニヨリ保護ヲ受クルモノニ
 シ此住居ノ點ニ關シハ其管轄内ニ起臥セルモノトス
 去レハ今外國人日本ニ住居シ日本人ト取引ヲナサンカ國際私法ノ

關係ヲ生ス可キモ若シ日本ニ住居セル二人ノ外國人間ニ交渉セル
 事ハ國際私法ノ問題ニアラス國際私法ハ自國人ヲ保護セル爲メニ
 外人ニ對シテ適用スル法律ヲ指定セルモノ也此二人ノ享有セル私權
 ハ日本人全等ノモノナレバ日本裁判所ハ日本人間ニ發セル訴訟事
 件ト見テ審判セサル可カラス此點ニ關スル規定ハ行政法ノ性質ノ
 モノニシテ國際私法ノモノニアラス是レ住居權ヲ有スル外人ハ此權
 ニ關シ及ヒ其他總テノ私權ヲ享有セルトハ總テノ私權ニ關シ裁判
 所ノ眼ヨリ見レハ日本人全等ノモノナレハ也然ルニ此等ノ一人ト
 私權ノ享有ナキ外國人ト私權ノ交渉アルトハ行政法ニアラス國際
 私法ノモノ也トス又住居セル外人ト日本人トノ間ニ於テナリモ外
 人が享有ナキ私權ニ付テハ國際私法ノ問題ヲ生ス可シ例ヘハ自分
 能力親族ノ關係等ノ自權上ノ私權ハ享有ナキモノナレハ國際私法
 ノ管知スル所トス左ノ如クナルヲ以テ住居ナルモノハ本法ヲ講究

スルニ必要ナルモノ也

問 法例第八條本國法ヲ適用スヘキ諸般ノ場合ニ於テ何レノ國民分限
 ナモ有セサルモノ又ハ地方ニヨリ法律ヲ異ニスル國ノ人民ハ其住
 所ノ法律ニ從フトノ規定ヲ説明セヨ
 答 本條ニ包含スル事項ハ左ノ如シ

第一無籍外國人が日本ニ住居シ日本人ト交渉アリタルキハ日本法
 ニ從フ、此外人が享有セル私權ニ付テハ日本人ト全等ナルヲ以テ内
 國行政法ニ從ヒ身分能力等身權上ノ諸權ハ享有ナキハ國際私法
 ノ問題ヲ生シ身分能力ニ付テハ本國法ニ從フトナリテ本國法ハ本
 條ニヨリ日本法ナリ

第二無籍外國人が外國ニアリ日本人ト交渉セルキハ住居外國法ヲ
 以テ本國トス此場合ハ我國カ裁判國ナルキハ國際私法ノ管轄也若
 シ外國ガ裁判國ナルキハ兩人共ニ私權ノ享有アレハ其裁判國ノ内

國行政法ニ從ヒ一方私權ノ享有ナケレバ其國ノ承認セル國際私法
 ノ準則ニ從フ

第三一國異法人日本ニ住居シ日本人ト交渉セルキハ住居地即チ日
 本法ニ從フヤニ付テハ本條ハ甚タ其當ヲ得ス元來本條ハ本國ナキ
 人ニ付テノ規定ナルニ本號ハ本國アル人ナレバ也例ヘハ米國ノ如
 キハ各州法ヲ異ニスルニヨリ米人日本ニ住居シ日本人ト交渉アリ
 タルトテ直ニ日本法ヲ本國法トナスコトハ能ハサルヘシ故ニ此場合
 ニハ米國カリフォルニア州人ナランニハ其州ヲ以テ本國トナス
 右ノ他一國異法人其本國住地ニアリ日本人ト交渉セルキノ如キ右
 論決ヲ以テ推知シ得可シ

問 新民第二條ニヨリ外人ハ私權總テチ享有セル場合ニ國際私法ニ於
 テハ如何ナル影響アリヤ

答 私權ニハ身權上ノモノト財産上ノモノトノ二種アリ全條ニヨレハ

法律命令又ハ條約ニ禁止アル私權ヲ除キ他ノ私權ハ悉ク享有スヘキ也國際私法ハ法律也此法律ハ外國人ノ私權ノ取除ヲナスコトヲ得即チ自國民ヲ保護スル爲メニ外人ノ或私權ヲ本國法ニ依ラシメテ日本法ノ下ニ享有セシメサル也即チ身權上ノ事ハ總テ本國法ノ下ニ立タシムルヲ日本人ノ利益ヲ計ルノ方針也例ヘハ身分能力ニ關スル權親族ニ關スル權相續遺贈ニ關スル權等ハ皆本條ノ取除ニシテ外國人ハ私權ノ享有ナキ也又財産權上ニ於テモ所有權ノ如キハ行政命令ヲ以テ制限ヲ受ク可シ營商權ノ如キモ條約ヲ以テ制限ヲ受ク可シ住居權ノ如キモ幾分カ制限ヲ受クヘキモ制限ナキ部分ハ本邦人ト異ナラサル也夫レ右ノ如クナルヲ以テ身權上ニ於テハ國際私法ヲ以テ殆ント取除ケラレ居ルモノナレハ此權ニ關シテハ總テ國際私法ノ管轄ニ屬シ外人ノ私權ト日本ノ私權ト管知法律ヲ異ニスルモノトス而テ本條ニヨリ享有アル外人ノ私權ト日本人ノ私權

ト交渉セル片ハ內國行政法ノ部分ニ入り本邦人相互ノ爭訟トナリ國際私法ハ全ク用ナキニ至ル何トナレハ日本法ノ許ニ私權ヲ享有セル以上ハ日本法ニヨリ其私權ノ保護ヲ受クヘキモノニシテ日本人等シテ民法其他ノ私法ノ下ニ生活スルモノナレハ也

問 適法ナル子ノ住所如何

答 未成年中ハ父ノ住居トス即チ父ノ爲メニ代表セラレタルモノト見做シ得ヘキ也故ニ父母ニ携帶セラレ諸國ニ歸化セル片ハ毎ニ父母ニ代表セラレ居ルモ本國ニ殘留ノ父母ノミ歸化セル片ハ住所ハ父母ノ住所ニアラス我人事編一六一條ニヨリ后見開始ス后ニ述ヘシ

問 私生子ノ住所如何

答 父ガ認知セシ片ハ父ノ住所ヲ以テ子ノ住所トス父認知セサル片ハ母ノ住所トス夫レ自ラ生計スルコト能ハサル者ハ生活セシムル人ノ住所ナルヲ以テ見易キ所也父認知セズ母婚姻ノ其家ヲ去リタル

其ハ如何我民法ハ此場合ニハ直ニ后見開始スルモノトス是レ親ニ次テ利益ヲ謀ルモノハ后見人ナレハ也即チ后見人ハ幼者ヲ生活セシムルノ人也然ルニ若シ母婚姻スルコトナク外國ニ歸化セシ其ハ如何子ガ母ニ附從セル場合ハ母ニ代表セラルレモ若シ子ヲ殘留ノ母一人歸化スルモ其ハ后見始リ后見人ノ住所也トス但シ母ガ外人ニ婚姻スルモ其ハ親權消散スルコト前ノ如シ是レ恰モ父死シ母ガ里方ヘ歸復セシキト同一也尙ホ幼者ノ住所ヲ變シ得ルヤニ付テハ別問アリ

問 父母共ニ知レサル子ノ住所如何

答 捨子ト同シク拾主又ハ育兒院ヲ以テ子ノ住所トス住所ハ生活ノ中心點即チ本據地ナルニ捨子ハ自ラ生活スルコト能ハサルニヨリ生活セシムル人ノ住所ヲ以テ住所トス

問 父死去セル后ハ母又ハ后見人ハ幼者ノ住所ヲ變シ得ルヤ
答 本問ニ付テハ左ノ諸説アリ

第一母ハ其子ヲ第二婚姻ノ地ニ移スコトヲ得ス

第二幼者ノ住所ハ母后見人等ハ之ヲ移スコトヲ得ス

第三母后見人等ハ正當ノ理由アルモ其ハ裁判所ガ許可スルニ於テハ之ヲ移スコトヲ得

第四母又ハ后見人ハ之ヲ移スコトヲ得

親權ナルモノハ子ヲ保護スルモノニシテ親ノ利益ナル權能ニ非ラス社會ニ對スル義務ト云フモ不可ナキ程ノモノ也我民法ニヨレハ父母共ニ存スレハ父之ヲ行ヒ父死去セハ母之ヲ行フ母ハ父ニ若カサルコト大ナルヲ以テ或國法ハ補助人ヲ置クノ制アレモ母モ親也假令父ニ及ハサルモ補助者ヨリモ密也ト云フヘシ故ニ我民法ハ之ヲ置カス而テ父母共ニ家ヲ去ルヤ親權行用不届ナルヲ以テ后見開始ス尤モ父母ノ一方去ルノミニテハ后見開始セサルハ親權存スルノ故也然リ而テ住所ナルモノハ子ニ取リテ重大ナルモノニシテ容易ニ變

更テ許ス可キニアラス故ニ母ガ第二婚姻ニ依リ外國ニ移ルニ當リ共ニ子モ隨行セリトテ住所ハ完全ニ移ル可キニアラス第二婚アルヤ全時ニ后見開始スルニヨリ子ノ住所ハ后見人ニ代表セラル、モノ也事實子ハ外國ニアルモ住所ハ后見人ノ代表スル所トナレリ后見人ハ子ノ爲メニ管理行爲ノ外ナシ能ハサルヲ以テ住所ノ變更ハ子ニ取リ不利益ナルニヨリ之ヲナシ能ハサルモノ也之ヲ爲サンニハ親族會ノ許可ヲ要ス故ニ本問ハ要スルニ母ハ親權ヲ行用シ得ル間ハ父ト同シク子ノ住所ヲ代表シ得可ク后見人ハ親族會ノ許可ヲ得テ始テ變更シ得可シトナスハ法理ニ適セリ

問 父母共ニ外國ニ歸化シ子一人殘存セルキハ子ノ住所如何

答 我人事編百六十一條ハ此場合ハ親權ヲ行フ能ハサルモノトシテ后見開始シ后見人ノ住所ヲ子ノ住所トス但シ殘存スルコトナク附從セルニハ國民分限モ共ニ變更スルヲ以テ住所ハ尙更ナリ又父死去シ母

一人生存シ親權ヲ行用シ居ルニ當リ母歸化シ外人トナリ之附從ノ外人トナルニ於テハ住所モ母ニ代表セラル、モ婚姻ノ外人トナル場合ニハ前問ノ如ク后見開始ス

問 婦ノ住居如何

答 婦ノ住居ハ夫ノ住居ニ隨伴スルモノトス法律ノ力ニ依リ有効ニ夫ト別居セハ格別然ラザランニハ假令婦ハ事實上別居セルモ婦ノ居所ヲ以テ住居トスルコト能ハス然レド夫ノ行ク處毎ニ婦ヲ伴フト云フコト能ハス夫ノ監獄内又ハ癲狂院ニアルガ如キハ夫ノ住居ト云フ能ハサルヲ以テ之ニ伴ハス尤モ出獄ノ上政府ノ強制干涉ヲ得テ一定ノ地ニ止ムヲ得ス居ヲ定ムル住居即チ不完全ノ住居ハ婦ヲ伴ハシムル也何トナレハ婦ハ夫ニ依リ生活スルモノト推定スレハナリ然リ而テ婦ノ住居ハ夫之ヲ代表スト云ハスノ隨伴スト云フハ何ゾキ元來父ガ子ノ住居ヲ代表スルハ親權ガ子ノ利益ヲ計リ子ノ意思

ヲ推測ノ管理スルヨリ生スルモノナレハ丁年ニ達スルヤ其意ニ反
 ン代表スルヲ能ハス且ツ子ハ天然の無能力ナレハ法律ガ婚
 姻中ハ常ニ或一部ヲ制限シタルニ止リ絶對的ノ無能力ニ非ラス只
 夫ニ隨伴ノ共ニ生計スルモノナルヲ推定セシモノナルヲ以テ管
 理行爲ニモアラス丁年問題モ生セス婚姻中ハ終世此推定ニ反スル
 ヲ許サハル也是レ代表スト云ハス隨伴スト云フヲ妥當也トス
 問 學生ノ住所ハ如何

答 幼年者ナルニ於テハ假令事實外國ニ居留スルモ父ノ本國ニ代表セ
 ラルハヲ以テ敢テ疑ナキモ丁年者ノ學生ニ付テハ如何殊ニ夫婦留
 學ノ場合ニ於テハ如何夫レ住居ハ生計ノ本據地也留學ハ生計ノ事
 ニアラス故ニ住居トシテ存セス或一定ノ時間其地ニ留在スル一ノ
 居所トシテ見ルヘキ也恰モ流浪士ノ如キノミ
 問 雇人ノ住居如何

答 左ノ諸項ニ別テ解説スヘシ

第一幼年ニシテ業務見習ノ爲メナルハ、父母ニ代表セラレ父母ノ住居
 也トス尤モ總テ幼年者ハ本項ノ如シ

第二右ノ業務見習ノ爲メ幼年ヨリ被雇人トナリ丁年ヲ過クルモ年
 期中ナルハ、尙父母ニ代表セラレテ繼續シ居ルヲ以テ父母ノ住居
 第三自ラ一戸ヲ構ヘ日勤スルモノ、日勤スルハ生計ノ事也故ニ住宅
 ヲ住所トス

第四右ノ一戸ナク主人ニ宿泊スルモノ、主人ノ家ハ生活ノ本據地也
 第五幼年ノ日勤者、是レ見習ニアラス勞役ニ服シテ生業ヲナスモノ
 ナレハ幼年者ハ總テ父母后見人ニ代表セラルハ、ヲ以テ父母后見人
 ノ住所ナルヲ第一ノ場合ノ如シ

第六一年ノ見習者、住所ハ生計ノ本據地業務見習ハ生計ノ事ニアラ
 ス詰リ一ノ學生タルニ外ナラス故ニ住居ナキ也

第七厄介者、厄介者ハ生計上ノ人ニアラス自ラ生計ヲナスコ能ハサルモノハ生計セシムル人即チ生活セシムル人ノ住所也病人全様也トス故ニ其家ヲ以テ住所トス

第八營業トナスモ永久ノ意思ナク彼所ニ一日此所ニ二日ト轉所流レ渡リ勞力賃銀ヲ得ルモノ、是レ住所ナキ也在ル所ヲ以テ住所トス
問 法人ノ住所如何

答 夫レ住居ハ生活ノ本據地也法人ガ生活スル中心點ハ法人ノ住所也寺院學校會社國市町村皆公私ノ法人ニシテ其生活ノ中心點ハ此等ノ法人ノ住所也會社ノ支店出張店代理店等此等ノ生活スルハ此等ノ住所也トス

問 癲狂院ハ狂人ノ住居ナリヤ

答 夫レ住所ハ任意ヲ要ス癲癲者ハ任意ナルコ能ハス又強制セラレハキモノニモアラス即チ一ノ無能力者也故ニ管財人之レガ財産ヲ管

理ス可キコ幼者ノ后見人ニ於ケルガ如シ然レモ后見人ハ幼者ノ身權上ノ行爲ヲ管理ヲナスモ管財人ハ財産權上ノ管理行爲ヲミニ限ルヲ以テ身權上ノ住所タルヘキ國籍ハ之ヲ變スルコチ得ヌ故ニ一般學說モ狂者ノ住所ハ發狂前ノ住所ヲ以テ住所トナシ之ヲ變スルコチ能ハストモルハ能ク當チ得タルモノトス

問 官吏ノ住居如何

答 官吏ガ俸給ヲ得テ事務ヲ取ルハ一ノ生計ノ業也故ニ之ガ爲メニ住居スル所ハ住居地也去レバ假令明日轉任スルモ其居所ハ住所也然レモ出張ヲ命セラレ、カ如キハ住居トハ云ヒ難シ必ス歸省シ一定ノ居宅ヲ有ス可キ也軍艦乗組人ノ如キモ亦然リ總テ此等ハ住宅ヲ有シテ行商スル者ト全一也又家族ヲ本國ニ存シ自己一人外交官領事トシ外國ニ在住スル者ノ如キハ本籍ハ本國ニシテ住所ハ館内也トス是レ館内ハ生計ノ本據地ナレハ也

問 無期囚徒ノ住所如何

答 無期ノ囚徒ハ住所ヲ獄舎地ニ移スト云フハ定説ナルニ有期ノ囚徒ハ前住所ヲ維持ストハ亦定説也夫レ住所ハ生計ノ本據地也生計トハ任意生業ヲ以テ社會ニ立ツノ謂也囚徒ハ生計ヲナシ得ルモノニアラス任意ナルニアラス故ニ有期無期ニ拘ラス前住所ヲ以テ住所トシ相續遺贈ニ付テハ前住所法ニ依ルヲ至當也トス故ニ無期囚徒モ逃走ノ時効ニ罹ルハ、アアラハ前ニ回復ス可キ也去レハ獄舎ハ單ニ居所トシ取扱ハルハ、ニ過キサル也

問 本籍即チ誕生住居ヲ去リ單純住居即チ撰擇住居ヲ取ルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ

答 吾人ガ社會ニ生存スルニハ第一ニ重ンス可キハ身權也之ニ次ク所ノモノハ財産權也本籍住所即チ誕生ノ住所ハ此二者ヲ兼ヌ然ルニ身權上ニ付テハ本國ヲ慕ヒ財産權上即チ生計ニ付テ他國ニ移居ス

ル所アリ是レ本法ノ單純ノ住居地ニシテ生計ノ中心也此ニ於テカ處世ノ中心ハ本籍地ニシテ生計ノ中心ハ住居地也依之看之吾人ハ二者ヲ毎ニ連帶セサル可カラサルモノニアラス身權上ニ適當ニシテ生計上ニ不適當ナル場合ニハ生計ノ中心點ノミヲ變セサル可カラス歐米各國人ガ我邦ニ渡來シ生業ヲ營ムモノ是也生計ニ適當ニシテ身權上ニ不適當ナル場合ニハ本籍即チ誕生地ヲ移ササル可カラス歸化人ニシテ前國ニ生計スルモノ是也但本問誕生住所ハ誕生ト只ニ其國民分限ヲ有スル場合ヲ指スモノ也夫レ右ノ如ク甲ヲ捨テ乙ヲ取ルニハ甲ヲ捨ツルノ意思ト他ヲ得ルノ事實トアルヲ要スルハ一般ノ定説也トス乙ヲ得ルノ事實トハ必シモ到着スルヲ要セス先ノ管轄ヲ出ツルニ於テ已ニ成立セリ例ヘハ日本ヲ去ルノ意思ヲ以テ米國ニ到着セントスル事實即チ日本領海ヲ出外ツルハ、ニ於テ始メテ米國ノ住民トナルモノトス但シ此條件ハ本籍ヲ轉スルニ足ラス又先

住居ヲ捨ツルノ意思ニシテ出發スルモ到着ノ不明ナルキ例ヘハ何レニカ其地ヲ見テ住居ス可シトナス如キハ一時住居ナキ也何トナレハ此者ハ一ヲ拋棄シテ未ダ他ヲ得サレハ也

問

如何ナル場合ニ於テ人ハ住居ナキヤ

答

人ハ必ス誕生ノ住居即チ本籍住居換言セハ處世ト生計トヲ兼ネタル場所ナキ能ハス然レモ此住居ハ父母ニ代表セラレ又ハ其他ノ生活セシメ呉レル所ノ人ニ代表セラレ、モノナレバ丁年ニ至リ之ヲ取捨スルコト得而テ左ノ場合ニ於テハ住居ナキモノ也
第一前住居ヲ捨テ新住居ノ不確定ナルモノ、例ハ日本ヲ拋棄シ去リ何レニカ住居ヲ撰取セント欲シ期スル所ナク洋中死亡セシモノ、如キ是也然レモ假令日本ヲ拋棄シ領内ヲ去ルモ先方ノ場所確定シ居ルキハ其場所ヲ以テ住居トス又先方確定シ居ルモ日本領内ヲ去ラサル間ハ日本トス是レ未ダ去ラサル間ハ拋棄セリト云フ可カラ

サレハナリ

第二前住居ヲ拋棄シタル行商人浪人職工等ガ新住居ヲ得サルモノ

第三前住居不明ニシテ新住居ナキモノ

第四前住居ヲ拋棄シタル外國ニアル囚徒囚徒ナルモノハ前住居ヲ當然失フヘキモノニアラス人ハ必ス誕生住居ナルモノハ存スルモノ也此ハ拋棄セサル以上ハ存在スルモノトス而テ本號ハ前住居ヲ拋棄シタル人が新住居不確定ノ間外國ニ至リ犯罪ノ爲メ囚徒トナリタルモノ也囚徒ハ強制捕押ノモノニシテ任意ノ條件ナク生活ノ方針ニモアラサルニヨリ住居トハ云ヒ難キコト前述ノ如シ

問

何故ニ訴訟ハ被告人ノ住居ヲ管轄スル裁判所ヘ提出スヘキモノナルヤ原告住居ノ裁判所ヘ訴フルコトヲ許サ、ルハ何ソヤ

答

吾人ハ自己ノ主權ノ命ニ從フノ義務アリテ他ノ主權ニ服従スルノ義務ハ當然生セス裁判權ハ主權ノ一部也故ニ吾人ハ自己ノ屬スル

裁判權ニ服スルヨリ他ニ無之也故ニ外國人原告人トナルニ於テハ吾人ニ對シテハ吾人ノ住所タル裁判權ニ訴ルニアラサレハ吾人ハ之ヲ拒ムコトヲ得可シ而テ原告若シ敗訴センカ原告ハ此判決ニ服従スルノ義務アルモノニアラス何者原告ハ自己ノ主權ニアラサレハ也故ニ此判決ヲ原告ニ對シテ効力ヲ有セシメンニハ原告ヲ管轄スル主權ノ許可ヲ經サル可カラス然ルニ住所ハ必スシモ本籍地ニ限ラズ外國ニ有効ナル住所ヲ有シ外國主權ノ保護ヲ以テ私權ヲ享有スル場合ニハ其享有セル私權ニ關シテ其住所地ノ主權ノ裁判ヲ受クヘキ也是レ兩ナカラ訴テナスニハ被告人ノ住居ノ裁判權ニ提出スル所以也トス

問 家族ノ住居スル所ト自己ノ營業スル所トハ何レガ住所ナルヤ

答 住所ハ生計ノ本據地也生計ノ營所也生計ノ業ナカラシカ生活スルコト能ハス家族ノ住スル所ハ自己カ身權ヲ伸張スルノ中心點ニシテ營

業所ハ財產權伸張ニ關スル中心點也故ニ身權ニ關スル住所ハ家族ノ存在地即チ本籍地ニシテ財產權ニ關シテハ營業所ヲ住所トナス尤モ本籍地ト雖モ許多ノ財產權ヲ有ス可ケレハ財產權ニ關シテハ此處モ住所トシテ差支ナキ也只營業所ニ於テハ單純ノ身權上ノ住所トスルコト能ハサル也但シ營業所ニ於テモ其地ノ主權ニ私權ノ享有アルハ其私權ニ付テハ本籍地ト全シ而テ父ガ在留地ヲ有効ニ住居トナスハ子ハ代表ヒラレ夫ガ如此ナルハ夫婦ヲ隨伴スルニヨリ子婦ハ現實本國ニ居ルモ如此場合ニハ代表隨伴セラル可キ也

問 政書上ノ住居トハ何ソヤ

答 政治上ノ事ハ身權上ノ事ニシテ身權ニ於テ公務ノ者也即チ公權公務ノ事也兵役ニ關スル住所選舉ニ關スル住所納税ニ關スル住所等ヲ云フモノニシテ重ニ本籍ヲ包含シ住居即チ生計中心點ニ於テ身權上ノ事ヲ伴フハ其住居ニモ隨伴シ又單ニ住居即チ財產權上ノ點據

地ニテモ財産權ニ關スル納稅義務ノ如キハ之住居地ニモ存在セリ
問 訴訟上ノ住居トハ何ソヤ

答 訴訟ニ關スル住居ニノ訴訟ノ目的ガ身權上又ハ財産權ニ存在スル
ニ從ヒ其權利ノ存在スル住居ニ訴訟ヲ提出スルニヨリ訴訟上ノ住
居ヲナス例ヘバ私權ノ享有ナキ外國人ガ我國ニ來リ我邦人ト財產
權上ニ對シテ爭議ヲ生スルモ彼ハ財産權上ノ點據地ハ外國ナルヲ以
テ彼ノ住居ハ外國本國也從テ訴訟上ノ住居モ本國也然レモ新民法
第二條ハ當然外人ニ私權ヲ享有セシムルヲ以テ流浪ノ外人ニ對シ
モ我邦ニ起訴スルヲ得ルガ如シ

問 國民分限即チ國籍ト住居トノ關係如何

答 國籍即チ國民分限ハ國際公法及ヒ內國行政法ニ於テ有スル關係ハ
暫ク措キ國際私法ニ於テ有スル關係ヲ茲ニ述ヘントス
私權二種アリ身權財産權是也人ハ私權ヲ以テ社會ニ棲息スルニ當

リ身權財産權ノ二者ヲ執行スルニ一處ニ點據スル事アリ數ヶ所ニ
分行スルトアリ而テ身權ヲ行用スルニ當リ公私ノ二方ニ分行活動
ス公方ノモノハ自國主權ニ對シテ活動ス兵役ノ件議員ノ件官吏トナ
ルノ件等也私方ノモノハ已人相互間ニ活動ス此身權ヲ公方ニ行用
スル場所ハ國籍ニ限ルモノニシテ私方ニ行用スルニハ國籍ニテモ外
國ノ場所ニテモ可也トス又財産權ヲ行用スル場所ハ生計ノ點據地
タル住所ノミニテモ又國籍ニテモ可也單ニ住居地ト云フハ生活ノ
資材タル財産權行用ノ場所也トス依テ左ノ如ク解剖スルヲ得
第一國籍身權ヲ公私ニ行用シ或ハ公方ノミ行用シ或ハ財産權ヲ併
テ行用ス

第二住居身權ヲ私方ニ活動シ財産權ヲ併テ行用シ或ハ財産權ノミ
ヲ行用ス此住居地ニ身權ヲ私方ニ行用スルトハ例ヘバ外國人ガ日
本ニ住居シ日本人ヲ妻トナスガ如キ是レ財産權上ノトニアラスノ

身權上ノ私方行用法也

七十八

第三章 身分及ヒ能力

問 身分トハ何ソヤ

答 身分トハ社會一區劃タル一國家内又ハ社會ノ一區劃タル一親系内ニ於テ公衆ニ對シ有スル人格ノ關係ナル地位即チ階級ヲ表ハス品格也爵位ノ階級種族ノ階級長幼ノ階級等是也而テ一般ノ身分即チ國家内ニ於ケル身分ハ國家外ニ於テ品位ヲ有セサルト尙親系身分即チ特別身分ガ親外ニ於テ品位ナキト同様也而テ親系身分ハ國家ノ區劃ニ關係セス是レ社會ノ區劃ヲ國家ト親系内トノニ立論シ來レハ也故ニ日本ノ爵位ハ英國ニ品位ナキト雖モ日本人ガ英國ニ親族ヲ有スルモハ英ニ於テ品位ヲ有ス即チ兄弟姉妹タルノ資格ハ英國内ニ迄モ及ホスヘキ也論者曰外國貴公ガ日本ニ到着スルモ日本ハ之ヲ平民視スルヤト是レ固ヨリ之ヲ過スルニ平民視セサルモ

斯ハ品位ヲ以テナスニアラス國際上ノ交誼ニヨリ相互ノ利益上之ヲナスノミ故ニ外國ノ伯爵ハ必シモ日本ノ此爵ト同列ニ置クニ限ラス時宜ニヨリ上下スルコトアレモ國ノ公ハ候ヨリ下ルコトナシ是レ身分ハ一區劃ヲ出テハ効力ナシト云フ所以也

問 能力トハ何ソヤ

答 能力トハ人ガ先天的ニ有スル或權利義務ノ主体タルコトヲ得ル資格ニシテ何人モ之ヲ奪フコト能ハサル也然ルニ未成年者ノ無能力ト云フコトハ未成年者トテ能力ヲ有セス丁年ニ至リ俄然能力發生スルト云フニハ非ラス法律ガ未成年者ヲ保護シ回收スヘカラサル損害ヲ防ガンガ爲メ能力ノ活動ヲ制止セシ迄ニテ能力ヲ奪ヒタルニハ非ズ禁治産者ノ如キ皆然リトス

問 權能トハ何ソヤ權利ト如何ナル關係ヲ有スルヤ

答 ボアソナード氏權能ヲ解釋スル大要ニ曰權能トハ之ヲ執行ノ利益

七十九

ヲ必セザルモノ也權利ハ之ヲ執行セス必ス利益ヲ期スヘキモノ也
 例ハ家屋ヲ建築スル如キ地所ヲ買入ル、ガ如キ家屋ヲ建築セリト
 テ必ス利益ヲ期ス可カラス地所ヲ買入レタリトテ亦然リ云々我國
 法學者中之ヲ解スルモノ、中最モ有力ナルモノ其說曰權利ハ之ニ
 對スル義務者アリ權能ニハ義務者ナシ依之之ヲ徵スルヲ得ルト
 右各說共ニ正鵠ヲ得タリト雖凡其性質ヲ知ランニハ左ノ如ク明解
 スルヲ要ス曰權能トハ吾人が社會ニ生存スルニヨリ先天的ニ與ヘ
 ラレタル能力也此能力ヲ分テ三種トナス

第一權利ヲ製造スルノ能力

第二權利ヲ行用スルノ能力

第三權利ヲ棄滅スルノ能力

右ノ三能力即チ權能ハ能力ノ一種ニシテ義務ニ關スル能力ト相對立
 スルモノニシテ先天固有物也故ニ何人モ之ヲ奪フコト能ハス然ルニ國

家ハ自衛自存上之ヲ制限スルコトヲ得此ガ却テ能力所有者ノ管理行
 爲トナルコトアリ即チ未成年者ノ能力瘋癲者ノ能力ヲ制止スルガ如
 キ囚徒ノ能力ヲ禁スルガ如キ是也右ノ三權能ニ付キ說述スベシ
 第一權利ヲ製造スルノ能力例ヘハ材木ヲ買入レテ引渡要求權ヲ製
 造シ家屋ヲ建築ノ建物ノ所有權ヲ製造シ其他諸多ノ債權ヲ製造ス
 ルガ如シ

第二權利ヲ行使スルノ能力例ハ材木引渡要求權ヲ行用シ家屋ニ住
 居シ賃貸シ承役地ヲ通行シ受戻權アル地所ヲ受戻シ其他ノ諸多ノ
 債權ヲ行用スルガ如シ

第三權利ノ棄滅スルノ能力家屋ヲ取毀テ其他諸多ノ債權ヲ拋棄シ
 其他無償ニテ權利ヲ消散セシムルヲ云フ

夫レ右ノ如ク權能ハ吾人が出生ト全時ニ先天之ヲ享有シ來リタル
 ナリテ對償出捐ヲナシタルモノニアラス故ニ國家ハ必要上之ヲ制

限スルモ之レガ對償物ヲ支拂フコトナシ然ルニ權利ハ吾人ガ能力ヲ以テ製造セシヲ以テ多少ノ資本ハ之ヲ要シ居レリ故ニ國家ハ必要上之ヲ收用スルニハ償金ヲ出サ、ル可カラス土地收用物品徵發ノ如シ但シ彼ノ犯罪ノ用ニ供セシ物件ヲ沒收スルハ制裁ニノ國家ガ物品利用ノ爲メニアラサレハ償金ヲ出スヘキニアラス

而テ權利ハ吾人ガ能力ヲ以テ或ル人ニ對シ製造スルモノナレハ是ニ對スル義務者アリ論者ノ云フ所權能ニ義務者ナク權利ニハ義務者アリト云フ所以也要スルニ權能トハ權利ヲ製造行使棄滅スルノ能力ト云フノ義也

問 自分ト能力トノ關係如何

答 身分ハ國家或ハ親系内ニ於ケル階級ノ表示也能力ハ人ノ先天的ニ有スル權利義務ノ主体タルコトヲ得ル資格也然ルニ先天的ニ得ル能力ハ各人皆同一ナルヲ以テ法律ハ身分ノ如何ニヨリテ能力活動方

法ヲ行用スルコトヲ制限セサル可カラズ例ハ婦ハ夫ノ許可ナクノ或事ヲナス能ハス未成年者ハ或ル年齢ニ達セサレハ總テノ能力ヲ活動スルコト能ハサルガ如シ此身分ニヨリ能力ヲ行用スルコトヲ規定スルハ法律ノ力ニヨルヘキコト明也若シ然ラサランニハ身分不相應ノ能力ヲ活動スルニ至リ公同秩序ヲ害スルヤ大也而テ人ハ何レノ國法ニヨリ身分及ヒ能力ヲ制定セラル、ヤ國際私法ノ準則ニ曰人ノ身分及能力ハ本國法ニ從フト羅馬法系國ハ之ヲ承認セリ英法系國ハ屬地主義ヲ取り人ノ身分能力ハ所在地法ニ從フトセリ夫レ身分能力ハ本國主權ノ下ニ於テ風俗習慣法律等ニヨリ適當方法ヲ斟酌シ取得制定セシモノ也即チ風土人情氣候習慣等ニ匹適スル範圍内ニ於テ此身分ニハ此能力ヲ行用セシメ彼ノ身分ニハ彼ノ權能ヲ行用セシメザル等其人ニ適當ナル制規ヲ設クルコトハ本國法ニ若クモノナシ此法制ニシテ其人ニ適センカ其人ト交渉スル外國人モ亦大

ニ利益アル可キ也例ハ日本國ハ暖國ニシテ發育速カナルニヨリ二十歳ヲ以テ幼者ノ身分ヲ脱セシメ完全ナル能力ヲ行用セシム英國ハ寒國ニシテ發育遲キヲ以テ二十五歳ニ至ラスハ幼者ノ身分ヲ脱セシメス從テ十全ナル能力ヲ行用セシメサル等皆本國法ヲ適當トスル所以也

問 人ノ身分能力ヲ本國法ニ從ハシムルノ利益如何

答 吾人が撰テ其主權ノ下ニ屬スルハ其主權ノ法律命令ガ吾人ニ完全匹適シ些少ノ欠點ナキモノト推定スルヲ得可シ若シ然ラザランカ他國ニ歸化シ自己ノ最親愛スル主權ノ下ニ立タン故ニ國際私法ノ準則トシ自國人ヲ保護スルガ爲メ外人ニ適用スルハ本國法ヲ取りタルモノ也若シ外人ニ適用スルニ我國法ヲ取ランカ其人ニ不當ニシ此ト取引交渉セル我人民ニ取リテ不利益トナル也即チ人ノ身分能力ハ本國法ニ從フトノ準則ハ公益上ノモノナレハ之ニ反ス

ルコトヲ得ス例ハ本邦人英人ト約シ英人若シ丁年トナラハ何々ヲ贈與セント后英人我丁年ナル二十才ニ至リ余ハ丁年ニ達セリ故ニ贈與ヲ受ク可シト主張スルモ英人丁年ハ二十五才ナルヲ以テ本邦人ハ之ニ故障シ曰貴公ハ二十五才ナラズンハ不可也二十才ニテハ貴國法ハ貴公ノ能力ヲ不完全トセバナリト論者曰英人ハ英國ノ風土人情氣候習慣其他百般二十五才ナラズンハ丁年トシ幼者ノ身分ヲ脱セシメス十全ノ能力ヲ行用セシメス然ルニ若シ英人日本ニ歸化スル片ハ俄然風土人情等二十才ニ適スルニ至ルヤト否凡ソ國法ナルモノハ總テノ規定ヲナスニ當リ總テノ規定ガ國結抱合ノ完全備スルモノ也日本法ガ二十年ヲ以テ丁年トセル規定アラハ總テノ規定之ヲ適當タラシムル法律命令アルヲ以テ歸化人ニ不都合ナキ也固ヨリ日本法ハ固生ノ日本ハニ適當ナル程歸化人ニ適當ナルモノニハアラサレモ若シ絶テ不都合ナランニハ種々ノ行政法ヲ以テ

之ヲ纏繞センノミ夫レ此ノ如クナルヲ以テ身權上ニ關シハ本國法ヲ以テ最モ適當トナスヘキ也

問

法例第六條曰外國人日本ニ於テ日本人ト合意ヲナスキハ外國人ノ能力ニ付テハ其本國法ト日本法トノ内ニ付テ合意ノ成立ニ付キ最モ有益ナル法律ヲ適用ストノ規定ヲ說述スヘシ

答

本問ハ例ヘハ日本人二十才英人二十四才ナル二人ノ合意ヲ假想ス夫レ人ノ身分能力ハ本國法ニ從フトノ國際私法ノ準則ヲ直解スル并ハ英人ハ無能力ナルヲ以テ右合意ハ之ヲ取消シ得ヘシトセサル可カラス是レ英人寒地發育遅ク二十五才ニ至ラサレハ思慮薄弱到底事ヲ完全ニナシ得ヘカラサレハ也然ルニ本條ハ其未成年者ノ行為ヲモ有効トシ取消シ得可カラサルモノトスルハ何ソヤ夫レ日本國民ハ外國法律ヲ知悉スルノ義務ナシ一舉一動自國法ヲノミ熟守シ他ヲ顧ミサルハ万國民皆然リ去レハ容貌体格ニシテ有能力ト認ム

ルニ足ル并ハ此ト合意取引ヲナスハ止ムヲ得サルト也トス其都度身分證書ヲ一々取調ヘ得キモノニアラス然ルニ其合意ヲ明クニ取消シ得可シトセンカ善意ナル本邦人皆損害ヲ被ムルニ至ラン是レ公同利益ノ爲メ止ムヲ得スノ設ケタル也然レ本條ハ日本國內ニ於テノミ行ハルヘキモノニシテ在外日本人ガ外人ト右ノ合意ヲナセリトテ外人ハ之ヲ取消ス可シ得可シ是レ外人ノ未成年者ハ外國之ヲ保護シ日本ノ未成年者ト外人ノ丁年者トノ合意ニ外國ハ亦本條ノ如キ規定ヲ取ルト異ナラサレハ也
而テ本條ヲ適用センニハ外人ガ日本ノ丁年ニ達セルトテ要ス若シ英人十五才日本人二十才ナランカ英法日本法共ニ未成年ニシテ容貌体格ヲ誤リタルニ付キ法律ヲ知ルノ義務ナシト云フ問題生セス又本條ハ日本人ノ善意ヲ要スルヤ言ヲ俟タス

問

身分能力親族ノ關係及ヒ親族ノ關係ヨリ生スル權利義務ハ總テ本

國法ニ從フト雖其本人ガ本國ナキモ如何

答 第一住居地法ニ從フ、住居地法ハ其人ガ甘受セルモノト推定スルヲ得可シ

第二居所法ニ從フ、住居地ナキモ居所法ハ右ノ推定ヲ生ス法律ハ人其人ノ甘受セルモノヲ最モ適當トス去レハ其適當ナル法律ニヨリ進退セル其人ハ本邦人ト交渉セルモ當リ其人ニ本邦法ヲ適用スルハ不適當ニツ從テ本邦人ノ不利益トナルヘキ也

問 前問ハ國籍ナキ場合ナルカ國籍ハアルモ其國タル各州法ヲ異ニスルモ例ハ北米合衆國ノ如キハ何レノ州ノ法律ヲ適用スヘキヤ
答 此レ亦住居スル所ノ法律ニ從フ可シ即チ其人ガニューヨーク州ノ人ナラハ該州ノ法ニ從フ可シ假令日本ニ住居セリトテ日本法ニ從フヘキニアラサル也何トナレハ國籍ハ米國ナルコト判然タレハ也故我法例ハ此點ニ付テ少シク不完全ナリトス

問 前々問ノ場合ニ於テ二ノ國民分限ヲ有スル場合ニハ何レノ國法ニ從フヘキヤ

答 一人二國民分限ヲ有スルノ止ムヲ得サルコトハ國民分限ノ部ニ於テ已ニ講述セシ所也此等ノ人ハ最后取得國ノ法律ヲ愛慕セシモノナルヲ以テ最后法ニ從フ

問 前問最后國法ニ從フト云フト雖其時ニ兩得セシモ如何例ヘハ佛人夫婦ガ英國ニ於テ子ヲ擧ケタルモ英ハ屬地主義ヲ取ルヨリ英人トナシ佛ハ屬人主義ヲ取ルヨリ佛人トナサン

答 法例第八條二項初段ニ曰日本國民分限ト外國民分限トヲ併有スルモハ日本法ヲ適用ストノ趣旨ナレモ此場合ハ日本人ノ資格ニテ爲スモノナレハ國際私法ノ問題生セス斯ハ假令日本民分限ヲ前ニ得有セル場合ト雖モ此ノ如クナセシハ當事者ノ利益ヲ計リタル也夫レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對スル規定也本邦人

ヲ保護スルニハ其外人ニ最適切ナル法ヲ取ルコソ本邦人ノ利益ナリ故ニ本問二分限ヲ同時ニ有セル場合ニハ其外人ヲ何レナリトモ撰擇セシムルヲ良シトス何トナレバ自ラ撰擇スルハ其人ニ適當ナルトナ知ルニ足レリ而テ何レモ共ニ本國ナレバ差支ナキ也

問 法例第八條第二項末段ニ二國以上ノ外國民分限ヲ有スルモノハ最
后ニ之ヲ取得シタル國ノ法律ニ從フトノ規定ハ命令法ナリヤ聽許
法ナリヤ即チ外國民ハ二ヶ擇一權アリヤ否

答 人ノ身分能力ハ本國法ニ從フトハ日本人ヲ保護スル爲メ外國人ニ
對シ適用スル法律ヲ確示セシ法規也而テ外人ノ身分能力ニ關スル
法律ハ本國法ニ若クモ無シ是レ本國法ハ其人ニ能ク適合スル
モノ也トハ法律カ推定セシモノナレバ之ヲ動かカス能ハサル也然リ
而テ二ヶ以上ノ本國法アルハ最後法ガ人ノ意ニ適セリトハ法律
ガ亦之ヲ推定セシ也然レモ二ヶ以上ノ本國民分限ヲ有スルハ事情

種々ニシテ必シモ最后法ガ其意ニ適セリトノ推定ハ絶對ニ的中セリ
トナス能ハス故ニ其人ガ明カニ余ハ二ヶ國中此方ガ意ニ適セリト
指示セルニ於テハ法律ノ推定ハ動サル可カラズ之ヲ動シタリトテ
本國法ニ從フトノ原則ハ破レサル也此ノ如クニ利益本邦人ヲ保護
スルノ途ヲ得タリト云フヘキ也

問 破産ノ効果トシテ總テ榮譽上ノ私權ヲ失ヒタル人ハ復權ヲ得サル間
ハ外國ニ於テモ其私權ヲ行用スルコトヲ得サルヤ

答 破産者ハ商社會ノ障害者也商ノ信用安全ヲ害シタルノ人也此人ヲ
ノ無制限ニ私權ノ行用ヲナサシメ置クハ倍商道ニ害毒ヲ流演ス
ルニ至ラン此ニ於テ乎主權者ハ自己ノ區劃内ノ商ノ安全ヲ維持ス
ルガ爲メ破産法ヲ制定シ種々ノ公益ニ關スルノ規定ヲナシ商道ヲ
流滑ナラシム此結果トシテ遂ニ諸ノ私權行用ヲ制限ス而テ主權ハ自
國內ノ爲メニ計リ自國內ノ爲メニ商道ヲ整理シ自國內ノ範圍ニ於

テ秩序ヲ維持スルモノニ決メ外國ノ爲メニ計ルニ暇アラズ去レ
 バ破産者ハ外國ニ往クニ於テハ外國ノ主權配下ヲ壞亂スルヤ明也
 即チ外國主權管内ノ商道ニ害毒ヲ布クヤ明也然レモ斯ハ外國主權
 ガ隨意ニ整理スレハ格別破産者本國ノ干渉スルニ暇アラサル也故
 ニ破産者ハ自國ニ於テ諸種ノ私權ヲ失却スルモ外國ニ出テハ其
 外國法ニテ何等ノ制限ヲ加フル迄ハ完全ニ私權ヲ行用スルヲ得
 ヘキナリ況ンヤ破産者ハ自國法ニヨリ失權ヲ招キタルモノニ他
 國法ニヨリテ招キタルニアラザルヲヤ

問 甲國ニ於テ支拂停止ヲナセシ事實アルキ債權者ハ外國人ナレハ勿
 論甲國人ニテモ若シ支拂停止者ガ乙國ニ移轉セシルハ乙國ニテハ
 未ダ取引ナキモ前ノ支拂停止ヲ理由トメ乙國主權ニ破産ヲ申立ル
 ヲ得ルヤ

答 然リト答フ可シ夫レ支拂停止ト云フ事實ハ商社會ト云フ一ノ區劃

内ニ於ケル事實也決メ一國ノ區劃内ノ商社會ノミニ於テノ障害ニ
 アラス全球上ノ商社會ハ團欒一ノ商社會也甲國內ニ於テ支拂ヲ停
 止セハ此事實ハ一國ニ止マラサル也斯ク論スルハ甲國ノ停止者
 ナ乙國ニテ直チニ破産宣告ヲナシ得ルガ如キモ凡ソ法ヲ其人ニ適
 用スルニハ少クトモ自國ノ管轄ニ來ラサル可カラス然ラスンハ如
 何ニ秩序ニ害アルモ宣告ヲナスヲ得ス

問 甲國人甲詐欺破産ヲナシタル場合ニ甲ハ乙國ニ逃レタルニヨリ甲
 國ハ乙國ニ罪人引渡ヲ要求シ得ルヤ

答 詐欺破産懈怠破産ノ嫌疑アルニ於テハ之レガ引渡ヲ要求シ得可シ
 是レ他ノ犯罪ト異ナラサル也但シ罪人引渡條約アルヲ要スルハ他
 ノ犯罪引渡ノ場合ト異ナラサル也

第四章 親子分限

問 外國人甲ガ日本ニ於テ日本女子ト共ニ乙ナル庶子ヲ擧ケタリ而テ

女子ハ固ヨリ依然日本人タリ然ルニ乙ハ人事編第八條第一號第九條第一項ニヨリ日本人分限ヲ撰取シ居リタリ(人事編第七第八第九條參照)后甲ハ右女子ト婚姻ヲナセリ此場合ニ於テ乙ハ人事編第三百三條ニヨリ甲ノ嫡出子タルコトヲ認メシムル爲メ日本裁判所ニ訴テ起シタリ然ルニ日本法律ハ庶子ハ父母ノ婚姻ニ依リ嫡出子トナルニ甲國法ハ之ニ反セリ何レノ國法ヲ探ルヘキヤ但シ乙ハ今ノ處ニテハ日本人タルコト明也

答 夫レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メ外人ニ對シ適用スルノ規定也乙ハ日本人也甲ハ外國人也人ノ身分能力親族ノ關係及ヒ其關係ヨリ生スル權利義務即チ身權一切ハ本國法ニ從フ但シ本法ノ秩序ヲ害スルキハ此限リニアラス故ニ乙ヲ保護セシガ爲メニ甲ノ本國法ニ從フヘキ也而テ甲ノ本國法ニ從フキハ我邦ノ秩序ヲ害スルヤ否ヤヲ研究センニ父母ニシテ適法ノ夫婦ナル以上ハ乙ハ適法ノ正統

子ナルヤ亦明也只乙ガ出生當時ハ女子ガ正妻タラサリシ丈ニ父ノ知レサル子即チ私生子ニハ非ラサリシ若シ之ヲ嫡出子トナサスノ后出ノ子ヲ嫡出子トナスニ於テハ乙ノ正統ノ實弟ヲ以テ嫡出子トナスモノニシテ尊鄙ヲ例置スルモノト云ハサル可カラス是レ誠ニ公益ニ反スルノ行爲也依之看之第三百三條ハ共同秩序ニ關スルノ規定ニシテ乙ヲ保護スル爲メニハ甲ニ對シ甲ノ本國法ヲ適用スル能ハス即チ公ノ秩序ニ關スルモノハ此限ニアラスト云フ取除法ナリ

問 日本ノ私生子ヲ外人ガ認知センニハ何レノ國法ニヨルヤ
答 夫レ國際私法ハ本邦人ヲ保護センガ爲メニ外國人ニ對シ適用スル法規也即チ日本ノ私生子ヲ保護センガ爲メ外人父ニ對シ適用スルノ法規也本問ハ外人父ガ日本ノ私生子ヲ認知セントスルニハ父ノ身分能力親族ノ關係等ハ父ノ本國法ニ從フハ能ク日本私生子ヲ保護スルノ途ニ適セリ何トナレハ認知ヲ受クテ父子ノ關係ヲ生シ終

世父トノ尊戴スルニ於テ父ノ最モ其身ニ適當ナル法律ヲ取ルハ子
 ノ爲メニ利益也其法律ハ父ノ本國法也トス即チ最モ父ニ適當セル
 法律ニヨリ認知ヲ受クルハ子ノ利益ニシテ父ニ不適當ナル法律ニヨ
 リ親子ノ關係ヲ維持スルハ子ノ爲メニ不利益也是レ父ノ本國法ヲ用
 ヲル所以也然レ父ノ認知法律ニシテ我秩序ヲ害スルアラシカスハ
 適用スルコト能ハス彼ノ佛國ニ於テハ姦通ノ子ハ認知ヲ許サス我國
 ニハ此規定ナシ故ニ子ハ日本法ニヨリ佛ノ父ニ認知ヲ求ムルモ父
 ハ自國法ニヨリ拒ムヘシ如此ナリトテ本法ノ公益ヲ害スルモノニ
 アラス認知セルト否トハ父ノ權能ナレハ也強テ認知ヲ求ムルモ父
 ノ本國法ニ反スルハ父國ニ於テ父子ノ關係ヲ生セス認知ヲ受ケ
 タリトテ何ノ効モナシ是レ財產損トハ異ニシ身權ハ本國法ニ從フ
 ノ準則ノ生セシ所以也

問 英人我國ニアル亂倫ノ子ヲ認知セントスルニ我國法ハ之ヲ許サス

答 如何

答 人ノ身權上ノ事ハ本國法ニ從フハ能ク我國人ヲ保護スルノ途也然
 レ其法ガ我國ノ公同秩序ヲ害スルハ之ニ從フコト能ハス本國亂
 倫ノ子ニ父ノ認知ヲ許スルハ父子兄弟倫階ヲ壞亂セン是レ公同秩
 序ヲ害スルノ規定也故ニ之ヲ許サハル也

問 甲國法ハ父ガ認知ヲナサンニハ丁年ナルヲ要シ乙國法ニハ此規定
 ナシ甲國甲ハ乙法ニヨリ認知ヲナサントス如何乙國判決ヲ判決

答 乙國ノ眼ヨリ見ルハ子ハ乙國人也國際私法ハ本邦人ヲ保護スル
 爲メ甲國人ニ對シテ適用スル法律ヲ指定スルノ法規也人ノ身權上ノ
 事ハ本國法ニ從フ甲ガ認知ヲナセリトテ無能力ノ認知ハ父子ノ爲
 メニ永久好良ノモノニアラス即チ乙ノ爲メニ利益ヲ計ラントセハ
 有効ナル認知ヲ望マズンバアラス是レ本國法ニ從フ所以也即チ丁
 年以下ノ認知ハ之ヲ許サス

問 甲國人未成年者ノ子ヲ殘シテ乙國ニ歸化シ后甲國ニ居留ノ子ニ對シ親權ヲ行ハセトスルニ當リ甲法ハ之ヲ許サス乙法ハ之ヲ許セリ何レノ法律ニ依ル可キヤ先ツ甲國判決ヲ求ム

答 夫レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メ外人ニ對スル適用法律ヲ指定スルノ法規也即チ子ナル本邦人ヲ保護スル爲メニ父ナル外人ニ對シ適用スル法律ヲ指定スル法規也人ノ身權上ノ事ハ本國法ニ從フチ本邦人ノ利益トスレモ公同ノ秩序ニ關スルモノハ此限ニアラズ甲法ガ外人タル親ニ親權ヲ行フヲ許サハルハ子ノ爲メニ計リタル也公益ノ規定也乙國法ノ規定スル親權ヲ外國ニ行フヲ許スハ之ヲ甲國內ニ許ス可キニアラス即チ身權上ノ事ハ本國法ニ從ハントスルモ公同ノ秩序ニ關スルニヨリ從フヲ能ハス

問 前問乙國判決ヲ求ム
答 乙國ヨリ見レハ國際私法ハ本邦人父ヲ保護スル爲メ甲國人子ニ對

スル適用法ヲ發見スルノ法規也子ノ身分能力親族ノ關係等ハ子ノ本國法ニ從ヒ親權ヲ行ハサシムルヤト云フニ乙國法ガ親ニ親權ヲ行ハシムルハ親ヲ保護スルノ規定ニシテ公同ノ秩序ニ關スルモノ也即チ子ニ對シ親權ヲ行フヲ許スヘキ也本問ニ付テハ許多ノ判決例ハ親權ヲ親ノ利益ト見テ絶對的ニ親國法ニ依ル可シトナシ反スル學說ハ親權ハ子ノ利益ト見テ子ノ法律ニ從ハシム此等ハ國際私法ヲ以テ本邦人ヲ保護スル爲メ外人ニ適用スル法規ナルヲ悟ラス國際公法ノ如ク天上裁判官ガ兩人ヲ裁判スルトト誤思スルノ結果也

問 外國人ハ日本國ノ子ニ對シ親權ヲ行ヒ得ルヤ
答 人事編第十二條第一號ニ依リ日本人外國ニ歸化シテ外國民分限ヲ取得シ婦子ハ父ト共ニ外國ニ行カズ全第十四條ニヨリ引續キ日本ニ住居シ依然日本人タリ此場合ニ於テ父不在ニヨリ母ガ全第四百四

十九條ニヨリ親權ヲ行フモ父ガ歸來シ家ニ居テ全フスルハ父子ノ關係滅失セシニアラサレハ全條末段ニヨリ父之ヲ行フコト得可キ也然レモ本問ハ寧ロ民法問題也何トナレハ親權ヲ行フニハ何レノ法律ニ依ルヘキト云フナレハ格別行フコト得ルト否トハ內國法ノ管轄ニ屬スレハ也

第五章 后見

問 外國ニアル后見人ノ不動産ニ付被后見人ノ法律上ノ抵當權ハ其外國ニ對抗スルヤ

答 元來法律上ノ抵當權ハ公益ヲ害スルノ點ヨリ認めサル國モアレモ假リニ本邦ヲ認ムル國トシ外國ヲ認めサル國トシ問題トナス可シ此場合ニ於テ本邦ニアル被后見人ト外國ニアル后見人ノ債權者ト本問ニ於テ交渉問題ヲ生ス而テ本問ハ身權上ノ問題ヨリハ財產權上ノ問題也トス夫レ不動産ハ所在國法ニ從フト云フ規則アルヨリ

被后見人ハ自國法ニヨリ抵當權アリト云ヒ債權者ハ外國法ニヨリ無シト云フニアリ元來法律上ノ抵當權ナルモノハ父ノ有スル管理權又后見人ノ行爲ニ付親族會ノ許可ヲ受テ財產上ニナス諸事項ノ如キ主トシ身權上ニ重キモノトハ異ナレリ一見スレバ幼者ト后見人トノ間ニ起リタルモノナレハ身分ニ關スル如キモノナレモ詰リ后見人ニ對スル他ノ抵當債權者ト異ナラス而テ不動産ニ關スル法律ハ所在地ノ秩序ニ關スルモノナレハ后見人國法ニ從ハサル可カラス反シ幼者外人ニシテ后見人日本人ナラシカ法律上ノ抵當ヲ幼者ノ爲メ與ヘタルハ日本ノ幼者ヲ保護スルノ法律ナレハ當然外人ナル幼者ニ利用スルコト能ハス尤モ新民法第二條ハ原則トシ私權ノ享有ヲ外人ニ與ヘタルヲ以テ當然抵當ヲ利用シ得可キ如クナレモ法律上斯クアルヘキニアラサル也

問 外國ノ父ガ日本ノ子ノ財産ニ管理權ヲ行フニハ何レノ國法ニ依ル

答 身權上ノ事ハ本國法ニ從フ子ノ財産ヲ父ガ管理スルハ子ヲ保護スルノ途ニ親權ノ一部也父タル外人ハ自己ノ最モ適當ナル法律ニ依リ完全ニ親權ヲ行使スルハ子ニ對シ利益也但シ我邦ノ秩序ヲ害スルノ行爲ハ之ヲナスコトヲ得ス又管理ナルモノハ害惡ノ行爲ニハ非サルコトハ勿論ナルモ若シ其一部行爲ガ害アルニ於テハ之ヲ我邦ニ及ボスコトヲ得ス

問 外國人ハ我國人ノ后見人タルコトヲ得ルヤ

答 后見人ノ權利義務ハ親權ト畧同一也子ヲ我邦ニ殘留シテ父ノ歸化スルコトハ一般許ス所也而テ歸化シタル父ハ親權ヲ喪失スルヤト云フニ家ヲ去リタル母ハ行用スルコトヲ得スト云ヒテ喪失セリト云ハズ歸來シ家ニアラハ行用スルコトヲ得夫レ己ニ親權ヲ行用シ得ルコトセハ同性質ナル后見權ヲ行用シ得サル可カラズ故ニ父母又ハ親

族會ガ外國人ヲ指定シ其外人ガ日本ニ居ル間ハ后見權ヲ行用シ得可キ也而テ本問モ亦民法問題也

問 后見事務ハ后見國法ニヨリ行フヘキヤ被后見國法ニヨルヘキヤ

答 一般學說ハ被后見國法ニ依ル可シトセリ是レ被后見人ノ利益ヲ計リタル也夫レ國際私法ハ裁判國ニ於テ自國民ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シ適用スル法律ヲ確定スルノ國外法也故ニ本問ハ我國ノ被后見人ニ對シ外國ノ后見人ガ后見事務ヲ取ルニハ何國法ニ從ヤト云フニ人ノ身分能力等即チ身權上ノコトハ本國法ニ從フ即チ后見事務ハ后見人ト云フ身分ヨリ生スルモノニ後見國法ニ從フヘキヤ明也而テ其法中被后見人ノ國ノ秩序ヲ害スルモノハ被后見人ニ不利益ナレハ之ヲ行用スルコトヲ得ス此點ヲ除キテ后見人ニ適當ナル法律ハ被后見人ニ利益ナリト云フ可シ

問 前問后見人國ノ判決ヲ求ム

答 例へハ或事項ニ於テ被后見人國法ニヨレハ親族會ノ決議ヲ要ス后見國法ニハ此法規ナリ被后見國ノ親族ヨリ苦情出テタリトセシニ國際私法ハ裁判國ガ自國民ヲ保護スル爲メニ外國人ニ對シ適用スル準則也其準則ニ曰人ノ身權上ノハ本國法ニ從フ故ニ自國人タル后見人ヲ保護セシ爲メニハ被后見人ノ本國法ニヨルヘシ即チ親族會ノ許可ヲ得サル可カラス此許可ヲ得タリトテ后見人國ノ秩序ヲ害スヘキモノニアラス夫レ此ノ如クニ被后見人ニ利益ナル以上ハ引テ后見人ニモ亦利益ナリトス是レ國際私法ハ自國人ノ利益ヲ計ル爲メ外國人ニ對シ適用スル法律ヲ規定スル法規也ト云フ所以也

問 本邦ニ於テハ父母共ニ死セズンハ后見開始セズ自義耳國ニ於テハ一方死去スレハ開始ストアリ茲ニ自國人日本ニ至リ父母子三人居留中父死去シタルニ付キ母ハ子ニ對シ后見人ヲ撰定シタリ此后見

行爲ハ我邦人ニ對シ有効ナリヤ
 答 例へハ日本人ガ自國幼者ニ對シ義務ヲ履行セン爲メ母ニ提供セリ然ルニ別ニ后見人アリテ再辨濟ヲ求メ來リタリトセン日本人ハ右ノ后見ハ無効ナレハ辨濟ハ有効ナリト主張スルトチ得ルヤ后見人ハ反對主張ヲナスコチ得ルヤ國際私法ノ準則ハ人ノ身權上ノ事ハ一切本國法ニ從フ是レ其人ニ適當ナルヨリ此ト取引スル我邦人ハ詰リ利益ヲ得可キ也夫レ或ハ自國法ヲ知ラサル爲メ再辨濟ヲナスコチモアランガ斯ハ不注意ナル辨濟者ニシテ此ノ如キ人ノ爲メニ國際私法ノ準則ヲ枉クル能ハス否枉クルニ於テハ外人ニ不適當ナルヨリ尙ホ大ニ本邦人ヲ害スルニ至ラン國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ノ管知法律ヲ指示スト其管知法律ハ身權上ノコトハ一切本國法ニ從フト云フコトハ一刻モ忘ル可カラサルコト望ム

問 前問自國人ノ父死去シタルニヨリ母ハ后見人ヲ撰定セントスルニ

當リ日本ニアル白國母子等ノ親族ハ日本法ニヨリ后見未タ開始セ
スト主張シテ之ヲ拒ムコトヲ得ルヤ

答

國際私法ハ本邦人ナル右親族ヲ保護センガ爲メ白國人ナル母子ニ
對シ適用スル法律ヲ指定スルノ職分也而テ其法ニ曰人ノ身分能力
等ハ本國法ニ從フト於此乎甲者曰ク夫レ親族ガ后見行爲ニ對スル
諸般ノ行爲ハ幼者ニ對スル義務ト同時ニ權利也即チ幼者ノ爲メニ
充分ニ利益ヲ計リ置キ前途親族間ノ厄介物タラサランコトヲ希ヒ后
見人ヲ撰決シ幼者ヲ養育シ代表シ監護セシム換言セハ親族ハ十分
ニ幼者ヲ發達セシメサルキハ后來手前共ノ厄介物トナリ大迷惑ヲ
被ムルコトアルヲ恐レテ幼者ニ對シ種々ノ干涉行爲ヲナス權利ヲ有
ス即チ親族等ノ自衛ノ權也此點ヨリ論スルキハ義務ト云ハンヨリ
ハ寧ロ權利大ナルコトヲ着眼セサル可ラス而テ父母ノ一方ナル親
ト此ヨリ薄遠ナル他人ナル后見人トハ何レガ幼者ノ發達ニ利益ナ

ルヤ今ヤ問ヲ要セス去レハ親族ノ爲メニハ白國法ヲ適用スルハ日
本人タル親族ヲ保護スルノ途ニアラス即チ日本ノ秩序ニ害アルモ
ノ也乙者曰白國法ハ白國ノ幼者ニ最モ適セリ何トナレハ白國ノ母
ハ父ノ如ク敏活ナルモノニアラス從テ專攻后見人ヲ撰定シ親族會
之ヲ監視スルハ母一人ニテ親權ヲ行フヨリ優ルト万々也甲者曰白
國法ヲ攻撃スルノ募ヲ持タス假リトノ答辨セン成ル程子ニ
取リテ利益ナラハ親族モ其目的ヲ達スルヲ以テ敢テ異議ナカルヘ
キモ元來親族ハ日本國民ニシテ日本法ヲ以テ保護セラレ日本法ニ違
反セル法律ハ自己ノ爲メニ受クルニハ不利益トナサ、ル可カラス
日本主權ガ親族ヲ保護スル爲メニ規定シタル法律ハ公ノ秩序ニ關
スル法律也固ヨリ后見制度ハ主トシテ幼者ヲ保護セルモノナレ后前
ノ理由ヨリ見レハ幼者ノミナラス親族ヲモ保護セルモノ也白國法
律ハ白國ノ親族ニハ利益ナランガ日本ノ親族ニハ不利益ナリ然レ

凡一般學說ハ幼者ノ爲メニ計リ白國法ニ從フニ說交理アルガ如シ
而テ本問ハ只白國ニ從フキハ日本ノ秩序ヲ害スルヤ否ヲ決定セハ
疑問氷解セン若シ秩序ニ關セズンハ無論白國法ニ從フヘキ也本問
ノ場合ニ母ガ日本人ニシテ子ガ白國人ナルキハ母子ノ間ニ於ケル間
題トナリ母ヲ保護スル爲メニハ白國法ヲ用ユル能ハス即チ母ヲ指
テ疎遠ナル后見人ヲ撰フハ日本ノ秩序ニ關スルモノナレモ母子共
ニ白國人ナルニ於テハ親族ナル日本人ヲ保護スルニハ白國法ヲ適
用スル方却テ利益ナリ親族會ハ毎ニ后見人ヲ監視セハ可也其時ニ
至リ監視ヲ許サストク白國法アリトセバ此ヨリ秩序ニ關スルモノ
ナレハ日本ニハ其効ナキ也

問 后見人ト幼者ト異國人ナル場合ニ后見行爲ノ制限ニ付テハ何レノ
國法ニヨルヘキヤ假リニ幼者ヲ日本人トス

答 后見行爲ハ被后見人ノ利益ノ爲メナレハ被后見人國法ニヨル可シ

トハ一般學說ノ贊スル所也夫レ國際私法ハ日本ノ幼者ヲ保護スル
爲メ外人ナル后見人ニ對シ適用スル法律ヲ規定スルモノ也其準則
ニ曰ク人ノ身分能力親族ノ關係等一切ノ身權ハ本國法ニ從フ但シ
日本ノ公ノ秩序ニ關スルキハ此限ニアラス后見權ハ財產權ニアラ
ズ親權ニ代ルヘキ身權也故ニ后見人ニ利益適當ナル本國法ニ從フ
コソ幼者タル日本人ニ利益ナリトス或制限例ハ元本ヲ利用シ借財
ヲナスコソハ親族會ノ許可ヲ受クヘキコソハ本邦人事編第百九十四條
第一號ハ幼者ノ爲メニ秩序ニ關スルノ規定也故ニ之ニ反スル規定
ハ日本ニ効テ及ホスト能ハス又若シ之ニ反シ日本ノ幼者ガ外國ニ
留在シ外國ノ后見人ヲ設ケタリトスルモ此制限ハ國際私法ノ準則
ノ原則ノ通り幼者ノ本國法ニ從フ何トナレハ右ノ事項ニ付キ親族
會ノ許可ヲ得タリトテ后見人國ノ公益ヲ害スルモノニアラス即チ
后見人ヲ害スル事ナケレハナリ

問 人事編第九十四條第二號ニヨリハ動産ノ重要ナルモノ及ヒ不動産ヲ讓渡スルハ后見人ハ親族會ノ決議ヲ經可キモノナルニ外國法ハ其規定ナシ然ルニ其外國人カ其國ニ在留スル日本人ノ后見人タル場合ニ於テ動産不動産ハ所在國ノ法律ニ從フヘキモノナレハ后見人國法ニ依ルヘキヤ如何

答 動産不動産ハ所在國法ニ從フトノ準則ハ動産不動産ヲ支配スル法律ヲ外國法ヲ用ユルキハ所在國ヲ害スルガ故也然ルニ本問親族會ノ許可ヲ經ルルハ動産不動産ニ關スル法律ニハ非ラス幼者ノ身權上ニ關スル法律也即チ所在國ガ裁判國トノ論スレハ國際私法ハ自國人ナル后見人ヲ保護スル爲メニ外國人ナル幼者ヲ管スル法律ヲ指定スルモノ也而テ其準則ハ人ノ身權上ノコトハ本國法ニ從フトアリ但シ公ノ秩序ニ關スルモノハ此限ニアラス即チ幼者ニ適當ナル法律ヲ撰ムハ后見人ニモ亦利益也是レ親族會ノ許可ヲ得タリトテ

后見人國ノ秩序ヲ害スルモノニアラス即チ本問ハ不動産等ニ關スル法規ニアラサルノ故也

第六章 婚姻

問 婚姻成立ノ要素如何但シ國際法ノ關係ニ付テ答述ス可シ

答 第一双方ノ承諾本國法ガ承諾ヲ要スト規定シ承諾ヲ經テナシタル婚姻ハ何レノ國ニ至ルモ有効也例ハ甲國人乙國人ト契約ヲナシ乙若シ婚姻ヲナサバ甲ハ我家屋ヲ貸與ス可シト乙歸國ノ上本國ノ女ト承諾上婚姻ヲナサンカ其婚姻ハ乙國ニ於テ有効ナル以上ハ甲ハ家屋ヲ貸與セサル可カラス尤モ本國法ガ假令承諾ヲ要セストアリテ甲國法ハ承諾ヲ要ストアルモ甲ハ乙ノ婚姻ヲ無効トスルコトヲ得ス何トナレハ身權上ノ事ハ一切本國法ニ從フモノニ乙ノ婚姻ガ我甲法ニ不適合ナリトテ決シテ甲ヲ害スルモノニアラス甲ガ乙ニ對シテ約シタルハ乙ノ婚姻ト云フ條件ニヨリテ乙ハ條件ヲ白國法ニ

リテ充タシタルモノナレハ也要之爭ハ身權上ニアラスノ財産上ニ
 アリ若シ甲女ト乙男トノ婚姻ナルニ於テハ爭ガ身權上ニアルヲ以
 テ甲女ノ不承諾ハ婚姻ヲ成立セシムルヲ能ハサル也
 第二儀式是レ普通各國習慣トシテ之ヲ要セリ只米國ノ如キハ人口僅
 少ニシテ婚姻ヲ獎勵スルヨリ儀式ヲ要セサル也我國ニ於テハ法律ヲ
 以テ之ヲ要セハ是レ前號ト共ニ皆公益ニ關スルノ規定也即チ謹慎
 丁重ナキ野合ノ如キハ風俗ヲ害スル也故ニ假令日本男子ニ米國女
 子ト米國ニ於テ無儀式ニテ婚姻ヲナスモ無効也米國裁判所ノ判決
 トシテ身權上ノ男子ノ本國法ニ從フノ故ヲ以テ成立セストナ
 シ日本裁判所ノ判決トシテ無儀式ハ公益ヲ害スルノ點ヨリシテ無
 効也只米國人間ニ於テコソ何國ニ至ルモ有効タル也
 第三男女ハ禁制親系ニ非ラサルヲ禁スル國ト禁セサル國トノ間ニ
 身權上ノ問題生スルキハ禁スル國ハ公益上ノ規定ナレバ固ヨリ無

効也故ニ問題ガ身權上ノ事ハ其本國人相互ニ止リ而國民ノ問題ハ
 財産上ナルキハ有効ヨリ例ヘバ甲國ハ禁シ乙國ハ禁セストシ甲國
 ノ兄ト乙國ノ妹ト婚姻ヲナサントスルニ當リ甲國裁判所ハ人ノ身
 分ニ關スルコトハ乙ノ本國法ニ從フ可キモノ也ト云フト雖モ乙國ニ
 從フキハ甲國ノ公益ヲ害スルヲ以テ之レガ婚姻ハ不成立トナス又
 乙國裁判所ハ人ノ身分能力ハ本國法ニ從フ即チ甲ノ國法ニヨリ婚
 姻ハ亦無成立トナス可シ何トナレハ禁制法ヲ乙國ニ及ボシタルト
 テ乙ノ公益ヲ害スルモノニアラス去レハ如此婚姻ヲ強テ乙國ニ於
 テノミ成立セシムルハ乙女ニ取リテ不利益ナルニヨリ人ノ身權上
 ノ事ハ本國法ニ從フト云フ準則ノ行ハル、所以也然ルニ右兩國間
 ノ人ガ條件付ニテ契約ヲナス片例ヘバ甲國甲ガ乙國乙ト契約シテ
 曰乙ガ若シ婚姻ヲナサハ家屋ヲ貸與セント而テ乙ハ自國ノ禁スル
 所ナキ爲メ禁制親ニ當ルモノト婚姻ヲナセリ此場合ニ於テ甲ハ家

屋ヲ貸與セサル可カラス何トナレハ此婚姻ハ乙國內ニ於テ有効ニ
 メ甲國ニ關スルモノニアラス甲ハ只婚姻ノ成就アリタルヤ義務ヲ
 辨濟スヘキモノナレハ也

第四一男一女土耳其其他ノモルモン宗國ニ於テハ數婦ヲ許容セリ
 ト雖モ我國其他ノ文明國ニ於テハ之ヲ許サス右數婦國ニ於テハ人
 口増殖ノ獎勵法トシテ之ヲ許スモノナレハ一夫一婦ヲ約スルモ不法
 ノ合意ニシテ無効也又反對國ニ於テハ風俗ヲ壞乱スルニヨリ之ヲ認
 メス如此反對ニ各兩國ノ公益ニ關スルハ裁判各自ニ相衝突ス可
 ク止ムヲ得サル也例ヘハ其國ノ男子ト我國ノ女子ト婚姻ヲナサ
 シカ外國裁判所ハ女法ヲ取ラス自國法ニヨリテ數妻ヲ取ルヲ許シ
 我裁判所ハ一夫一婦ノ判決ヲ與ヘシ從テ前妻アルニ於テハ此婚姻
 ハ成ラサル也

第五特別種族間ノ禁制ニ反セサルコト宗教國ニ於テハ此禁制アリ此

禁制アルルハ其本國法ニ從フヘキ也但シ公益ニ關スルルハ此限ラ
 ス故ニ其禁制アル國人ト我國人ト婚姻セルモ異宗ナルルハ我裁判
 所ハ彼ノ本國法ニヨリ不成立ヲ言渡スヘキ也是レ強テ婚姻ヲ維持
 セシメントスルモ彼ノ本國ハ之ヲ認メサルニ於テハ我國人ノ不利
 益ナルニヨリ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メ外國人ノ遵守スヘ
 キ法律ヲ規定スルモノニシテ其法律ハ身權上ノコトハ本國法ニ從フモ
 ノ也トス又我國ニ於テハ國體維持ノ爲メ皇族ハ皇族間ニアラサレ
 ハ婚姻ヲ許サス只止ムヲ得サル場合ニ勅許ヲ得テ華族ト婚姻ヲナ
 スコトヲ得

第六相姦者ニアラサルコト是レ亦兩國反對法ナル場合ニ身權上ノ問
 題生スルニ於テハ公益ニ關スルニヨリ本國法ヲ用ユルコトヲ得ス英
 法系國ハ許シ佛法系國ハ禁セリ

問 前婚解消后六ヶ月間ハ再婚スルコトヲ得ストノ規定(人事三二條)アル

日本女子ト此規定ナキ外國男子トノ婚姻如何

答 國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ノ遵守スヘキ法律ヲ指定スルモノ也其準則ハ外人ノ身權上ノ事ハ一切本國法ニ從テ扱外人タル本問男子國ノ法律ハ前婚解消后直ニ再婚ヲ許ストノ規定ヲ適用シ日本女子ニ害アルカ否ヲ見レハ本問ハ瞭然タリ害アラバ公ノ秩序ニ關スルトナシテ日本法ニ從テ若シ害ナケレハ必ス利益ナルモノナレハ男子國法ニ從テ夫レ前婚解消后六ヶ月ヲ經スノ再婚スルハ系統ヲ壤亂シ相續權ヲ擾敗シ家内行政ノ圓滑ヲ妨クルヲ防クノ規定ニシテ極メテ秩序ニ關スルノ規定也假令夫ガ承諾スルモ永久ニシテ一朝悶着起ルヤ引取所ノナキモノ也何ソ夫ガ一時不熟ク承

諾ヲ以テ日本ノ公益ヲ維持スルヲ得ンヤ尤モ日本法ニ違反シ外人ノ婦トナリ外國民分限ヲ取得シタルハ日本ノ親族ハ何時ニテモ無効トナスヲ得可キ也此場合ニ於テハ國際私法ノ問題ハ親族ト夫トノ間ニテアリ

問 外國ノ女日本人ノ妻トナリ后婚姻ヲ無効トナサンニハ自國法即チ外國法ニ依ルヲ得ヘキヤ

答 本問一言以テ答フルルハ國際私法ノ問題ニアラス何トナレバ國際私法ハ自國民ヲ保護スル爲メ外人ニ對シテ適用スル法律ヲ指示スル法規也本問ハ二人共ニ日本人也即チ女ハ婚姻ニヨリ日本人分限ヲ取得シ居レハ也若シ亦不成立ノ場合ニハ殊更ニ訴テナスノ要ナシ不成立ナルモノハ始メヨリ不成立ニシテ積極行爲ヲナスニ及ハサル也而テ不成立ヲ主張スルモノハ各自國法ヲ採テ之ヲ主張ス此ニ至テ始メテ國際私法ヲ用テ生ス例ハ日本男子ト異教禁婚國ノ女子

トノ間ニ女ガ男子ハ同教人ナラント誤信シ婚姻ヲナシタルニヨリ
女モ日本人トナレリ后錯誤ヲ發見シ不成立ヲ主張シ居レリ此場合
ハ不成立ナレバ外國人ナルニヨリ本國法ヲ適用スルトヲ得

問 婚姻ノ儀式ヲ要セザル國民ガ儀式ヲ要スル國ニ於テナスハ如何
人ノ身分能力ハ國際私法ニ於テハ本國法ニ從フ婚姻ノ儀式ハ身分

ニ關スルノ儀式也故ニ本國法ニ從フ可シ又儀式ヲ要セサル國ニ於
テハ無儀式ニテ成立スルヲ以テ彼等全國人ノ間ノ婚姻ハ有効ニ成
立セルヲ以テ何國ニ至ルモ婚姻ハ有効也若シ然ラストセハ米人夫
婦ハ皆悉ク日本ニ夫婦ノ効ナシト言ハサル可カラス故ニ只無式國
人ト有式國人トノ間ニ婚姻論ノ生セシキノミ問題トナリ彼等同志
ノ婚姻ハ假令無儀式ニテモ本國ニ有効ナル以上ハ之ヲ認メサルヘ
カラス日本女子ト米國男子ト米國ニ於テ婚姻ヲナシタルモ女ハ其
無儀式ナルヲ以テ婚姻ノ不成立ヲ唱ヘ婚姻ハ未成立セス女ハ日本

人ノ分限ヲ失ハサルヲ以テ日本法ニ從ヒ無効ヲ主張セシ但シ后ニ
儀式ヲ行フニ於テハ其時ヨリ成立スヘシ

問 兩國婚姻儀式ヲ異ニセルハ如何

答 人ノ身分能力ハ本國法ニ從フ婚姻ノ儀式ハ身分ニ關スル儀式也故
ニ本國法ニ從フ可キ也然レモ形式的ノ事項ハ各國大ニ手續ヲ異ニ
シ風俗習慣ニヨリ甲國ノ要スルモノ乙國之レガ無キモノアリ從テ
甲國ノ要求スル儀式ヲ行フ能ハサルアリ我人事編ハ所在國ノ儀
式ニ從フモ可也但シ無儀式ナルトヲ得サル旨ヲ規定セリ是レ儀式
ト云フ要素ヲ欠ケハナリ我法例第十條ハ外人日本人共ニ形式上ノ
事ニ付テハ所在方式ニ從フモ可也トセリ是レ皆便宜上ヨリ斯ハ規
定セシモノナレハ異式ハ敢テ成立ヲ妨ケスト雖モ風俗ヲ害スル儀
式ハ固ヨリ無キト一般ナリ

問 婚姻ノ豫約ハ我民法ハ之ヲ認メス然ルニ外國ニ於テ之ヲ認メタル

場合ニ其國民が日本ニ於テ日本女子ト豫約ヲナセシ片ハ外國男子
ハ其履行ヲ求ムルコトヲ得ルヤ

答 國際私法ハ自國民ヲ保護スルガ爲メニ外國人ノ遵守スヘキ法律ヲ
指定シタルノ法規也其法規ニ日人ノ身分能力等總テ身權上ノ事ハ
本國法ニ從フ本問婚姻ノ豫約ハ身權ノ作用也故ニ男子ノ本國法ニ
從フヤ若シ豫約履行が日本ノ公ノ秩序ニ關スルモノナルニ於テハ
男國法ニ從フコト能ハサル也婚姻豫約ハ自由意思ヲ強抑スルモノ也
夫レ豫約ナルモノハ本約ヲ必スナス可シト合意スルモノナレバ明
リニ之ヲ解除スルコト能ハスト雖モ婚姻ノコトタル終世處身ノ本據ニ
シテ財產權上ノ契約ヲ以テ律スヘキニアラス終身意向ノ決スル所今
日某ト婚姻センコトヲ約スルモ明日種々ノ事情ノ爲メ其合意ヲ破壞
スルノ止ムヲ得サルヲ見ル故ニ法律ハ之ヲ斟酌シ解約權ヲ一方各
自ニ完全ニ與ヘサル可カラズ然ルニ強テ之ガ執行ヲナサンカ終世

回復ス可カラサル現象ヲ表出スルモノト云ハサル可カラス故ニ婚
姻ノ豫約ハ無効ニシテ公ノ秩序ニ關スルモノトシ男國法ヲ我國ニ對
抗スルコト能ハサル也

問 婦ノ國籍ハ夫ニ歸隨スルモノナルコトハ万国已ニ之ヲ認ムル所也然
ルニ尙ホ夫婦ノ身分上ニ關シ國際私法ノ問題ヲ生スルヤ

答 婚姻一旦成ルヤ婦ハ夫ノ國民分限ヲ取得シ二人一國人トナリ身權
上ノコト一切皆其國法ニ浴スルニ於テ最早國際私法ノ用ナキ也何者
國際私法ハ兩國異法ノ人ノ私權ノ交渉アルニアラサレハ其用ナキ
モノナレハ也然ルニ外形上婚姻成ル如キモ要素ヲ欠キ未タ成立ス
ルコト能ハサルヤ原國人ナルヲ以テ國際私法ノ問題ヲ生ス可キ也故
ニ夫婦間トシテ國際私法ノ問題ヲ生スルニハ不成立ノ場合ノミ也
取消シ得可キ無効ノ場合ニ於テハ問題生セサル也何トナレハ無効
トナラサル間ハ夫ノ國人ナルヲ以テ內國法ヲ管轄ニシテ從テ本國

法ヲ用ユル能ハサレハ也故ニ取消シ得可キ場合ノ如キハ親族ト夫
トノ間ナラハ國際私法ノ用ヲ生ス可シ

問 夫婦財産契約ヲナシタル后夫ガ國籍ヲ變シタル其契約ハ前國法后
國法何レニヨルヘキヤ

答 國民分限ハ身分也身分ノ變更ハ已往ニ遡ルヘキモノニアラス故ニ
無論前國法ニ則ルヘキモノナレモ今ハ已ニ后國人民也現國法ヨリ
以外ノ國法ハ法律トシテ遵守スヘキモノニアラス只事實トシテ見ルヘ
キ也故チ以テ前國法ヲ事實ト見做シ事實上ノ合意トシテ前國法ニ依
ルヘキ也即チ契約事項ハ前國法ニ做ヘタル事實タルノミ例ハ甲國
人タル甲乙夫婦財産契約ヲ嫁資法ニ取リ乙國ニ轉籍シ丙國ニ居留
スルニ當リ丙國ニアル第三者ハ右甲乙間ノ夫婦財産契約ハ嫁資法
ニ依リタルモノヲ認メサル可カラズ而テ此契約ハ身分ニ關スルモ
以テ行言ヲ俟タズ

問 夫婦財産契約ノ四大主義ニ於ケル國際私法上ノ關係如何

答 第一嫁資主義婦ノ持來リタル財産中或ル部分ハ嫁資トシテ婦ノ固有
財産ト定メ置キ殘部ハ婚姻中ノ費用トシテ夫ニ供出セシモノトス是
レ婦ヲ保護シタルモノ也

第二共通主義夫婦各幾分ノ財産ヲ供出シ之チ一ケノ共有体トナシ
婚姻維持ノ費用トシテ據置キ此財産ノ盡サル間ハ各自固有財産ニ及
ハサルノ制也是レ一方チノミ偏ニ保護シタルニアラス

第三別產主義共有財産ヲ置カス婚姻維持ノ費用ハ其都度幾分宛相
互ニ負擔供出スルノ制也

第四歸一主義婚姻成立スルヤ婦ノ財産ハ悉ク直ニ夫ニ歸シ婦ノ財
産トシテ認ムヘキ物ナキノ制ニシテ婦ヲ苛待スルノ甚シキ制也
我財産取得編四百二十六條ハ嫁資制度ヲ法定ノ制トナセリ即チ婚
姻ノ并現ニ所有セシ物ハ其ノ婦ノ固有財産トナシ置キ其果實及

七 婚姻中婦ノ稼ヲ出シタル財産ハ婚姻中ノ費用トシテ夫ニ供出ス可
 キ也右ノ四大主義ハ各國ニ散在シ甲國ハ第一主義ヲ法定ノ制トナ
 シ乙國丙國ハ第二第三主義ト各法定ノ制ヲ異ニセリ今甲男乙女ハ
 婚姻ヲナスニ當リ夫婦財産契約ヲ何レノ主義ニテモ合意セハ合意
 通り敢テ問題生セサルモ若シ合意ナキニ於テハ法定ノ制ニ從ハサ
 ル可カラス而テ法定ノ制ハ前述ノ如ク國々勝手ニ異主義ヲ採用セ
 リ然レト婦ハ嫁スルヤ直ニ夫ノ國民分限ヲ得有スルコトハ萬國之ヲ
 認ムルヲ以テ男女異法國ノ者ガ婚姻ヲナスモ右財産契約ハ夫ノ國
 ノ法定ノ制ニ從ヒタルモノトモ亦問題生セサル也

問 人ノ身分ニ付テハ本國法ニ從フモ身分ヲ解除スル離婚別居ニ付テ
 ハ如何

答 別居トハ離婚セズメ住居ヲ隔離シ事實上離婚ノ有様ニ至ルモノ也
 是基督教國ニ於テ行ハル、習慣法律也其意婚姻ハ神ノ取結ヒタル

モノニ人爲明リニ之ヲ離解スルコトヲ得ス然ルニ意向相協ハサル
 夫婦ハ永久居ヲ共ニスルハ甚タ不快ナルノミナラス國家ノ不利益
 ナルヲ以テ法律ハ別居ノ制ヲ認メタリ此ノ如ク別居モ離婚モ共ニ
 身權上ノ事ニ本國法ヲ適用スヘキモノ也即チ親族ノ關係ヨリ生
 スル權利義務ト云フ内ニ包含セリ而テ本問モ亦夫婦間ニ生スル問
 題ナラハ同國人ナルヲ以テ國際私法ノ問題ニアラス然ルニ問題ガ
 夫婦間ニアラス第三者ト交渉スルキハ國際私法ノ問題トナルヤ言
 ヲ俟タス例ヘハ日本人甲ガ外國人乙ト契約ヲナシ乙ニ我家屋ヲ賃
 與ヘタリ其原因ハ乙ノ妻ハ甲ノ妹ナルヲ以テ親族ノ故ヲ以テ也故
 ニ條件ヲ附メ曰乙若シ其妻ヲ離婚セシナラハ我家屋ハ之ヲ取戻ス
 ヘシト后乙ハ離婚ヲナサズ別居ヲナセリ此ニ於テカ甲ハ乙ニ對シ
 明瞭ヲ求メテ曰ク別居ハ我國法ハ之ヲ認メスト然レト人ノ身權上
 ノコトハ本國法ニ從フ且ツ問題ハ家屋明渡即チ財産權上ニ在ルヲ以

問 テ別居ノ問題ハ夫婦間ノコナレハ甲ハ家屋ヲ取戻ストキ得ス
 婦歸化ノ外國人トナリタルキ夫ニ對シ離婚ヲ求ムルニハ何レノ國
 法ニヨルヘキヤ

答 我國ノ如キハ婦一人外國ニ歸化スルトキ得ス亦婦一人我國民タラ
 ントスルモ夫歸化セス婦モ當然外國人タルニヨリ本問ニ遭遇セザ
 ルニヨリ假リニ外國間ニ本問起リタリトシテ答決セン論者曰夫婦
 ノ關係ヲ生シタル國ノ法律ニヨリ離婚ス可シ然ラストセンカ
 一方ハ隨意ニ歸化シ離婚ヲ求ムルニ至ル可シト然レハ國際私法ノ
 準則ハ人ノ身權上ノコトハ一切本國法ニ從フ而テ婦ノ本國人ト云ヘ
 ハ新歸化國タルコト明也且ツ新歸化國ハ婦ノ意ニ適シ婦ガ終世依據
 セントスルノ法律也只裁判國ノ秩序ヲ害スルコトハ之ヲ用ユルコト能
 ハズ若シ亦婦ノ新國ガ裁判國ナルキハ夫ノ國法ニ從フ是レ國際私
 法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ適用スル法律ヲ指示スル者也

問 第七章 自治産 禁治産 準禁治産

問 自治産者ハ外國ニ對シハ如何ニ
 答 未成年者ノ無能力タル所以ハ未成年者ハ思慮未タ發達セス故ニ治
 産ヲ自ラ爲スニ於テハ自己ヲモ誤リ第三者ヲモ誤マルコトアレハ法
 律ガ公益ヲ計及之ガ權能行使ヲ制止スルモノ也故ニ英法系國ニ於
 テハ如何ナル事情アルモ未成年者ニ治産ヲナスコトヲ許サス然ルニ
 事情ヲ斟酌シ法律ハ之ガ自治産ヲ許スコトアリ例ハ未成年者ガ婚姻
 ヲナスルハ當然治産ヲナスコトヲ得又親權ヲ行フモノガ適當ト認ム
 ルキハ之ヲ許スコト等法律也情ヲ斟酌セシモノ也佛法系國ハ之ヲ許
 セリ於此乎此反對兩國即チ甲國ノ父ガ乙國ノ子トノ間ニ一ノ國際
 私法問題ヲ引起スベシ例ハ右ノ子ガ未成年ニ於テ婚姻ヲナシ當然
 自治産權ヲ得タリ父ガ之ヲ難シテ曰子ハ假令婚姻ヲナスモ我國ニ
 於テハ自治産ヲ與ヘズ是レ未成年者ノ自治産ハ危險ニシ法律ハ保

護ノ爲メ之ヲ許サス我子今ヤ危険ナリ我之ヲ救済スルノ權利義務
 有リ我權利義務ハ父子ト云フ親族關係ヨリ生スルモノニシテ我本國
 法ニ依ル可キ也子ノ國法ハ我子ヲ害セントスルモノ也ト子ハ曰我
 自治產權ハ國法ノ與ヘタル所ニシテ嚴父之ヲ奪フ可能ハスト乙國裁
 判所ハ如何ニ之ヲ判決スヘキヤ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メ
 ニ外人ノ遵守スヘキ法律ヲ指定セルモノ也極言セハ自國人ヲ保護
 スル爲メニハ必要上外人ヲ害スルモ亦止ムヲ得サル也乙國法ガ子
 ニ婚姻ノ結果自治產ヲ與ヘタルハ夫婦ヲ保護スルモノニシテ公ノ秩
 序ニ關スルノ規定也如何ニ外人タル父ガ危険ヲ感シタリトテ之ヲ
 奪フ可能ハズ成程父權ヲ以テ之ヲ奪ハンコトヲ計ルハ身權行使ノ作
 用ナレハ父ノ本國法ニ從フ可キガ如キモ此ノ如キ權能行使法ハ乙
 國ノ公同秩序ヲ害スルヲ以テ効ヲ乙國內ニ有セス

問 如何ナル者ヲ禁治產トナスヤ準禁治產トナスヤニ付テ兩國法牴觸

セシキハ如何ハキ

答 例ハ我人事編第二百二十二條心神喪失ノ常況ニアルモノハ時々本
 心ニ復スルコトアルモ其治產ヲ禁スルコトヲ得令第二百三十二條心神
 耗弱聾啞者盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者トナスコトヲ得此等ノ人ガ
 外國ニ住居シ其國ニ於テ配偶者ヲ得タル場合ニ外國法ハ右規定ニ
 反スルトセシニ此配偶者又ハ親族主戸等ハ何レノ國法ニヨリ彼ヲ
 禁治產者トナスヤ一般學說ハ無論禁治產者國法ニ依ル可シ其理由
 ハ人ノ身分能力ハ本國法ニ從フト云フニアリ然レモ一刀兩斷ニ如
 此一言掩フハ非難ナキヲ得ス

假リニ日本法ヨリモ多ク禁治產ニ附スルノ原由アリトセシニ外人
 ナル親族配偶者ハ彼ヲシテ依然治產セシムルハ自國ノ秩序ニ關シ
 親族配偶者ハ大ナル損害ヲ受クルコトアル可シ故ニ親族配偶者等
 自國法ニヨリテ禁治產ヲ申請ス可シ被禁治產者ハ本國法ヲ以テ

對抗スルコト能ハス此場合ハ國際私法ノ準則ノ例外ニ適スルモノニシテ即チ身權上ノコトモ外國ノ秩序ヲ害スルニヨリ本國法ニ從フ能ハサル也若シ此申請ガ被禁治產者國ニ起リタル片ハ此國ヨリ多キ原由即チ規定外ノ原由ヲ以テ外人タル親族等ハ禁治產ヲ申請スルコト能ハス何トナレハ被禁治產者ハ自國法ヨリ他ニ制限ヲ受クルコトナケレハ也

問 前問禁治產ノ原由ガ本國ヨリモ少キ國ニ居留スル片ハ親族配偶者等ハ被禁治產者ノ本國法ヲ以テ早既ニ禁スルコトヲ得ルヤ
答 本國法ニテ早既ニ治產ヲ禁スルハ配偶者親族等ニ取リテ甚々迷惑ナルヲ以テ所在國ノ公ノ秩序ニ關スルモノトナシ本國法ヲ適用セシムルコト能ハス被禁治產者ニ如何ニ適當ナリトテ所在國人ニ損失アルモノハ所在國ハ之ヲ承認スルコト能ハス是亦例外ニ該當スルモノナリト云フヘキ也

第八章 失踪
問 死亡セリト推定セル失踪宣言ヲナス期間ハ甲國ハ七年乙國ハ五年ニシテ成就人茲ニ乙國人ナル受遺者甲國ニ在留中甲國人ナル遺贈者(失踪者)ニ對シ五年ヲ以テ効力ヲ生セシムルコトヲ得ルヤ之ニ對シ失踪者ノ配偶者ハ七年也ト對抗シ得ルヤ
答 一般學說ハ失踪者ノ本國法即チ七年ヲ以テセント云フト雖本問ハ國際私法ノ問題ニアラス夫レ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シ適用スル法律ヲ指示スル法規ナリ人ノ身分能力ハ本國法ニ從フト云フハトハ外人ヲ指シタルモノニシテ自國人ヲ云フニアラス本問ハ自國人ノ身分能力ノ管知法ヲ定ムルモノニシテ自國人ノ身分能力ヲ自國法ヲ以テ御スルハ國際私法的ノモノニアラス内國法タル行政法民法ノ掛リナリ法例ハ國際私法ノ承認法ニアラス行政的ノモノヲ包含スルモノナレバ國際私法ナルモノハ外人

ノ管知法律ヲ指示スルニ限り内國人ニ適用ス可キニアラス
 問 前問ノ遺贈者ガ乙國ニ住居シ乙國ノ主義ノ下ニ私權ヲ享有シ居リ
 遺贈ヲナシタル后失踪セシキハ死亡推定ノ期間ハ五年即チ乙國法
 ニヨルヤ本國法ニヨルヤ

答 國際私法ハ自國人即チ受遺者ヲ保護スル爲メ外人即チ遺贈者ニ對
 ノ適用スル法律ヲ指示スル準則也本問遺贈者ハ乙國ニ住居シ私權
 ヲ享有シ居ルヲ以テ享有セル私權ニ付テハ乙國人ト同等ノ待遇ヲ
 主權ニ受クルモノナレハ國際私法ノ問題ハ生セサルモ私權ノ部分
 タル身權ニ付テハ享有ナシ即チ國際私法ヲ以テ取除ケアリ曰ク人
 ノ身分能力等ニ付テハ本國法ニ從フト是レ人ノ身權ト云フ私權ニ
 付テハ住居國ニ享有ナキ也此ニ於テ乎國際私法ノ管轄ニ浴ス身權
 三付テハ本國法ガ其人ニ取リ最モ適當ニメ他ニ之レニ若クモソナ
 シ故ニ之ヲ取引セテ受贈者モ亦タ利益タルヤ明也去レハ本問ハ國

國際私法タル準則ノ原則ニ從フモノトス
 第三篇 財產

問 動產不動産ハ所在地法ニ從フトハ何ソヤ
 答 是レ誠ニ國家獨立ノ必要ヨリ生スル秩序ニ關スル規定也其理由
 第一國家經濟ノ進運ヲ計ル事夫レ動產ノ運轉ガ圓滑ナレバコソ能
 ク國民生活ノ發達ヲ高進セシムルモノニ其運轉ノ途ニ障害スル
 アランカ經濟ノ途杜絶シ國民ノ不幸國基ノ倒衰ヲ來スモノアラン
 是レ誠ニ在土ノ動產ハ完全ナル一法律ノ許ニ進退セシムルヲ良策
 第二政權執行ヲ良果ヲ生セシムルコト不動産ハ境土ノ一部分ヲナ
 ス然ルニ不動産ヲ外國法ニ委スルハ治權ノ一部分ヲ外國ニ委スル
 モソニシテ執政ノ不得策タルヤ言ヲ待タズ動產ハ土地ノ一部分ニハ
 非サレテ執政ノ良果ヲ見ルニハ亦本國ノ法ニ浴セシムルヲ好ム

租税ノ徵收物品ノ徵發等はレ治權發動ノ結果也然ルチ外法ニ浴セ
シメンカ政權ニ障害ヲ生スルヤ試ミスノ明也是レ万國此準則ヲ承
認スルニ至リタル理由也

問 動産不動産ハ所在地法ニ從フトノ大原則タル例外トシテ相續及ヒ遺
贈ニ付テハ被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フトノ例外アル理由
如何

答 動産不動産ハ在國ノ法律ニ從フヘキモノナレバ相續遺贈ニ付テハ
本國法ニ從ハシムルハ不都合ナキモノ也否得策也夫レ相續遺贈ハ
重モニ身權上ノモノニシテ殊ニ相續ノ如キハ身權上ノモノタルヤ明
也身權上ノ丁ハ一切本國法ニ從フテ利益トスルコトハ展々述ヘタリ
假令親族ノ關係ナキ所在國人ニ遺贈セリトテ遺贈ノ丁タル死后ニ
効ヲ生シ身權上ニ付キ相續人等トノ間ニ連絡スルモノナレハ身權
一切本國法ニ從ステ所在國人ニモ利益ナリトス尤モ是等ノ丁トテ

モ所在國ノ秩序ニ關スル片ハ假釋スヘキニアラサレバ被相續人遺
贈者等ハ已ニ所在國法ノ許ニ於テ有効ニ得タル權利ナレバ之ヲ相
續人等ニ轉セルハ先代ノ所有セルモノト毫モ異ナラス然レバ凡ソ
人ハ自己ノ有セサル權利ヲ他人ニ讓與スルコトヲ得サルニヨリ先代
ノ有セサルモノハ相續人之ヲ引受クルコトヲ得ス相續后モ總テ所在
國ノ法ニ浴シ進退スルハ勿論言テ俟マス又假令以上ノ如クナルモ
相續方法ガ所在國ノ共同ノ秩序ヲ害スルキハ其効ナシ

問 日本ニアル財産ヲ甲國人甲ガ日本人乙ニ遺贈シ丙國ニ歸化シ死亡
セシ片ハ何レノ國法ニ從フヘキヤ
答 遺贈ナルモノハ遺贈者死亡ニヨリ効ヲ生スルモノナルコト第一死亡
迄ニ取消サ、リシコト第二死亡ノ際能力完全ナルコト第三歸化ハ身權
財産權一切悉ク歸化國法ニ從フモノナルコト第四等ニ徵スレハ丙國
法ニヨルヘキヤ詳細ヲ要セス

問 產動不動產ハ其所在地法ニ從フトノ國際私法ノ準則ニ日本人ガ外

國ニ動產不動產ヲ有ズル場合ニモ之ヲ適用スルモノナルヤ

答 國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メニ外人ノ遵守スヘキ法律ヲ指示

スルノ法規也各國皆此準則ヲ認ムルニ於テハ日本人モ其所在國法

ニ從ハサルヘカラス去レバ日本ニ於テ承認セル此準則ハ日本人ニ

對シ適用スルコトヲ目的トセルニアラス我國ノ承認セル此準則ハ外

國人ニ對シ外國人ノ遵守スヘキ法律ハ日本法ナリト示シ此ニヨリ

テ日本人ニ損害ヲ與ヘサラントセシ也若シ然ラスノ外國法ヲ日本

ノ財産ニ引用センガ外法ヲ熟知セサルヨリ不慮ノ損失ヲ被リ引テ

公益ヲ害スルニ至ル是レ本邦人ヲ害シ外人ヲ保護スルモノナリ

右動產不動產ヲ所在地法ニ從ハシムルハ行政上ノ點ニ基ク多キヲ

以テ公法上ヨリ來ルモノ也故ニ私法上ノ理由トシテハ著大ナルモ

ノナリ公法上ニ絶大ニ引テ私法ニ及ホスモノナリ

第一章 不動産

問 不動産ニ關シ所在地法之ヲ支配スル理由如何

答 第一國家經濟ヲ進運ヲ計ルテ殖産工業ノ途ヲ獎勵スルニハ自國法

ヲ以テ專ラ進退セサレハ良果ヲ生スル能ハズ是レ公法上ノ理由ナ

レ引テ私法ニ及ホスモノトス即チ私權ヲ以テ之ニ交渉スル日本

人ノ利益トシテ外國法ヲ混スルハ殖産工業ノ効果ヲ發達スルコ

ト能ハサル也

第二政權執行上ノ必要不動産ハ境土ノ一部也不動産ヲ外國法ニ委

スルハ外國ニ主權ノ一部ヲ委スルモノニシテ獨立ヲ完全ナラシムル

能ハス公用徵收ニ於テ甚タ不都合ヲ見ル是亦公法上ノ理由ナレ

私法上ニ於テハ前號ニ同シ

第三外國人モ此準則ヲ豫期シテ他國ノ土地ニ權利ヲ設定ス可シ國

際私法ハ自國民ヲ保護スル爲メニ外人ニ對スル適用法律ヲ指定ス

ルモノ也下ノ主眼點ヨリ見レハ此理由ハ薄弱ナルモノ也
第四本國法ヲ適用セントスルモ不能ナルト所有權訴訟アルニ當リ
所有者ノ本國法ニ從ハントスルモ所有者未タ定マラサレバ從フト
能ハス

第五他國法ニ從フキハ價值ヲ損ス内國人ハ外國法ヲ知ラサルニヨ
リ外人所有ノ内國土地ニ權利ヲ設定スルモ不思ノ損失ヲ被リ爲メ
ニ權利ノ設定ヲ厭ヒ其價值ハ自然下落スヘシ

問 不動産ハ所在地法ニ從フト云フモ有体不動産ナルヤ無体不動産ヲ
モ包含スルヤ

答 元來不動産ニ付有体無体ヲ區別スルハ未タ法理ヲ深究セルモノト
云フ可カラス不動産ハ財産ノ一種也財産ハ權利也然ラハ不動産ト
ハ不動産トハ不動産物上ノ權利ト云フコニ權利ハ吾人が能力ヲ
以テ製造シタル無形物也此無形物が動座ノ上ニ添フキハ動産權ニ

シテ不動産ノ上ニ添フキハ不動産權也即チ不動産也何人ノ所有ニ
モアラサル未發見ノ地又ハ道路ノ如キハ不動産ニアラス無形ナル
所有權之ニ添附ヲ始メテ不動産トナル也動産亦然リ山野ノ走獸ノ
如キハ動産ニアラス獵夫之ヲ得テ所有權ナル無形物ヲ添加シ始テ
動産トナル依之看之動産不動産トハ財産中動産不動産ノ權利ト云
フ也

問 公正證書若クハ私署證書ニメ外國ニ於テ外國方式ニヨリ作りタル
證書ハ之ヲ我國ニ効アラシムルニハ何等ノ手續ヲ要セサルモ若シ
不動産ニ關シハ如何

答 我法例第九條第十一條ヲ通讀スレハ左ノ要點ニ歸着ス
公正證書私署證書ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フ但シ不動産ニ關シハ
日本地方裁判所ノ適法ナルヤ否ヤノ檢認ナケレハ其効ヲ有セス而
テ不動産物權移轉ニ關シハ不動産所在地ノ地方裁判所移轉ニアラ

サル行爲ニ關スル證書ナルキハ當事者住居又ハ居所ノ地方裁判所
 トス而テ不動産ニ關セサル證書ハ總テ檢認ナクモ有効也是レ不動
 産ハ邦土ノ一部ヲナスモノニノ貴重ナルト普通動産ノ上ニアルヲ
 以テ也而テ物權ノ移轉ニ關シテ所在地ノ地方裁判所トナセシハ物
 權移轉ニ關シテハ不動産物權ノ所有權ニ必要關係スルモノナレハ爭
 トナルヤ所有者定マラサレハ管轄定マラス故ニ所在地ノ裁判所ヲ
 管轄トス換言セハ證書面ノ所有者ハ眞實ナルヤ明ナラサルヲ以テ
 質權抵當權地役權等ノ移轉ニテモ皆所有者ノ裁判所トセサル也即
 チ未タ所有者不明ノキナレハ也玆ニ注意スヘキハ本條ハ移轉行爲
 其モノガ本法ニ適スルヤ否ヲ檢案スルニアラス尤モ其行爲モ不適
 法ナルキハ無効ナルハ勿論ナルモ斯ハ已ニ動産不動産ハ所在地法
 ニ從フト云フ準則ニヨリ證書ノ作製ニヨリ有効無効ヲ決スヘキニ
 アラス故ニ本條ハ證書其モノガ不法ノ廉ナキヤ否ヲ檢スルモノ也

若此規定ナカランカ要式合意ノ如キハ后無効ナルニ於テハ本邦人
 ノ不利益大ナレハ也此檢認ハ行爲其モノガ檢認ヲ受クル主タル目
 的ニアラサルニヨリ若シ檢認過失アリ看過スルモ其行爲ハ有効ト
 ナルヘキニアラス

問 不動産ニ關スル公示方法如何

答 第三者ノ利益ノ爲メニ設定スル不動産ノ公示方法ハ不動産所在地
 法ニ從フ故ニ自己ノ利益ノ爲メナルキハ本國法ニテモ可ナレモ其
 代リ第三者ニ對シテハ効ナキ也是レ第三者ハ所在地法ヨリ他ニ之ヲ
 知ル義務ナキヲ以テ公示方法モ其所在地方方法ヨリ他ニ之ヲ知ルノ
 義務ナシ然ルニ突然本國法ヲ以テ公示セラハルキハ第三者即チ自
 國民ハ大損害ヲ受ク可キ也

第二章 動産

問 動産モ亦所在地法ヲ適用スルノ理由如何

答 第一國家經濟ノ進運ヲ計ルテ、動産ノ融通不融通ハ國家經濟ノ盛衰ニ係レリ故ニ自國完全ナル法律ヲ以テ之ヲ管セサル可カラズ斯ハ公法上ノ理由ナレド引テ私法ニ及ホスト不動産ニ述ヘタルガ如シ

第二政權執行ノ圓滑ニ關ス、物品徵發租稅徵收等ノ都合ニハ必要也

第三外國人が動産上ニ權利ヲ設定スルニハ動産ニ關シテ所在地法ニ從フトノ準則ヲ豫期シ居ルモノト推定ス是ノ理由ハ少シク薄弱カリ何トナレハ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シテ適用スル法律ヲ指定スルモノナルニ此理由ハ外人ヲ斟酌スルノ傾向アレハナリ如何ニ外人ニ不便ナリトテ此準則ハ動カス可キニ非ス

第四動産所有者ノ本國法ヲ適用セントスルモ能ハサルテ、所有權爭訟ノ場合ニハ所有權定ラス從テ本國法ヲ適用スルヲ能ハサルナリ

第五他國法ニ從フ片ハ價值ヲ損ス、内國法ハ外國法ヲ知ラサルヲ以テ外國人所有ノ動産ニ關シテ權利ヲ設定セス故ニ價值ヲ損ス

問 動産賣主ノ差留權即チ留置權ハ自國ヨリ外國ニ運送セル場合ニ於テハ如何

答 例ハ英國ニ於ケル商人ガ留置權ナキ外國人ニ受渡シ其物品ガ尙ホ英地ニ存スル片ハ勿論留置權行用ヲナシ得可シト雖モ其物品ヲ外國設置ノ右英商代理店ノ許ニ運搬セシキハ最早留置權ナルモノヲ認メス即チ英人が在外代理店迄出荷セシハ自國法ノ及ホサル所迄差出シタルモノニ所在國ハ秩序ニ關スルノ故ヲ以テ外人ノ意ニ反シテモ留置權ヲ認メサル也之ニ反シテ無留置權國ノ商人ハ留置權アル國ニ出荷セル片ハ此權利ヲ行用シ得可シ然ルニ右英人モ出荷セシ荷物ガ先方ノ手ニ入ラサル片例ハ英船ニ積入ル、モ先方港ニ到ラサル間ハ留置權ヲ行用シ得可シ何トナレハ商船ハ外國領海ニ入ラサル間ハ所在地法ニ浴セサルヲ以テ也尤モ商船ニ積入ル、ヤ買主ノ所有トナル場合ハ此限ニアラス

問 船舶ニ付テハ何レノ國法ヲ適用スヘキヤ例ハ甲國所屬船ヲ乙國人

ニ貸與セシ場合ニ於テ此貸借契約ハ何國法ニ從フヘキヤ即チ動産
ハ所在地法ニ從フノ原則ニヨリ船舶モ所在港國ノ法律ニ從フヤ
商船ハ決ノ主權ヲ代表スルモノニ非サレモ取締權ノミハ主權ヲ代

表スルモノトス即チ船内行政權ハ船長ノ有スル所ニシテ大洋ハ勿論
他國ノ領海内ニアルモ此取締權ハ他ノ主權ニ犯サルハモノニアラ
ス去レハ取締權ハ一切所屬國ノ法律ニヨリ進退スルモノニシテ取
締權ナキハ船船ハ進運ヲ計ルヲ能ハス即チ諸多ノ船舶ニ屬スル
事項ハ一々此取締權ニ線纜セラレ積荷ニ關シ船員ニ關シ進航ニ關
シ停泊ニ關シ孰レモ取締權ニ服從セサルキハ船舶ヲ能ク維持スル
ヲ能ハス然ルナ他港毎ニ一々取締權ヲ犯サレ變法ニ服スルトセン
カ船舶ハ爲ニ秩序ヲ維持スルヲ能ハス搭載セル人物皆損害ヲ受ル
ニ至ラン是レ船舶ハ所在地法ニ從フヲ能ハサル所以也且ツ動産不

動産ハ所在地法ニ從フト云フ規定ノ理由ハ毫モ船舶ニハ不用也一
八八五年自耳義列國商法會議モ之ヲ認メタリ然レモ合意ハ人ノ自
由ナレハ何國ノ法律ニ依ルヲ合意セハ其法ニ從フヤ勿論ナレモ
之トテモ施テ所屬國ノ秩序ヲ害スルヲ得ス

問 船舶衝突ハ被害船舶ノ所屬國法ニ從フトノ一八八八年國際法協會
ノ決議ノ趣旨如何若シ二船各被害アリタルキハ如何

答 衝突船舶ガ兩國私船ナルキノミ獨リ國際私法ノ問題ニ屬シ一方官
船ナルキハ最早國際私法ニ屬スヘキモノナルコトハ公法ニ於テ國際
管轄權ノ終リニ於テ述ヘシ所ニシテ本問ハ純然タル私法上ノ問題也
國際私法ノ準則ニ於テハ不正ノ損害ハ其原因ノ生シタル地ノ法律
ニ從フ我法例第七條モ之ヲ承認セリ不正ノ損害ハ法律上命スル所
ノ義務ナレハ其原因ニ付テ法律ガ命セシモノナルヲ以テ原因發生
地ノ法律ニ從フハ至當也然ルニ本問ハ大洋中ニ於テ私船衝突セシ

モノニノ場所ガ何國ニモ屬セス爲メニ此準則ヲ適用シ難シ夫レ軍艦其他ノ官船ハ主權ヲ代表シ大洋ニアルモ外國ニアルモ他ノ主權ノ犯ス能ハサルモノ也然ルニ商船ニ付テハ主權ノ代表ナキヲ以テ一定ノ談トナセ凡船内取締權ニ付テハ主權ノ代表アルモノトス夫レ遠ク邦土ヲ去リ天涯万里ニ航行スルモノハ宜シク之レガ取締權ナカル可カラス然ラスンハ許多ノ性命財産ヲ保護スルヲ能ハサラシ去レハ取締權ニ關ノハ主權ノ代表アルモノト云ハサル可カラス而テ此取締權ハ本國法ヲ以テ活動スルモノナレハ之レガ取締權ヲ傷害セラレテ損害ヲ被ムリタル片ハ亦本國法ニ依リ恢復ヲ計ラサル可カラス尤モ商船取締權ハ直ニ主權ノ機關ナリト云フニアラス主權ニ代リ人財ヲ保護スル迄也此點ノミニ付テハ邦土ノ一部ヲナスモノト云フヲ得可キ也此ニ於テ乎始メテ不正ノ損害ノ生シタル土ハ被害船所屬國ト云フヲ得可キ也義務ノ原因ノ生シタル地ノ法

律ヲ適用スルコトヲ得序次一言スヘキハ大洋中ニ於ケル船中二人ノ外國人二人ハ取締權ニヨリ保護ヲ受ケ居ルヲ以テ船内ヲ其地トナスコトヲ得ヘキ也

第三章 相續及ヒ遺贈

問 相續及ヒ遺贈ニ付テハ人被相續人及ヒ遺贈者ノ本國法ニ從フノ理由如何

答 相續ト云フ權利關係ハ身權上ノ事項ニシテ餘波財産權ニ及フモノ也故ニ財産ハ所在地法ニ從フニモ拘ラス相續ニ付テ生スル財産權上ノコトハ身權上ノ管知法タル本國法ニ從フトノ規定ノ生スル所以ニシテ相續財産ハ主トシテ身權上ノコトナレハ也遺贈モ亦然リ受贈者ガ親族ナルト否トニ論ナク其事タル相續者トノ間ニ關係ヲ有スル者ナレバ身權上ニ重大ナル原因ヲ包含スルモノトス凡テ被相續人遺贈者ノ身權上ノ事ハ其人ニ最モ適當ナル法律ヲ以テ支配スルヲ取引

人タル本邦人ニ大利益也トス是レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲
メニ外人ニ對シ適用スル法律ヲ指定スル法規也而テ其準則ハ人ノ
身權上ノ事ハ一切本國法ニ從フト云フ所以也

問 被相續人ノ最終住居地トハ如何ナル住居ニテモ可ナルヤ

答 相續ニ付テハ最終住居地ニ從フトハ一般學說ノ認ムル所也扱此住
居ナルモノハ如何ナル住居ニテモ可ナルヤト云フニ大ニ然ラス相
續ハ身權上ノ事也財産權上ノ事ニアラス故ニ身權上ノ住居ニアラ
ズンハ不可也身權上ノ住居ハ本籍地也生計上ノ住居即チ財産權上
ノ住居ハ住居地也(前述住居篇參照)故ニ被相續人最終ノ住居トハ最
終ノ本籍地即チ國民分限ヲ有スル地ナラサル可カラスト論斷セサ
ル可カラス然レモ單ニ營業上ノ相續ノ如キハ財産權上ノ事ニ主ク
ルモノナレハ財産上ノ住居地法ニ從フモノトス是レ最終住居地ガ
其人ニ最モ適セルモノト推定スルヲ得ヘク從テ之ト取引スル本邦

人ニハ至極其法律ガ適當ナラントノ趣旨也故ニ例ヘハ米人日本ニ
住居ニ商店ヲ設テ之ニ住居スル場合ニ財産權ニ關シハ日本法身權
ニ關シハ米國法ガ其人ニ適セルモノト推定シ身權上ノ相續及ヒ此
ニ餘波ヲ引キ財産權ニ及フ相續ハ米國法ニ從ヒ單ニ營業ニノミ關
スル相續ノ如キハ日本ヲ最終住居地トナシ日本法ニ從フ者トス彼
ノ不完全ノ住居即チ不任意ノ住居例ヘハ出獄ノ未政權ノ干涉ニア
リ止ムヲ得ス生計ノ中心地トセシキノ如キモ不完全ナガラモ最終
住居地ト云フヲ得ルヲ以テ可也生計ノ事ニアラサル獄内ノ如キハ
住居ニアラサレハ逮捕地ガ住居ナレハ其地ヲ終住地トス

問 甲國人甲乙ガ甲國ニ於テ遺贈合意ヲナシ后遺贈者甲ガ丙國ニ住居
ヲ轉シ其地ニ於テ死去セリ右ノ遺贈ハ丙國法ニ於テハ無効ナル場
合ニ於テ乙ハ甲ノ相續人丁ニ對シ甲國法ヲ以テ主張スルコトヲ得ル

答 遺贈ハ死亡ノ時効ヲ生スルモノ也死亡迄ハ取消スルヲ得ルモノ也然ラハ甲國ニ於テナセシ遺贈ハ丙國ニ轉セシキ此國ニ於テ無効トナリタルニ於テ甲ハ之ヲ以テ其意ニ適セリトナシ殊更ニ取消ヲナサハリシヤモ知ル可カラズ若シ取消ス意思ナカリシキハ前遺贈ヲ確認スル等也去レハ后戊國ニ轉シ戊法ハ甲國ト全一ナルモ一旦無効トナリタルモノハ再生スルノ筈ナシ而テ乙ハ之ヲ已得權ト云フ能ハス何トナレハ死后ニアラスンハ未タ得サレバ也然ルニ若シ甲國ガ遺贈ヲナシタルキハ之ヲ取消スル能ハストノ規定ナリシキハ如何丙國ヲ以テ裁判國トセバ國際私法ハ自國人甲丙國人トナリタルモノトシテ保護スル爲メニ外人タル乙ニ對シ適用スル法律ヲ指示スルモノナレバ此場合ハ此合意ニ甲國法ヲ適用スルコトハ丙國ノ秩序ヲ害スルモノナルヲ以テ之ヲ適用スルコト能ハス何トナレハ遺贈ナルモノハ死前ニ効ヲ生スルモノニアラサルコトハ丙國法ノ公意

上ノ規定ナレハ也然ルニ又甲ガ殊更ニ遺贈ヲ逃レントシ之ヲ逃ル、ニハ轉國セサレハ能ハサル爲メ即チ乙ニ損失ヲ被ムヲシムルノ意ニ出テタルキハ如何不正ノ損害トシテ後ニ逃ラ可シ

問 甲國ニ於テ造リタル遺贈證書ハ乙國ニ無効ナルキハ如何

答 例ヘハ甲國ニ於テ甲乙遺贈合意ヲナシ證書ヲ作製シ甲ガ丙國ヘ轉セシニ遺贈其モノ、効力ニハ何等ノ變動ナキモ證書ノ方式ヲ異ニセルキハ如何ト云フニアリ公證書私證書共ニ之ヲ作ル國ノ法式ニ從フキハ有効トス不動産物權ニ關スルキハ日本法ニテハ地方裁判所長ノ權認ヲ要セリ是レ不動産ハ邦土ノ一部ヲナシ普通動産ヨリモ丁重ニセシ也故ニ本問證書ハ有効也トス

問 遺贈ハ死亡后ニ効ヲ生ス死亡迄ハ取消スルヲ許スモノ也茲ニ遺贈證

書ヲ作リタル國ノ法式ニ依レハ其當時無効ナリシモ后遺贈者ガ國ヲ轉シ其國ノ方式ニ適セリ遺贈ノ効力如何

答 尙ホ無効トセサル可カラス始メ効力ナキモノハ始メヨリ無キ也后
 三國籍ヲ換ヘタリトテ何等ノコトモナサスノ無ガ有ニ化スルノ謂ナ
 キ也遺贈者ハ仮令最初遺贈ヲナスモ后取消ス意思發生セシ力无
 効ヲ幸ヒニ遺贈ノ意思ヲ絶チシヤモ計ラレサレハナリ

第四章 契約義務及ヒ合意

問 外國ニ於テナシタル合意ニ付テハ明示默示ノ意思ニ從ヒ何レノ國
 法ヲ適用スヘキヤヲ定ムトハ如何ナル理由ナルヤ

答 夫レ人ハ自國法律ガ最モ其意ニ適シ從テ之ヲ熟知シ万國中最モ良
 好律ト思惟シ輒モスレハ自國法ニ依ランコトヲ希ヒ又甚タ大利益也
 而テ甲國人二人ガ甲國ニ在リ合意ヲナスヤ一言何等ノ斷ナキモ甲
 國法ノ適用ヲ受クルコトハ明也然ルニ甲國人乙國人二人ガ甲乙國又
 ハ丙國ニ在リテ合意ヲナスルハ何レノ法律ニ依ルヘキヤニ付テ本
 問ヲ生ス此場合ニ於テハ明示ナレハ勿論其法律ニ從フヘク又默示

法ルモ之ヲ推測シ其法律ヲ適用セン是レ裁判國ノ眼ヨリ見レハ自
 國法ヲ除キテハ他國法ハ法律トハ見スソ一ノ事實ト見ルヘケレハ
 當事者ハ明示ヲ以テ外國法ニ從フハ或事實ヲ明約セシモノナレハ
 無論其契約ノ趣旨ヲ貫徹シ可也默示ノ場合モ亦然リ當事者ハ明示
 ニハ非サレハ默示ヲ以テ或事實ヲ契約セシヲ以テ明カナル反證ナ
 キ限リハ其推定セラレタル事實ニヨルヘキ也然レハ若シ對手國ノ
 法律ヲ適用スルコトヲ合意セル場合ニ裁判國ノ秩序ニ關スルモノナ
 ル片ハ之ヲ適用スルコト能ハス即チ本邦人二人ガ本邦内ニ於テ本法
 ニ違反セル公益ニ害アル事實ヲ契約セシモノト全一ナレハ也故ニ
 仮令當事者ガ外國法ヲ合意セルモ其法ガ我秩序ヲ害スル片ハ適用
 セシメス是レ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對スル適
 用法ヲ指示スルモノナレハ此合意ニ適用スル法律ガ本邦人ヲ害メ
 ハ國際私法ノ趣旨ニ適セサル也

問 外國ニ於テ爲シタル合意ガ當事者ノ明示默示ヲ以テ何國法ニ從フ
 ヤノ表示ナキハ何國法ヲ適用スヘキヤ當事者日本人ナル場合
 答 本問當事者が本國人ナル場合國際私法ノ問題トシテハ此合意ヲ外國
 人ナル第三者ニ及ボスヘキ場合ナラサル可カラス然ラズンハ本邦
 人二人間ノ争ハ內民法問題ニシテ國際私法ノ用ナキ也即チ本號ハ
 外國ニアル自國人二人ガ合意ヲナシ意思アル何國法ヲ適用スヘキ
 ヤ分明ナラス且ツ合意ガ外國ノ第三者ニ利害關係ヲ有スル場合ニ
 限ルモノトス此場合ニ於テハ本邦法律ヲ適用スヘシ何トナレハ明
 黙ノ表示ナキハ各自國法ガ其意ニ適シ且ツ利益ナレハ也但シ斯
 ハ推定ナレハ反證ヲ以テ第三者ハ抗擊スルコトヲ得

問 前問當事者が異國外國人ニシテ我國ニ於テ合意ヲナセシハ如何
 答 此合意ガ日本人ノ利害ニ關セサル可カラス然ラズンハ國際私法問
 題トナラサル也尤モ當事者ノミニテモ相手方ノミ私權ノ享有アル

場合ナラハ國際私法ノ問題ヲ生ス國際私法ハ一人日本人即チ裁判
 國人ナルカ又ハ此ト同等ナルモノナラサルベカラサレハ也扱右ノ
 異國外國人ノ合意ニ付テハ何國法ヲ適用スヘキヤ素ヨリ各自國法
 ヲ希望シ居ルヘケレモ二國法ハ同時ニ適用スルコト能ハス凡人ノ
 合意ヲナスヤ各相互ニ利益ト思料スルヨリ成リ互ニ不利益ノ點ヲ
 避ケテ立ツモノニシテ先方ヲ倒シ自己ノミ一人富ム計画ニテハ合意
 ハナラサル也又合意ハ可成有効ナル様セサル可カラス故ニ本問ノ
 場合ニハ合意ニ最大關係ヲ有スル國ノ法律ニ從フモノトス例ヘハ
 甲國人甲ト乙國人乙ト丙國人丙ト三人ニ關係セル合意ヲ見ンニ
 甲ガ丙ニ對シ債權ヲ有シ此債權ヲ乙ニ讓渡シタリ此合意ハ丙國ニ
 於テナセシ也甲丙二國法人債權ノ讓渡ハ債務者ノ承諾スルヲ要シ
 乙法ニヨレハ告知ニテ可也而シテ右讓渡ハ全ク告知ヲミナリトセン
 此ニ於テ丙ハ此讓渡ハ無効ナリト主張シ乙ハ有効也ト主張シタリ

此ニ於テ丙國裁判所ハ合意ニ最大關係ヲ有スル國ノ法律ヲ適用スヘキ也即チ甲丙ハ何レノ國法ニヨルモ利害ノ關係少シ何トナレハ債務者ハ何國法ニテモ一度ハ辨濟セサル可カラス債權者モ二重取ヲ許サス乙ハ自國法ニヨラサルモ無効ニナリ不當利得ノ訴權ノミ也此レ最大關係ヲ有スル法律ハ乙法也

問 前問異國外人外國ニ於テナシタル場合如何

答 此亦國際私法ノ問題タルニハ裁判國ノ一人ガ利害關係人ナラサルヘカラス而テ本問モ亦前問ト全一ノ決定ニ歸ス何レノ場合ニ於テモ我邦ノ秩序ヲ害スルコトヲ得ス

問 然ラハ全國外國人日本ニ於テ合意ヲナシタルモ如何

答 彼等本國法ニ從フノ意アリト推定スルハ最モ當事者タル外人ニ適セルト全時ニ利害關係アル本邦人ニ取リテ有益ナリ是レ國際私法ハ本邦人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對シ適用スル法律ヲ指示スルノ

意ニ適セリ右ノ推定ハ事實上ヨリ推定セルヲ以テ日本人ハ反證ヲ以テ日本法ニ從フコトヲ合意セリト主張スルコトヲ得

問 然ラハ日本人外國人外國ニ於テナセシ場合ニ於テハ如何

答 裁判國ヲ我國トシ論セン是レ誠ニ國際私法ノ問題ヲ生ス即チ合意ニ最大關係ヲ有スル地ノ法律ヲ適用ス如何ニ日本人ヲ保護スルトテ不法ニ保護スルコトハ公法上ノ許サハル所ナレハ公平ニ日本人ヲ保護セサル可カラス亦此當事者ガ日本ニ於テナセシモ全斷ナリ

問 免責時効ニ付テハ何レノ國法ヲ適用スヘキヤ

答 免責時効ハ義務ヲ辨濟セリトノ推定也是法律上ノ推定ナレハ義務ヲ負擔スルコトノ合意ヲ支配スル法律ニ從フヘキ也故ニ甲乙二人甲國ニ於テ合意ヲナシ此合意ヲ丙國ニ於テ履行セント合意シタリトセシ時効ニ付テ何國法ニヨルヘキヤヲ明約セハ論ナキモ又默示ヲ以テ知り得ハクンバ亦然リ共ニ知レサルモハ合意ヲ支配スル國法

問 不當ノ利得不正ノ損害及ヒ法律ガ負ハシメタル義務ニ付テハ何レノ國法ニ依ルヘキヤ

答 義務ノ生シタル地ノ法律ニ從フモノトス例ハ甲國內ニ於テ甲國人甲カ乙國人乙ノ財産ニ付キ事務管理ヲナセシ片ハ乙ノ得タル利益ノ限度内ニ於テ甲ハ甲國法ニ依リ之ヲ請求シ得可シ又甲ガ乙ノ爲メニ不正ノ損害ヲ受ケタル片ハ甲ハ甲國法ニヨリ損害トノ請求シ得可シ此等ノ義務ハ任意上負ヒタルモノニアラスノ法律上之ヲ盡サ、ルヘカラス即チ法律カ命シタル義務也換言セハ法律ガ命シタル義務也再言セハ法律有テ義務ト云フモノアル也權利者ハ此法律ニヨリ保護ヲ受クルノ權アル也此等ノ權利者ハ此主權者ニ服從シ此主權者ノ命スルトハ皆悉ク奉命セシモノナレハ其代償トノ厭ク迄モ保護ヲ要求スルノ權アリ又主權者モ精一杯保護ヲサ、ル可

カラス此レ國際私法ニ自國人ヲ保護スル爲メ外人ニ對テ適用スル法律ヲ指定スル法規也其準則ニ曰ク云々義務ノ生シタル地ノ法律ニ從フトアル所以也

問 甲國人甲乙乙國人乙トノ二人ガ丙國在留中乙ガ甲ニ對テ不正ニ損害ヲ負ハシメタル片ハ如何

答 不正ノ損害ハ義務ノ生シタル地ノ法律ニ從フトノ準則ニヨリ丙國法ニ從フヘキガ如キモ決メ然ラス此準則ノ生セシ所以ハ其法律ニヨリ保護ヲ受クルノ權アルニヨル故ニ私權ノ享有ヲ丙國ニ有スル場合ハ此準則ヲ適用スルヲ得ヘキガ如キモ此享有ナキ場合ニハ右ノ理由ナキヨリ到底此準則ヲ適用シ難シ此準則ハ甲乙兩國人ガ一方國ニ於テ不正ノ損害アリタル片ノ規定ニ乙ハ自國法ニ規定ナキモ甲國法ニ規定アリテ損害トナリタル以上ハ乙ハ其法律ヲ知ルノ義務ナシトハ云ヘ他國ニ立入り他人ニ損害ヲ負ハシメ辨濟セス

ソ立去ルガ如キハ國際私法ノ許サハル所也然ルニ丙國ノミ損害ノ
 種目トナリ甲乙兩國ハ何等ノ規定ナキモ如キ辨濟スル義務アル
 モノニアラス何者甲ハ損害ヲケレハ也茲ニ先決スヘキハ甲乙二人
 乙國ニアリテ不正損害ヲ甲ニ負ハシメタルニ乙國法ニ依レハ損害
 トナラス此場合ハ如何準則ハ乙國法ヲ適用スヘク即チ乙ハ義務ナ
 キニ歸着スルガ如キモ此ノ如キ法規ハ甲國ノ秩序ヲ害スルモノナ
 レバ甲國內ニ効ナシ結局甲國法ニ從フモノトス此理ヲ以テ本問ニ
 擬セントスルモ第三國ハ當事者國トナスコトヲ得ス故ニ本問ノ場合
 ハ第三國ニ私權ノ享有アレハ格別然ラサルモハ被害者ノ本國法ニ
 從フナ正當トス

問 履行地訴訟地ハ契約ニ於テ如何ナル關係アリヤ

答 當事地が明黙ニ本問ニ地法ヲ適用セルコトヲ約セハ格別然ラスシハ
 履行地ハ單ニ履行ノ方式ヲ遵守セシムルニ過キス元來履行地ハ履

行ニ關スル私法地訴訟地ハ訴訟ニ關スル公法也故ニ履行法ハ公益
 ニ關スルモノヲ除クノ外合意ヲ以テ左右シ得ルモ訴訟法ハ一切左
 右スルコトヲ得ス是レ訴訟法ハ其他ノ公法ニ行政機關ノ一部分ナ
 レハナリ

問 契約ハ何故ニ締結地ノ法律ニ從ハサルヤ

答 契約ハ權利ヲ設定シ義務ヲ負擔スルノ器也權利者ハ自己ノ國法ヲ
 愛慕シ每ニ之ニ從ハシコトヲ希望シ債務者亦此如而テ二人共ニ利害
 ノ情勢ニ於テ同一ノ均點ニ位シ居レリ故ニ何レカ一方ニ偏スルモ
 ハ忽チ不平均ク形勢ヲナス是レ明黙合意ニ徵シ管知法ヲ定ムル所
 以ニ國法ヲ當事者ニ於テ定ムルコトモハ當事者ハ自己ノ利益ト
 不利益トヲ調和シ之ヲ締結セン故ニ凡テノ均衡ヲ保ヌシメンガ爲
 メ當事者ニ委シテ決メ法律ハ自ラ權利者法義務者法起約地法履行地
 法訴訟地法ト云フ如ク豫メ偏定セサル也而テ分明ナラサルニ於テ

始メテ法律ハ何レカ利害ノ關係最大ナル方ノ法律ヲ適用スルトトセリ

問 私船大洋中ニ於テ軍艦ニ對シ損害ヲ與ヘタルルハ如何

答 兩國私船ノ衝突ノ場合ハ動産ノ部ニ細密ニ論述シ被害船所屬國法ニ依ルヘキト爲シタリ而テ本問ハ一方官船ニシテ官船被害アリタルモノ也國際私法ハ兩國私權ノ交渉ヲ目的トセルモノ也然ルニ此場合ハ一方公權即チ施政權ニシテ主權ノ代表者也即チ私權ガ公權ニ損害ヲ負ハシメタル者ナリ而テ國際私法ノ裁判官ハ國ノ主權者也一方ノ主權者ガ兩國ノ私權ヲ裁判スルモノ也去レハ被害者ガ公權ナルニ於テ公權即チ主權者ハ他ノ主權ノ裁判ニ服スルガ如キ平等權ヨリスルモ獨立權ヨリスルモ決シテ是ナキ所也例ヘハ或軍艦ガ他國ノ商船ノ爲メニ損害ヲ受ケタリトセンニ我主權者ハ決シテ他國ノ主權ノ裁判ヲ受クヘキモノニアラス行政機關ヲ以テ先方ノ主權ニ

交渉シ以テ恢復ヲ計ル可キ也何ソ先方ノ裁判權ニ服従スルノ義務アラシヤ然ルニ英國ニ於テハ大洋中ノ私犯ハ海上裁判所ノ管轄トシ其賠償金額ノ如キ其國法ニ從フヘキトセリ且ツ英國學者ハ何レノ國ノ管轄ニモ屬セサル場合ハ訴訟地法ニ從フトセリ然レテ訴訟地法ハ單ニ訴訟法ニ付テノミノモノニシテ義務ノ有無迄モ管轄スヘキモノニアラス又公法上ノ事項ヲ私法裁判所ニ於テナスハ万々謂レナキ也又英國學者ハ非行トスルニハ兩國法共ニ非行ナリトノ規定ナカル可カラスト是レ非行トセサル國ノ人民ハ權利ノ執行トシテ毫モ過失ナキモノナレバ毫モ義務ヲ負擔スヘキモノニアラストノ理由ナランガ被害者トナリタル者ハ亦其國法ニヨリ保護ヲ受クルノ權アリテ決シテ天災ノ比ニアラサル也詳細ハ前述動産ノ部及ヒ公法管轄權ノ部ニ述ヘタリ

問 利息ニ付テハ何國法ヲ適用スヘキヤ

答 合意ヲ以テ利息ヲ定メタルキハ固ヨリ論ナキモ償損利息即チ法定ノ利子ニ至ラハ元債ノ法律ニ從フ可キ也不當ノ利得不正ノ損害ヨリ辨濟スヘキ元資ノ利息ハ其原因ノ生シタル地ノ法律ニ從フモノトス是レ損害ヲ受ケタルモノハ自己ノ主權ノ法律ニヨリテ保護ヲ享クルノ權アリ又其主權ハ己レノ發セル法律ヲ以テ自國人ヲ保護セル爲メニ外人ニ對シテ適用センコトヲ計ルヨリ玆ニ始メテ國際私法ナルモノ、用テ見ル是レ屬地主義ノ生スル所以也然ルヲ英法學者ハ非行ハ各國規定スルモノナラサルヘカラストナスハ此意ヲ覺ラサルモノ也已ニ元債ヲ其法ニ依ルトセハ從タル利息ハ勿論也

問 支拂方法ハ何レノ國法ニ從フヘキ也

答 支拂ハ義務履行ノ一種也合意ヲ以テ履行地ヲ定メサレハ合意ヲ支配スル法律ニヨリ履行地ヲ定ムヘキ也何レニシテ履行地ハ必ス有之可ケレハ支拂方法ハ履行地ノ法律習慣ニ從フヘキモノトス例ハ

貨幣ハ必ス金貨ニ限ルトカ換貨スルナラハ相場ニ依ル可シトカ休日ハ支拂ヲナサストカ取引時間ハ何時迄トカ總テ其地ノ法律習慣ニ依ルヘキ也然レモ履行地方法ニ從フハ支拂法ノミニシテ支拂其モノニ付テハ合意地法ニ依ル可キ也故ニ例ハ支拂ヲ終リタリトシテ推定ヲナス時効ノ如キハ履行地法ノ關スル所ニアラス若シ然ラストセンカ履行地ノ時効意外ニ短期ナルキノ如キ當事者ハ只辨濟ニ便宜上支拂地ヲ定メタルモノナルニ知ラス知ラサルノ間業已ニ辨濟ヲ終リタリトシテ推定ヲナスガ如キハ甚ダ債權者ノ損失タルモノトス

問 不當ノ利得不正ノ損害法律規定ノ義務ハ毎ニ公同ノ秩序ニ關スルモノ也トノ理由如何

答 仮令或所爲ハ外國法ニ於テ不當利得トセサルモ仮令或所爲ハ外法ニ於テ不正ノ損害トセサルモ仮令或所爲ハ外國法ガ命スルコトナキ

モ所在國ニ於テ此等ノ事ニ遭遇セシキハ事ノ生シタル其國ノ法律ノ命ニ從ハサル可ラス夫レ吾人が甘メ自己ノ主權ノ命令ニ服從シ身体性命ヲ以テ其命ヲ奉スル者ハ自己ノ權利ノ保護ヲ享クレハコソ也主權ハ吾人ヲ全力ヲ以テ保護スルノ義務アリ吾人ハ保護ヲ要求スルノ權アリ而テ主權ハ法律ヲ以テ吾人ヲ保護ス此法律ノ障害ヲナスモノハ公同秩序ヲ障害スルモノ也外人若シ吾人ニ對メ不正ノ損害ヲ與ヘタランニハ仮令外國法ニ規定ナキニモセヨ我主權者ハ吾人ヲ保護スルガ爲メ外人ニ對メ此法律ヲ適用セサル可カラス是レ國際私法ハ自國人ヲ保護スル爲メニ外人ニ對メ適用スル法律ヲ指示スルモノ也ト云フ所以ニシテ其準則ニ白ク不正ノ損害云々義務ノ生シタル地ノ法律ニ從フトアル所以也然レモ外國人トテモ此適用ヲ受クルハ我國ニ在留スル間ノミニシテ本國ニ歸着スル以上本國が承認スルニアラスンハ執行セラルヘキモノニアラス右ノ如

クナルヲ以テ本邦ノ此等ノ規定ニ反スル外國法ハ之ヲ本邦ニ効ヲ生セシメス本邦法ニ從ハシムヘキ也論者曰外國法ハ不正損害ヲ規定セズ依テ義務ナキ也然ルヲ規定トハ何ソヤト然レトモ法律ノ言ハサル所ハ云フ所也義務ノ部ニ規定ナキハ義務無キト云フト一般也

問 場所ハ行爲ヲ支配ストハ何ソヤ

答 此原則ハ或行爲ヲ之ヲナス場所ニ有効ナラシモンニハ其場所ノ

法式ニ從ハサル可カラス又此場所以外ノ場所ニ對抗スル片ニモ行爲ヲ場所ニナセル方式ハ有効也ト云フノ義ニシテ詰リ從ハサル可カラスト云フ命令法ト從フモ可也ト云フ聽許法トヲ包含セルモノトス前者ハ公益ニ關シ后者ハ便宜ニ基ケリ左ニ分説セン
第一或行爲ノ方式ハ場所法ニ從ハサルヘカラス此場合ハ此行爲ヲ其場所ニ對抗セントスル場合ニシテ例ヘハ日本人外國人ト双務契

約ヲナシ日本法ニ依レハ署名捺印セル證書ニ通テ要スルニ外國法
 一 通ニテ足ルトセシ此外國人が本邦人ニ對メ之ヲ主張セントセ
 バ此等ノ事ニ關メハ總テ本邦法ニヨリ支配セラレ不利益ナル結果
 ナ被ムル可シ又例ハ外人日本人ト公正證書ヲ作ル場合ニモ公證書
 以法式ニ從ハスンハ公正ノ効ヲ有セス此等ハ皆公益ニ關スル命令
 法ナレハ也但本邦人ニ對抗セス外人一人ノ作ルモノナルハ外人
 以本國法ニ從フモ有効也(法例第九條)
 第二 或行爲ハ場所法ニ從フモ可也此場合ハ行爲地ニ對抗スルニア
 ラスノ行爲地ノ以外ノ地ニ對抗スルハ生スル也例ヘハ日本人外
 國ニ於テ外人ニ贈與ヲナシ公正證書ヲ作ラントスルニ當リ外國ニ
 於テ其國ノ法式ニ從フヲ得ルモノ也然ラスンハ日本式ニ從ハシ
 トスルモ能サズヨリ無効トナルニ於テハ契約ヲナス可能ハザルニ
 至ラン故ニ便宜上斯クナセシ也即チ此公正證書ハ日本人ニ對抗メ

有効也(法例第十條)
 妻之場所ガ行爲ヲ支配スルト云フコトハ形式上ノコトニシテ實体行爲
 ニ非ラス故ニ例ヘハ讓與ニハ公正證書ヲ要スト云フ必要條件ハ假
 令其地ニ公證人ノ設ナキト雖モ便宜上ノ理由ヲ以テ公正證書ヲ
 キモ有効也ト云フヲ得ス故ニ定体上ノコトニ付テハ行爲ヲ支配セ
 ス是レ要素ヲ欠クニ於テハ成立セザレハ也尙例セハ日本ニテハ婚
 姻ニ儀式ヲ要シ米國ニテハ要セストセルヲ以テ日本人米國ニ於テ
 米人ト婚姻ヲ無儀式ニテナスガ如キハ日本ニ對シハ不成立也然ル
 ニ若シ米國ニテモ儀式ヲ要スルモ儀式ハ日本式ト異ナリトセン假
 令異ナルモ儀式ヲ行フニ於テハ有効也是レ些少ノ事項ノ爲メ不成
 立トスルハ不便ヲ來スモノナレハ要素ヲ欠クニアラサルヨリハ便
 宜上有効トセサルヲ得ス此ノ如ク便宜上當事者ヲ保護スルモノナ
 レハ惡意ヲ以テ日本法ヲ避ケントスル惡徒ニハ此恩典ヲ與セズ也

問 甲國船大洋中乙國船ヲ救助シタル場合ハ何レノ國法ニ從ヒ事務管理訴權ヲ行用スルヤ乙國裁判所ノ判決ヲ求ムルハ當然也

答 千八百八十八年万国商法會議ノ決議ハ救助船所屬國法ニ從フトシ其理由ハ被救助船ハ救助船ノ附屬物ト見做スト云フニアレトス甚タ究屈ナル理由也夫レ事務管理ニ付キ國際私法ノ準則ハ其原因ノ生シシ地ノ法律ニ從フト云フ也而テ大洋中ニ於テハ其地ナキガ如クナレトモ商船ハ大洋ニアレ他國ノ領海ニアレ至ル所取締權ニ付テハ主權ノ代行者トシ許多ノ性命財産之レガ權内ニ保護セラル即チ船舶ノ進運活動一切此取締權内ニ繰繰セラレ他船ヲ救助スルモ亦此取締權内ニアリトス主權ハ大洋中ニ迄實力ヲ及ホス能ハス故ニ主權ニ代行ノ船長之レガ取締權ヲ行用スルニアラスンハ性命財産安全タルヲ能クセンヤ此點ニ付テハ邦土人一部タルト見ルニ足ル即チ事務管理ノ原因ノ生シシ土ハ此救助船也於此乎救助船所

屬國法ニ從フノ正當ナルヲ發見シ得可キ也

第五章 信用證券

問 甲國甲振出人乙國乙受取人丙國丙支拂人ナル爲替手形ハ何レノ國

法ニヨルヘキヤ

答 爲替手形ノ最初ノ合意ノ當事者ハ誰ソヤ振出人甲ト受取人乙トノ二人也此甲乙二人ノ合意ハ如何ナル合意ナルヤ日甲ガ乙ニ對シ金額ヲ丙チ支拂ハシムルトチ約スルモノ也換言セハ丙チ支拂チナサシメメントチ乙ニ約スルノ合意也即チ甲ハ丙チ支拂チナサシムルノ義務ヲ負ヒ乙ハ其金額受取ノ權利ヲ得有ス然レモ未タ是レ丈ニテハ爲替手形ノ實力ヲ見ル能ハス今一步ヲ進メテ丙ガ引受チナスニ於テ大ニ實力ヲ有スルモノトス此引受アル時ハ甲ノ義務ハ大ニ輕減セラレテ丙直接ニ支拂義務者トナル也去レハ丙ガ支拂チナサハル時ハ甲ハ償還チナサハル可カラス即チ甲ノ義務ハ第一

丙チ支拂ヲナサシムルコト第二ニ丙若シ支拂ハサル井ハ自ラ償還スルト云フニケノ義務ヲ負フモノ也而テ此合意ハ何レノ國法ニヨリ支配セラルハヤ明默ノ表示ナキ也然ラハ甲乙ハ異國人ナルニヨリ兩國中合意ニ最大ノ關係アル地ノ法律ヲ適用スヘキ也例ヘハ右ノ手形ヲ乙ガ丙ニ對シテ引受テ求メシニ丙之ヲ拒絕セルヲ以テ引受拒證書ヲ作製シ以テ担保ヲ甲ニ求メタリ然ルニ甲國法ハ担保ノ義務ノ規定ナカリシトモヨ甲ハ其規定ナシトスルモ到底償還義務ヲ免レサルノ人也然ルニ乙ハ其規定ノ有無ハ爲替權利ニ重大ノ影響ヲ及ホシ担保ノ規定ハ乙ノ最大關係ヲ有スル法律ナルヲ以テ乙國法ヲ適用スヘキ也

問

前問丙ガ支拂ヲ引受ケタル時ハ丙ハ支拂義務ヲ負担ス丙ト乙トノ合意茲ニ成立ス此場合ニ於テハ何レノ國法ニ依ルヘキヤ

答

是亦當事者中最大關係ヲ有スル方ノ法律ニ依ルヘキ也例ヘハ引受

金ヲ受取リタルト否トヲ問ハス乙ニ對シテ支拂義務ヲ負フモノナルニ丙法ニ依レハ資金ヲ受取ラサルコト立證ノ義務ヲ免ルハノ規定ナシト假定セヨ丙ハ之ヲ主張シ義務ヲ免レントシ乙ハ自國法ヲ主張シ丙ヲ爲替義務トシ甲丙二人ニ對シテ出訴セントセルナラシムルニ於テ何レガ合意ニ最大關係ヲ有スルヤト云フニ丙也ト云フ可シ乙モ丙法ニ從フハ義務者ヲ減スルヲ以テ不利益ナレト皆無義務者ナカラシメントスルニアラス然ルニ丙ハ乙法ニ從フ片ハ義務ヲ免ルハサル可カラス即チ自國法ニ依レハ義務ヲササルニ乙國法ニ依レハ義務者トナルモノ也此關係ハ乙ニ比シテ大ナリト云フヘシ

問

前問手形ヲ丙ガ引受テ拒ミシ時丁國丁ガ甲ノ爲メニ榮譽引受ヲナセシ時ハ如何

答

即チ丁ト乙トノ合意也是亦合意ノ最大關係ヲ有スル地ノ法律ニ從

フモノトス例ハ甲ノ爲メニセル引受人ノ前ニ戊ガ第一裏書讓受人ノ爲メニ榮譽引受人トナリ后ニ本問丁カ甲ノ爲メニ引受チナセシキハ乙國法ニ依レハ戊モ義務者ヲ免レサルノ規定ニノ戊國法ニ依レハ丁ガ榮譽引受チナセシキハ戊ハ義務者ヲ免ルノ規定也トセヨ其意最多數ノ義務者ヲ免レシムルモノヲ榮譽引受人トナストソ趣旨也扱何レノ法ニ從フヤ是亦戊法ニ從フモノトス何トナレハ戊ハ乙法ニ從フキハ義務ヲ訴擔シ自國法ニ從ラキハ免ル其關係ヤ乙ニ比シ大也ト云フ可シ乙ハ只戊ノミ失フモノニシ關係大ナラサル也

問 甲國第一裏書讓渡人ト乙國讓受人トノ間ノ事件ニ關シ何レノ法律ニ從フヘキヤ

答 裏書讓渡ノ際ハ管知法律ヲ明示スヘキモノニアラス又默示ニテモ推知シ得カラサルモノ也故ニ此合意ニ付テハ甲乙何レカ合意ニ

最大關係ヲ有スル國ノ法律ヲ適用スヘキ也例ハ乙ガ支拂人ニ對シ引受チ求メシニ之ヲ拒絕セラレタル此ニ於テ乙ハ引受拒證書ヲ作製シ担保チ第一裏書人ニ求メタリ乙法ニ依レハ担保ヲ供スル義務アリ甲法ニヨレハ無シ何レノ國法ニ從フヘキヤ乙國法ニ從ハサル可カラズ甲ハ新ニ担保ノ義務ヲ負フハ迷惑ナルガ如キモ甲ハ到底償還義務ヲ免レサル人而テ乙ノ爲替權利ニ於テハ担保ノ義務ノ有無ハ重大ノ關係ヲ有セリ即チ危險甚シキモノト云フヘキ也甲ガ爲替義務ノ如キ明默ノ管知法律ノ確定ナキ合意チナセシハ可成手形ヲ流通圓滑ナラシメントスル法律ヲ默認合意セシモノト推定スルチ得可キ也凡ソ商事ナルモノハ内國ノ一區劃ニ止マラスノ商社會ト云フ一ノ宏大ナル區域ニ跨リ此内ニ進入シテ合意チナスモノハ必ス其商社會ヲ紊乱スヘキモノニアラス夫レ國際私法ナルモノハ自國人ヲ保護スル爲メ外國人ニ對シ適用スル法律ヲ指定スル

モノ也仮リニ甲國ヲ裁判國トスレバ甲ヲ保護セン爲メニハ乙ニ對
 ノハ甲法ヲ適用スル方可ナルガ如キモ大ニ然ラハ甲ハ固ヨリ償還
 義務ヲ甘シタル人也此人ニ担保ヲ供セシメタリトテ甲ヲ保護セス
 ト云フモノニアラス若シ然ラスノ乙ノ權利ヲ薄弱ナラシムルハ
 甲國人ト爲替合意ヲナスノ人ナク商社會ニ隔絶セラレ大ナル不利
 益ヲ見ルニ至ラン夫レ商社會ト云フ一ノ自然區劃ハ各國互ニ勉メ
 テ圓滑保護ヲナシ置クコソ自國人ヲ保護スルノ途也故ニ乙ニ擔
 保要求權ヲ與フルハ乙ヲ保護スルガ如キモ却テ甲ヲ保護スルモノ
 也是レ合意ニ最大關係ヲ有スル國ノ法律ニ從フト云フ所以也
 問 甲國甲ガ爲替義務ノ保證人トナリタル場合ニ於テ乙國乙ナル所持
 人トノ間ノ事件ニ付テハ何レノ法律ニ依ルヘキヤ
 答 保證人ト所持人トノ合意ト見做シ何レカ一方ノ最大關係アル法律
 ニ從フヘキ也此二人ハ直接ノ合意ヲナセシニハアテザレテ手形ハ

順次流通移轉次第合意ヲ成立セシムルモノニ各當事者ハ后ノ生
 スル所ノ關係者トノ合意ヲ豫測セルモノニノ后者モ亦前關係者ノ
 申込ニ應セシモノタルニ外ナラサル也扱本問保證人ト所持人トノ
 間ノ事件ハ亦最大關係ヲ有スル法律ニ從フ可ク例ヘハ振出人ガ
 償還義務ヲ盡サ、ルニヨリ所持人ハ直ニ保證人甲ニ對シテ請求セシ
 ニ甲國法ハ保證人ハ檢索ノ利益ヲ有シ所持人ノ國法ニテハ商證人
 ハ總テ檢索ノ利益ナク連帶也トセン此場合ニ於テハ乙法ニ從フ可
 シ甲ハ何レノ法ニヨルモ義務ヲ免ル、モノニアラス只主タル義務
 者ニ后ル、ノ利益アル迄也然ルニ乙ハ檢索ノ規定ヲ受クルニ於テ
 ハ重大ノ關係アリテ商ノ安全迅速ヲ維持スルニ必要ナル方法アル
 ハ也
 問 甲振出人乙受取人二人異法國ナル約束手形ヲ甲ガ甲國ニ於テ作ル
 場合ニ乙國ノ法式ニ從テ作リタル時ハ甲國內ニ於テノ効力如何

答 爲替手形ハ私署證書也證書ハ總テ公正私署トテ開入テ作製地ノ
 方式ニ從テ是レ作製地法ニ此等ノ證書ヲ保護スルニ付テ十分完備
 三種々ノ保護法ヲ以テ完全ニ命シタルヲ以テ之ニ從テ始テ有効ナ
 ルモ亦也然レモ外國人自身ヲ作製スルモ亦ニ其入ニ對抗スルハ
 外國人ノ本國ニテモ可也然レモ爲替手形ハ此種ノ證書ニアラズ故
 ニ作製地方式ニ依ラサル可カラズ即チ甲ガ甲國內ニ於テ作ルニ
 甲國法ニ依ラサルカラス本問ハ作製者ガ作製國ニ在リテ作ルニ
 作製國法ニヨラズ進テ他國法ニヨラントスルモ亦ニ許スルハ
 アラス

問 前問甲ガ乙國ニ於テ作ルニ甲法ニ依ルルハ如何
 答 自身一人ガ作り自身ニ對抗セラルルニ證書ナルハ可ナルモ爲替手
 形ハ此種ノ證書ニアラズ故ニ作製地方ニ從テモ亦ニ許スルハ
 問 異國人二人ノ間ニ信用證券ニ於テ此合意ニ付キ默示ヲ表示ヲ以テ

管知法ヲ知り得ル場合アリヤ
 答 茲ニ甲國法ハ船荷證書ハ無記名發行ヲ許サス乙國法ハ之ヲ許セ
 然ルニ乙國船長ガ甲國荷主ニ對シ無記名式ヲ求メニヨリ之ヲ與
 アリ此場合ニ於テハ荷主甲ハ自國法ヲ捨テ乙國法ヲ奉センコトヲ默
 示ヲ以テ表明セシ也然ルニ若シ或ル部分ガ最大關係ヲ有セリトテ
 自國法ニ從ハントスルハ專横モ亦甚シクモノト云フ可ク許スヘキ
 ニアザサル也例ハ船荷證書ハ甲法ニヨレハ二十四時内乙法ニヨレ
 ハ四十八時内ニ發行スルモノナルニ二十四時内ニ受取ルコトガ如何
 ニ大關係ヲ有セリトテ自國法ヲ適用セントスルコトヲ得ス然レモ船
 長ノ責任例ハ少過失モ之ニ任ズルトカ荷物ハ外包ノマ、ニテ其
 中ニ付テハ負擔セストカ云フ如キハ別問題ニテ船荷證書作製ノ合
 意ハ別ケナリ何トナレハ運送契約ノ一部ナル船荷證書ニ付テノ
 ミ合意ヲ他國法ニ取リタリトテ全部他國法ニヨリ默示ヲ以テ云

ヲ能ハサル也故ニ右ノ黙示ハ只信用證券ノ流通効用等一切證券ノ活動ニ付テ乙法ニ依リタルノミト見ル可キ也

右例示ノ他甲國ニテハ約束手形ヲ無記名ニテ許シ乙國ハ許サズトセヨ甲ガ發行セル約束手形ヲ無記名ニテ乙ガ受取リタリトセハ乙ハ甲法ヲ遵由センコトヲ默表セルモノ也故ニ之ヲ他ニ手渡讓渡ヲナスコトヲ得ヘシ其他無記名式ヨリ生スル一切ノ効果甲法ニ從フヘキ也然レテ之レニ緣故ノナキ時効ノ如キハ別問題也

問 手形能力ニ付テハ何レノ國法ニ從フヤ例ハ甲國甲ハ自國法ニヨリ手形能力ナキモ作製地ニテ有能カナルハ如何反之作製地ニテ無能カナルモノガ本國法ニテ有能カナルハ如何
答 手形能力ハ一ノ結約能力也合意ヲナスノ能力也而テハノ能力ニ關シテハ本國法最モ完全實適ナルヲ以テ本國法ニ依ルヲ至當トス佛法系國ハ此主義ヲ取レリ然ルニ手形ニ關シハ況ク商社會ニ行ハル、

手以テ民事ニ比シ頻頻ナルニヨリ相手方ノ能力ヲ一々調査スルガ如キハ商ノ迅速安全信用ヲ害スルヲ以テ屬地主義ヲ取リ本國ノ能力ヲ有無ニ拘ラス作製地法ニ從フ英米法國是也然レテ此ノ如ク絶對ニ屬地主義ヲ取ルコトハ甚タ不都合也何トナレハ商人迅速信用安全ヲ保タンガ爲メニ一々能力ヲ調査スルコト能ハスト云フキハ商能力ナキモノ迄モ皆屬地主義ヲ取ルニ至ラン夫レ如此ナルヲ以テ英佛ノ他ノ歐洲諸國ハ之ヲ折衷シ本國法ト製作國法トノ二法ヲ用キ本國ガ有能カトセハ作製國法ガ無能カニテモ有能カトナシ本國ニテ無能カニテモ作製國ニテ有能カナルハ有効トス即チ何レ一方有能カナルハ有能カトス國際法協會モ此主義ニ決セリ是レ最モ商社會ニ於テ便益ナルガ如キモ法理上當ヲ得タルモノニアラス何者本國法ハ其人ニ適切ニシ其人ヲ保護スル爲メニ權能ヲ運用ヲ制限シタルモノヲ外國法ニテ之ヲ解クハ其人ニ不利益ナルヲ以テ

ス商社會ヲ壞乱スルノ基ヲ拓クモノト云フヘキ也去レハ本國法主義ヲ先ツ以テ當レリトスルニ若カス但シ萬國商法協會ニ加リタル列國ハ其積リニテ内國法ヲ編綴セバ且ニ害ナカラシムルコトヲ期ス

第四編 訴訟法

問 訴訟ヲナスニハ訴訟地ノ法ニ從フノ理由如何

答 訴訟ハ已人間ノ争件ヲ主權ノ關涉ヲ得テ之レカ曲直ヲ判斷スルモノ也然ルヲ明リニ法規ニヨラス判斷センカ主權ノ機關タル裁判所ハ意見ヲ濫用シ或ハ怠慢ニ或ハ過進ニ係争者ヲ害スルコト少カラシラン故ニ争訟裁斷法トシテ訴訟法ナルモノヲ規定シ裁判者争訟者共ニ之ヲ遵守セシムルハ國家主權行用上圓滑ニ訴訟迅速ニ國民共ニ幸福ナラン而テ其訴訟法ハ各自國ノ訴訟法ヲ以テ能ク其國ニ適セルトスルモ且是レ誠行法權ノ直接作用ニシテ公法ニ一部ヲナスモノ也去レハ外人ハ自國法ヲ適用セシムルニ非ズ秩序ニ關スルモノ

ナルニヨリ許ス人非ズ此法書次ヲ所テ執行法モ亦全ニ也外國ニ於テハ判決ハ我訴訟法ニ依リハ裁判所ノ執行判決ヲ要ス又和解調書ノ如キ公正證書ノ如キ仲裁判斷書ノ如キ是也

問 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フコト規定

ハ命令法ナリヤ隨意法ナリヤ及ヒ一人又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ本國法ニ從フコト得ルヤ何ソヤ
答 凡ソ證書ナルモノハ訴訟若クハ執行ヲ用ニ供スルモノニテ當事者ハ誠實ニ約シタルコトヲ誠實ニ履行スルコトヲ於テハ證書ナルモノハ作製スルヲ要スルモノトヒアラヌ依之看之證書ナルモノハ訴訟ヲナスニ當リ已存ノ事實ヲ明確ナラシムル爲メノ具也故ニ直ニ作ルモ日后作ルモ結局合意アリタルヲ表明スルニ外ナラヌ而テ證書ガ合意ヲ要素トシタル場合ハ全時ナルモ否ラサル場合ハ日后之ヲ作ルコト多クナルニキ也故ニ證書ヲ作ルニハ三場所ヲ研究セサルニカラ

ヲ能ハサル也故ニ右ノ黙示ハ只信用證券ノ流通効用等一切證券ノ活動ニ付テ乙法ニ依リタルノミト見ル可キ也

右例示ノ他甲國ニテハ約束手形ヲ無記名ニテ許シ乙國ハ許サズトセヨ甲ガ發行セル約束手形ヲ無記名ニテ乙ガ受取リタリトセハ乙ハ甲法ヲ遵由センコトヲ默表セルモノ也故ニ之ヲ他ニ手渡讓渡ヲナスコトヲ得ヘシ其他無記名式ヨリ生スル一切ノ効果甲法ニ從フヘキ也然レテ之レニ緣故ノナキ時効ノ如キハ別問題也

問 手形能力ニ付テハ何レノ國法ニ從フヤ例ハ甲國甲ハ自國法ニヨリ手形能力ナキモ作製地ニテ有能カナルハ如何反之作製地ニテ無能カナルモノガ本國法ニテ有能カナルハ如何
答 手形能力ハ一ノ結約能力也合意ヲナスノ能力也而テ人ノ能力ニ關シハ本國法最モ完全實適ナルヲ以テ本國法ニ依ルヲ至當トス佛法系國ハ此主義ヲ取レリ然ルニ手形ニ關シハ汎ク商社會ニ行ハル、

手以テ民事ニ比シ頻頻ナルニヨリ相手方ノ能力ヲ一々調査スルガ如キハ商ヲ迅速安全信用ヲ害スルヲ以テ屬地主義ヲ取リ本國ノ能力ノ有無ニ拘ラス作製地法ニ從フ英米法國是也然レテ此ノ如ク絶對ニ屬地主義ヲ取ルコトハ甚タ不都合也何トナレハ商ノ迅速信用安全ヲ保タンガ爲メニ一々能力ヲ調査スルコト能ハスト云フキハ商能カナキモノ迄モ皆屬地主義ヲ取ルニ至ラン夫レ如此ナルヲ以テ英佛ノ他ノ歐洲諸國ハ之ヲ折衷シ本國法ト製作國法トノ二法ヲ用キ本國ガ有能カトセハ製作國法ガ無能カニテモ有能カトナシ本國ニテ無能力ニテモ製作國法ニテ有能カナルハ有効トス即チ何レ一方有能カナルハ有能カトス國際法協會モ此主義ニ決セリ是レ最モ商社會ニ於テ便益ナルガ如キモ法理上當テ得タルモノニアラス何者本國法ハ其人ニ適切ニシ其人ヲ保護スル爲メニ權能ノ運用ヲ制限シタルモノヲ外國法ニテ之ヲ解クハ其人ニ不利益ナルヲミサラ

ス商社會ヲ攘乱スルノ基ヲ拓クモノト云フヘキ也去レハ本國法主義ヲ先ツ以テ當レリトスルニ若カス但シ萬國商法協會ニ加リタル列國ハ其積リニテ内國法ヲ編綴セバヨクニ害オカラシム

第四編 訴訟法

問 訴訟ヲナスニハ訴訟地ノ法ニ從フノ理由如何

答 訴訟ハ已人間ノ争件ヲ主權ノ關涉ヲ得テ之レカ曲直ヲ判斷スルモノ也然ルヲ切リニ法規ニヨラス判斷セシカ主權ノ機關タル裁判所ハ意見ヲ濫用シ或ハ怠慢ニ或ハ過進ニ係争者ヲ害スルコト少カラサラン故ニ争訟裁斷法トシテ訴訟法ナルモノヲ規定シ裁判者争訟者共ニ之ヲ遵守セシムルハ國家主權行用上圓滑ニ訴訟迅速ニ國民共ニ幸福ナラン而テ其訴訟法ハ各自國ノ訴訟法ヲ以テ能ク其國ニ適セルトスルモノ也是レ誠ニ行法權ノ直接作用ニシテ公法ノ一部ヲナスモノ也去レハ外人ハ自國法ヲ適用セシムルモノモ秩序ニ關スルモノ

ナルニヨリ許ス人等ニ非ズ此法書次ヲ所シ執行法モ亦全一也外國

ニ於テハ判決ハ我訴訟地ニ依リハ裁判所ノ執行判決ヲ要ス又和解調書ノ如キ公正證書ヲ如キ仲裁判斷書ニ類シ是也

問 公正證書及ヒ私署證書ノ方式ハ之ヲ作ル國ノ法律ニ從フコトノ規定

ハ命令法ナリ或ハ隨意法ナリヤ及ヒ一入又ハ同國人ナル數人ノ作ル私署證書ニ付テハ本國法ニ從フコトヲ得ルハ何ツヤ

答 凡ソ證書ナルモノハ訴訟若クハ執行ニ用ニ供スルモノニテ當事者

ハ誠實ニ約セタルコトヲ誠實ニ履行スルニ於テハ證書ナルモノハ作製スルヲ要スルモノトシテアラス依之看之證書ナルモノハ訴訟ヲナスニ當リ已存コト事實ヲ明確ナラシムル爲メノ具也故ニ直ニ作ルモノトシテ作ルモ結局合意アリタルコトヲ表明スルニ外ナラス而テ證書ガ合意ヲ要素トナル場合ハ全時ナルモ否ラサル場合ハ日後之ヲ作ルコトハ多クナルハキ也故ニ證書ヲ作ルニハ三場所ヲ研究セサルハカラ

ス曰合意國作製國訴訟國是也而テ訟訴國ハ被告人ノ住居國ナルモ
 ノナレハ后ニ亦變更スルアルヲ以テ豫見スルコト能ハス去レハ合意
 國カ作製國カノニケ也トス夫レ證書ハ合意アリタルコトヲ表明スル
 ノ具也必シモ合意國ノ法ニヨリ作ラズンハ効ナシト云フニアラス
 即チ證書其モノニ効力アルコソ必要ノコト也合意ノ有効無効ハ敢テ
 問フ所ニアラス證書サヘ有効ナラハ本問ハ可也作製地ハ證書作製
 上十分ノ器具備ハレリ其國ノ法律ハ完全ナル證書ヲ作ルニ完全ナ
 ル器具備ハレリ例ヘバ日本人佛國ニ於テ佛人ト合意ヲナシ此證書
 ナ作ルニハ佛國內ニ於テ作ルニハ佛法ニヨルチ完全トス若シ證書
 ナ今作ルヘキナレト取急キ居ル故ニ日本ニ到着セシキ作ルヘシト
 合意シ着港ノ上作ルニハ最早日本法ヲ適當トス是レ完全ノ器具ア
 レバ也即チ命令法タル所以也然レト二人ノ作ルヘキ證書又二人ニ
 アラサルモ全國人數人ノ作ル證書ハ本國法ニ從フモ可也是レ其人

ニ對シテ訴フルヲ以テ其人ノ本國法ニ從ヒタルモノナレハ本國法ニ
 於テ有効ナレバ又他ニ望ム所アラサル也要スルニ證書ヲ作ルトハ
 證書ヲ成立セシムルコトニシテ成立セシムルニハ要素アルヘシ要素
 ハ法律之ヲ指定ス然ルニ甲乙二國人ノ作ル證書ニ二國法ハ適用ス
 ルコト能ハス一方ヲ用キンカ一方ヨリ見レハ必ス欠素アラン如此ハ
 事實ヲ證明スルノ器ト云フ可カラス故作製國ニ於テ其法ノ示ス要
 素ヲ充タスハ完全ニ二人ニ取り不都合ナキ也然レト一人又ハ全
 國人數人ノ作ル證書ニハ右ノ不都合ナキヲ以テ本國法ニテ可也ト
 テシ也

問 訴訟國ヲ豫メ合意ヲ以テ約定シ置クコトヲ得ルヤ

答 此ノ如キ合意ハ無効ニシテ許ス可キニアラス凡ソ裁判權ナルモノハ
 主權ノ活動ニシテ自己ノ管内ニ私權ヲ有スルモノハ他裁判ヲナスヘ
 キモノニアラス去レハ本問ノ如キハ必ス住居ヲ變セサル可シ又必

ス其地ニ住居ス可シト云フコハ此ノ如キ合意ハ強制力ヲ有スヘキ
ニアラス何トナレバ永此土ニ住居スヘシト云フ意合ハ社交上公益
ヲ害スルモノニシテ不成立也又裁判ヲ受クル爲メニ他國ニ出張臨時
宿泊スルガ如キ人民ハ決シテ其裁判國カ裁判管轄ヲナスヘキニアラ
ス故ニ本問ハ到底不成立也次第四問參考

問 貴族ハ特別管轄ヲ受クルハ治外ノ効アリヤ例問セハ外國ノ皇族ガ
日本ニ住居セルキハ日本ノ皇族ト同裁判管轄ナルヤ

答 身分ハ其國家内ノ階級ニシテ外國ニ出テハ品位アルモノニアラス
一己平等ノ人也外國皇族ガ日本ニ於テ罪ヲ犯シ此ニ對スル私訴ノ
裁判ノ如キ我皇族ノ犯罪ハ第一審ニテモ大審院ナレバ外國皇族ハ
平人ト同一ナルヲ以テ普通裁判籍也

問 外國人ヲ證人トスルモ有効ナリヤ

答 訴訟事件ニ關シ證人トナル權利義務ヲ有スルモノハ裁判國ノ主權

ノ下ニ服従スルモノナラサル可カラス故ニ已ニ主權ニ歸化セハ證
跡立會ノ當時ハ外國人タルモ差支ヘナキ也扱何故ニ國民分限ヲ有
セサルヘカラサルヤ證人トシテ裁判所ノ命ニヨリ出頭シ其命ニヨリ
眞實ヲ述ヘンコトヲ誓ヒ若シ背クキハ刑罰ヲ受クル等一トシ主權ニ
服従スル義務ナラサルハナキ也外國人ハ此等ノ義務アルモノニア
ラス已ニ義務ナシトセハ偽證罪ノ主体タルコトヲ得ス參所ヲ肯セザ
ルモ不參ノ罰金ヲ言渡サルハモノニアラス此ノ如キ無責任ナル人
ノ言語ガ證言トシテ有効トナルヘキ筈ナシ只參考トシテハ或ハ可ナラ
ン故ニ條約ヲ以テ互ニ利益交換上證人トナルノ權能ヲ有セシムル
場合ハ格別否ラサレハ當然此レガ權能ナキ也何トナレハ證人トナ
ルノ權ハ公權ノ一種ナルヲ以テ私權ノ享有アリタリトテ證人トナ
ルコトヲ得サレハ也

問 外國人ヲ被告トシ民事訴訟ヲナシ得ル理由如何

答 我裁判所ニ外人ヲ被告トシテ訴テ起スニハ其外人ガ私權ヲ我國ニ享有セル場合ナラサル可カラス換言セハ訴訟ノ目的物が外國人ノ享有セル私權ナラサル可カラス故ニ身權ノ如キ享有ナキモノニ付テ被告トシテ訴フルコト能ハス只タ原告トシテ主張スルコトハ之ヲ許スヘキモ被告トシテ此權利ヲ裁判スルコトハ他國主權ノ權内ニアラサル也身權ノコトハ本國法ノ所管也故ニ國際私法ノ準則ニ曰ク人ノ身分能力云々本國法ニ從フト是レ私權ノ享有ノ取除ク也身分能力ノ部ニ細述セリ故ニ例ハ離婚ノ訴ノ如キ外人ヲ被告トシテ本邦裁判所ニ訴フヘキニアラス若シ然ラストセンカ日本ノ裁判官ハ外國行政ノ意ヲ知ラス明リニ外國法ヲ適用シ外人ノ身權ヲ害シ外國公益ヲ損スルニ至ル可シ故ナク此ノ如キコトヲナスヘキニアラサル也

問 甲乙兩國人が第三國在留中其國ニ訴テ起シ得ルヤ

答 本問ハ一方私權ノ享有アレハ本國人ト全等ナレハ國際私法ノ問題

トナルヘキモ双方享有アルカ双方享有ナキカナルニ於テハ國際私法ノ問題トナラス然レモ序次本章中ニ講スルコトハ利益也ト信スルニヨリ説述セン凡ソ主權ナルモノハ自己ノ管内ニ私權ノ享有ナキモノニ付テハ訴テ受ケサルコトハ理ノ明ナル所也萬國皆規定シテ曰外國人ハ絶對的ニ私權ヲ享有ストアレバ格別如此無駄奉行ノ律ヲナスモノアラサルヘシ何トナレバ主權ガ人民ヲ管轄スルハ服從ノ義務ニ對スル補償也之ニ對シテ保護ヲ與フル也住居權ニ保護ヲ與フルハ納税ノ義務アリ其他皆然リ然ルニ只裁判ヲ受ケンコトヲ目的トシテ舶來スルガ如キハ管轄スヘキモノニアラサル也裁判ハ私權ヲ保護スルノ方法也享有ナキモノヲ保護スルモノアラシヤ然レモ歐米獨國皆之ヲ許セリ尤モ私權ノ享有ハアルヘキ也佛國ハ被告人ガ故障ヲ述フル途ヲ與ヘタリ斯ハ被告人ニ選擇權ヲ與ヘタルモノニシテ理ノ許スヘキニアラス要スルニ私權ノ享有アラハ拒ムコトヲ得ス

問 甲國ニ於テ甲國人甲ト乙國人乙ト商取引ヲナシ價格五十圓以下ナルヲ以テ證書ヲ交附セザリシ后乙國ニ轉シ訴テ乙國ニ起セシニ乙國法ニ依レハ五十圓以下ナルモ即時ニ終ラサル取引ハ證書ヲ要セリ此ノ場合ニ於テ甲國人甲ナル賣主ハ賣渡代金ニ付キ證據トシテ帳簿ノミ也如何

答 取引成立ノ際ノ已得ノ權利ハ之ヲ害スルコトヲ得ストノ說ハ有力ナルモノ也

然レモ訴訟法ナルモノハ其國ノ秩序ニ關スルモノニシテ裁判所當事者共ニ遵守スヘキ所ノモノニシテ他法ヲ之ニ交ユルコトヲ得ス夫レ如此ナレバ本問甲ガ五十圓以下ナレハ人證ニテ請求スト主張スルモ乙國裁判所ハ之ヲ許スヘキニアラス若シ之ヲ許サンカ他國ノ訴訟法ヲ用ユルモノト云フヘキ也如何ニ已得權ヲ害セリトテ自國ノ秩序ヲ害スルコトヲ得ス是レ國際私法ナルモノハ自國人ヲ保護スル爲

メ外人ニ對シテ適用スル法律ヲ指示スルモノニシテ其準則ニ曰訴訟手續ハ之ヲナス國ノ法律ニ從フト

問 甲國甲ト乙國乙ト合意ヲナシ甲國法ニ依ルヘキコトヲ合意セリ而テ乙國ニ訴テ起シ時効ニ付テ爭ヲ生シタルニ甲法ハ時効ヲ實體法ニ規定シ乙法ハ之ヲ訴訟法ニ規定シタリ如何

答 實體法ハ私法也合意ヲ以テ左右スルコトヲ得訴訟法ハ公法也左右スルコトヲ得ス其他總テ前問答述ト同理由也

明治三十一年七月三日印刷
明治三十一年七月八日發行

(定價金五拾錢)

神奈川縣高坐郡溝村上溝二、九五四番地寄留

著者 古澤鶴松

全所 三、六一七番地

發行者 佐藤清次郎

全所 二、四九四番地

印刷者 高橋寶作

全所 三、四九三番地

全 築井愛資

全所 一、〇一七番地

全 練間清藏

全所 三、六三三番地

全 榎本儀兵衛

